

京都市基本計画審議会第3回融合委員会 次第

日時：平成22年2月2日（火）

午後3時00分～午後5時00分

場所：京都商工会議所3階役員室

1 開会

2 議事

（1）未来像の検討

⇒第2回融合委員会における議論の結果を基に作成した未来像（案）を検討

➤【資料1】未来像（案）

（2）重点戦略の検討

① 重点戦略の定義を確認

② 未来像を実現するための重点戦略を検討

➤【資料2】重点戦略（たたき台）

➤【参考資料1】重点戦略（たたき台）個表

➤【参考資料2】未来像，共汗部会及び分野別計画の対応表

（3）分野別方針（素案）について

⇒分野別方針（素案）イメージを共有

➤【資料3】分野別方針（素案）イメージ

3 事務連絡

⇒次回日程の連絡

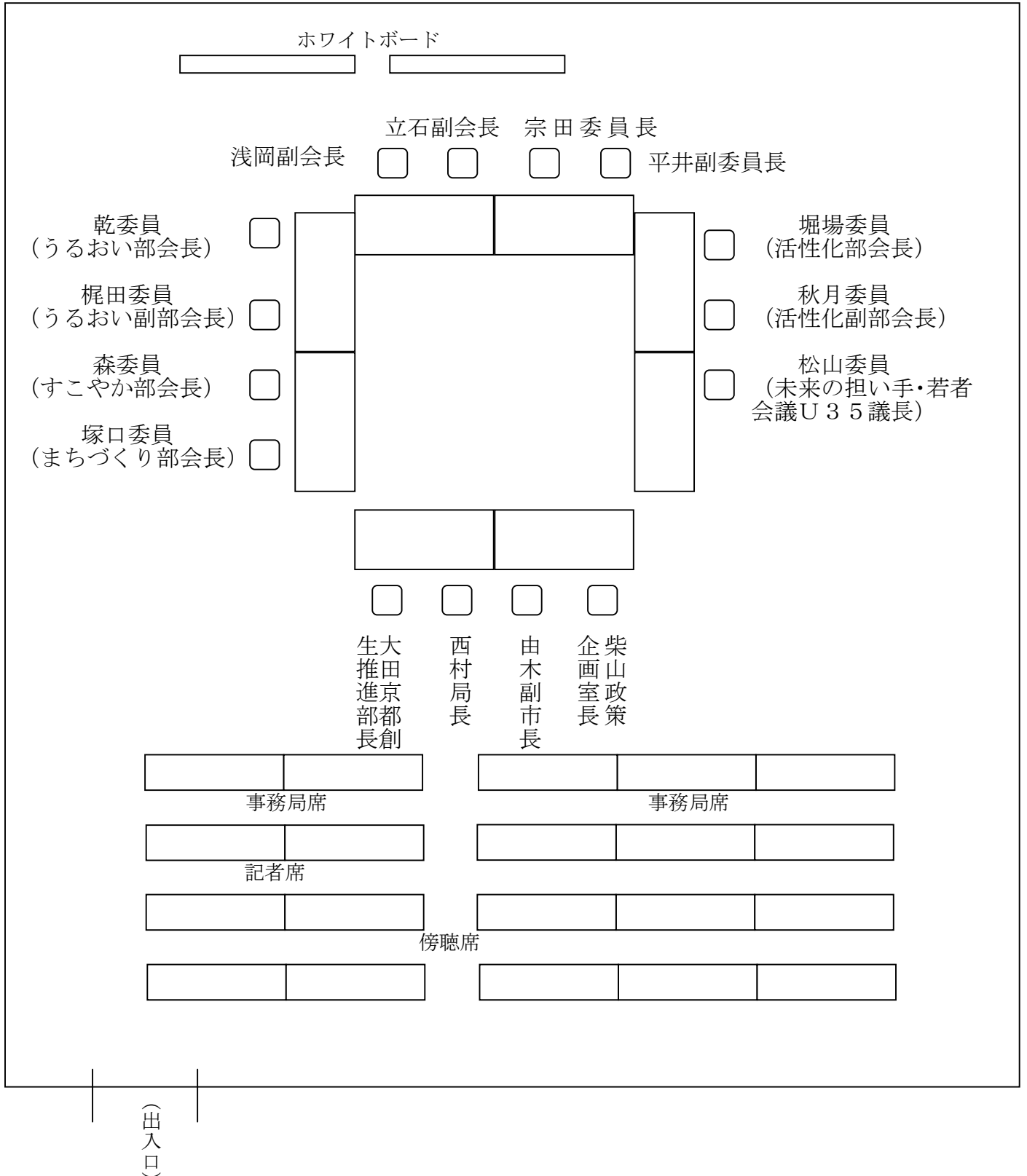
京都市基本計画審議会 融合委員会委員名簿

(50音順, 敬称略, ◎委員長 ○副委員長)

・	あきづき けんご 秋月 謙吾	京都大学大学院公共政策連携研究部教授
・	あさおか みえ 浅岡 美恵	NPO法人気候ネットワーク代表, 弁護士
・	いぬい こう 乾 亨	立命館大学産業社会学部教授
・	うえむら た え こ 上村 多恵子	詩人, 京南倉庫株式会社代表取締役社長
・	おいけ かずお 尾池 和夫	財団法人国際高等研究所所長, 前京都大学総長
・	かじた しんしょう 梶田 真章	本山獅子谷法然院貫主
・	たていし よしお 立石 義雄	京都商工会議所会頭
・	つかぐち ひろし 塚口 博司	立命館大学理工学部都市システム工学科教授
・	にいかわ たつろう 新川 達郎	未来の京都創造研究会座長, 同志社大学大学院総合政策科学研究科教授
・	にしおか しょうこ 西岡 正子	佛教大学四条センター所長・教育学部教育学科教授
○	ひらい せいいち 平井 誠一	京都市未来まちづくり100人委員会代表幹事, 株式会社西利代表取締役専務
・	ほりば あつし 堀場 厚	京都経済同友会特別幹事, 株式会社堀場製作所代表取締役会長兼社長
・	まつやま だいこう 松山 大耕	未来の担い手・若者会議U35議長, 妙心寺塔頭・退蔵院副住職
◎	むねた よしふみ 宗田 好史	次代の左京まちづくり会議座長, 京都府立大学大学院生命環境科学研究科(環境科学専攻)准教授
・	もり よういち 森 洋一	社団法人京都府医師会会長

(計15名)

京都市基本計画審議会 第3回融合委員会 配席図



第2回融合委員会の結果		
＜未来像＞	＜未来像・重点戦略を検討するために出されたキーワード＞	
A 低炭素*の京都をつくる *温室効果ガスの排出が少ない	A1 持続可能な低炭素のまちにする	a1
	A2 森を育てる	a2
	A3 地域の特性を活かしたコンパクトシティを目指す	a3
	A4 地下鉄など公共交通を優先する	a4
	A5 歩いて楽しむまちにする	a5
	A6 住みやすいまちにする	a6
	A7 歴史的景観を守り、活かす	b1
B 京都型経済モデルをつくる	B1 低炭素社会を先導する産業	c1
	B2 歴史と文化で新たな産業を生み出す	c2
	B3 文化と結びついた新たな産業を生み出す	c3
	B4 文化を守り、伝え、育てる	b2
	B5 京都ならではの質の高い観光を提供する	c4
	B6 財政の健全化を図る	c5
C 人材を育てる	C1 世界に発信するビジネスリーダーを育てる	d1
	C2 オピニオンリーダーを育てる	d2
	C3 地域を支えるリーダーを育てる	d3
	C4 京都への愛着や誇りを高める	d4
	C5 京都ファンを育てる	d5
	C6 大学・若者の力を引き出す	d6
D 協力社会をつくる	D1 共に支えあう社会にする	e1
	D2 子育てしやすいまちにする	e2
	D3 自律的な地域コミュニティを育む	e3
	D4 道徳・倫理観を大切にする	e4
	D5 市民参加を向上する	e5
	健康的に生きる	e6
	京都独自の生活様式を実践する	b3
	人々の交流を通じて新たな雇用を創造する	c6
	真のグローバル化	d7

a 低炭素*の京都をつくる

急速な地球温暖化の進行を止めるために、人為的な炭素ガス排出量の削減，化石燃料に依存しない交通，森林等の自然環境を守り，まち全体を持続可能な低炭素なまちにする。

*温室効果ガスの排出が少ない

b 京都の歴史・文化を継承・発展させるまちづくりを進める

京都が有する歴史，景観や文化，伝統が息づく生き方，暮らし方などの都市特性を活かして，都市格を磨き，市民が一層誇りを持てるまちにする。

c 京都型経済モデルをつくる

「低炭素社会を先導する産業」，「デザイン，味，水等，京都の伝統文化を活かした産業」，「観光産業」などが連鎖する新しい京都型経済モデルをつくる。

d 人材を育てる

社会全体で子ども，若者を育て，国際的ビジネスリーダーやオピニオンリーダー，地域の担い手など，様々な分野で未来を担う人材が育つまちにする。

e 協力社会をつくる

色々なところに参加できる仕組みが整い，みんなが無理なく少しずつ努力することで，市民参加を多面的に高め，自律的な地域コミュニティを育み，すべての人々が共に尊厳を認め合い，支えあう安心・安全なまちにする。

《未来像》

低炭素*の京都をつくる

急速な地球温暖化の進行を止めるために、人為的な炭素ガス排出量の削減、化石燃料に依存しない交通、森林等の自然環境を守り、まち全体を持続可能な低炭素なまちにする。
*温室効果ガスの排出が少ない

京都の歴史・文化を継承・発展させるまちづくりを進める

京都が有する歴史、景観や文化、伝統が息づく生き方、暮らし方などの都市特性を活かして、都市格を磨き、市民が一層誇りを持てるまちにする。

京都型経済モデルをつくる

「低炭素社会を先導する産業」、「デザイン、味、水等、京都の伝統文化を活かした産業」、「観光産業」などが連鎖する新しい京都型経済モデルをつくる。

人材を育てる

社会全体で子ども、若者を育て、国際的ビジネスリーダーやオピニオンリーダー、地域の担い手など、様々な分野で未来を担う人材が育つまちにする。

協力社会をつくる

色々なところに参加できる仕組みが整い、みんなが無理なく少しずつ努力することで、市民参加を多面的に高め、自律的な地域コミュニティを育み、すべての人々が共に尊厳を認め合い、支えあう安心・安全なまちにする。

論点1 重点戦略の定義

- ① 未来像を実現するために、特に優先的に取り組むべき政策
- ② 「京都らしさ、独自性」といった都市特性や強みを生かす政策
- ③ 行政だけではなく、市民や企業と「共汗」して推進する政策
- ④ 単一分野だけではなく、複数の行政分野を「融合」した政策

論点2 重点戦略の検討

《重点戦略》（案）

環境共生のまちづくりを進める戦略

産学公の連携により生み出した低炭素社会を先導する技術・産業、京都特有の環境にやさしいライフスタイルやすまい方を生かし、ごみ減量や再資源化を進め、自然との共生による持続可能な環境調和型のまちづくりを進める。

人と公共交通を優先する「歩くまち・京都」戦略

地下鉄を軸に、公共交通の利便性を向上させるとともに、歩く魅力にあふれるまちをつくり、持続可能な脱「クルマ中心」社会のモデル都市の形成を目指して、歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換を図る。

歴史・文化を活かした景観まちづくりを進める戦略

京都の有する歴史・文化が息づく建物、庭園、風景などを活かし、歴史的重層性を実感できる景観資産の保全・再生・創造や、自然環境と文化的資産が一体となった低炭素景観の創造による景観まちづくりを進める。

公民協働による活力と個性に満ちた拠点を創出する戦略

人口減少社会においても持続可能な都市構造への円滑な移行を実現するために、地下鉄をまちづくりに活かすという視点で、地下鉄の各駅をはじめとする公共交通の結節点に公民協働による多彩な地域拠点づくりを行うなど、それぞれの地域の活性化や個性に磨きをかけるまちづくりを進める。

観光スタイルと観光都市としての質を高める戦略

あらゆる分野の取組の融合により、滞在・宿泊型、歩く観光、ほんものとふれあう観光、市民のおもてなしなど、旅の本質を追求できる質の高い、世界が共感する観光都市を実現し、京都の都市特性を生かした世界に冠たる国際MICE都市へと飛躍する。

ソフトパワーを活かして新産業を創造する戦略

加速するグローバル化への対応を視野に入れて、国内における他圏域との連携を深めながら、京都が持つコンテンツ、デザインをはじめとするソフトパワー、産学公の人的ネットワーク、中小企業の高い技術力を活用し、環境・健康・観光などの分野において、付加価値の高い新産業を創造する。

未来の担い手を育成する戦略

大学のまち・京都の強みをはじめ、京都の「地域力」、「文化力」、「歴史力」を活かし、国際的ビジネスや地域づくりなど様々な分野で次世代の担い手となる人材を育成する。

先進的な子育て支援や教育など、子育てしやすいまちをつくる戦略

地域力を生かした子育て支援サービスや医療体制の拡充、仕事と家庭が調和し男女が共に子どもを育てる社会の構築、京都独自の先進的な教育環境の整備などにより、子どもを安心して産み育てることのできるまちづくりを進める。

地域コミュニティを再生する戦略

京都の最大の社会資本である地域コミュニティの活性化を図り、自主・自立的な地域経営を行政が側面から支援することで、社会的なつながりと地域における様々な居場所をつくり、安心して暮らせる地域づくりを進める。

少子・長寿社会における世代間交流を進める戦略

子どもから高齢者まで多世代が日常的に交流し、それぞれの社会的な役割を果たすことで、市民や地域ぐるみによる豊かな子育て、高齢者や障害のある市民の福祉の充実を進め、全ての人々が尊厳を持ち、生きがいを実感できるまちづくりを進める。

重点戦略(たたき台) 個表

目次

重点戦略	頁
1 環境共生のまちづくりを進める戦略	1
2 人と公共交通を優先する「歩くまち・京都」戦略	8
3 歴史・文化を活かした景観まちづくりを進める戦略	16
4 公民協働による活力と個性に満ちた拠点を創出する戦略	25
5 観光スタイルと観光都市としての質を高める戦略	29
6 ソフトパワーを活かして新産業を創造する戦略	34
7 先進的な子育て支援や教育など、子育てしやすいまちをつくる戦略	43
8 未来の担い手を育成する戦略	50
9 地域コミュニティを再生する戦略	59
10 少子・長寿社会における世代間交流を進める戦略	65

【凡例】

＜第1回融合委員会ワークショップ結果＞

- ・ 第1回融合委員会ワークショップで出された未来像，重点戦略を，21カテゴリーに分類
- ・ 重点戦略を「政策，施策レベル」及び「事業レベル」と思われるものに分類

（政策・・・市政の各分野における基本的な方針
施策・・・政策を推進するための個々の具体的な方針
事業・・・政策・施策を達成するための手段）

＜既定計画・策定中計画＞

- ・ 京都市において策定済又は現在審議されている関連計画等（策）・・・現在，旧計画を改定又は新計画を策定中

＜未来まちづくりプラン＞

- ・ 京都未来まちづくりプランに記載されている施策・事業

＜共汗部会＞

- ・ 各共汗部会における委員からの発言
例：活①・・・第1回活性化部会における発言

＜各種提言・発言＞

（点検）

- ・ 京都市基本計画点検結果報告書（平成19年12月）におけるこれからの重点テーマと方策

（研究会）

- ・ 未来の京都創造研究会から提案された4つの未来像の案

（100人）

- ・ 京都市未来まちづくり100人委員会（第1期：平成20年9月～平成21年9月）の13議題チームからの提案

（マニフェスト）

- ・ 平成21年5月～7月に，35歳未満の若者を対象として募集した「私と京都のマニフェスト」の入賞6作品の提案

（若者提案）

- ・ 未来の担い手・若者会議U35からの提案

＜基礎データ＞

- ・ 各種統計データ

<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
・持続可能な低炭素のまち京都 ・多様なサステナビリティを有するまち ・循環型で環境調和型のまち ・持続と健康のためのライフスタイル（LOHAS）をつくり出す都市 ・グリーンインフラ社会の実現 ・環境 NO. 1 都市 ・環境先進都市（環境先進都市として行動する京都へ、特に交通） ・食農の連携（一次産業）、地産地消 ・人と環境がやさしい京都 ・国際的な環境モデル都市 京都 ・楽しんでエコロジー ・歩ける、休めるまち・みちづくり	（京都モデル） ➢低炭素社会の京都モデルの創造による世界への貢献 ➢京都市の目標の明示（数値化） ・CO2 削減 ・再生可能エネルギーの活用 ➢環境と歴史・文化との融合 ・環境：先端技術、工夫された市民生活（ライフスタイル） ・歴史：文化：京都ならではの第1級の特徴 ・環境首都、文化首都 （大規模排出源） ➢大規模排出源対策 ・国の政策と地域の政策 ・高付加価値産業 （交通） ➢交通 ・歩くまち、トランジットモール ・自転車のなじむまちづくり ・公共交通機関で行きたいところに予測できる時間で ➢歩いてまちのよさを実感（景観、交通、文化、安心安全、にぎわい、バリアフリー、個性豊か） ➢地下鉄を中心とした交通 ➢交通社会の変化を実施する （生活） ➢室内、自動車 ・得になる取組 ・消費者選択 ・貧困者対策 ・家族への施策 ➢居住、建築物…景観 ・公共建築物から更新、改修 ・風の通るまちづくり ・緑のあるまちづくり ➢課題の生活化（身近な問題化） ・特に環境や景観、観光 （水・緑地）	➢市内の電気は50%以上自然エネルギーの利用（太陽光、風力） ➢ごみゼロへの挑戦（100%再利用） ➢バス・地下鉄でどこへでも誰でも行ける ➢市内の交通制限 ・時間（11～22時） ・エリア（旧市街） ・車種（電気自動車） ➢自動車の乗り入れ抑制（CO2抑制） ➢共有自転車のまちを推進（自転車シェアリング） ➢自転車マイレージ ➢グリーンインフラ（街路整備、河川 etc） ➢街路整備（緑のじゅうたんをひく） ➢地元食材の利用により、フードマイレージを下げる（CO2を下げる） ➢日本（世界）に誇れる京の食文化（京野菜、日本酒） ➢緑地の質的向上（構造的体系の目標化） ➢ごみの仕分けを地域住民のコミュニティビジネスにしてい ・生ごみ処理も ➢市民が企画する省エネルギー ➢環境の取組も幼児期より

	>環境←伝統的景観から ・近郊農業の復興 ・緑化は“農”と“鎮守の森”で十分 ・“庸” >自然環境に囲まれているという立地を大事にする施策推進 >水と緑をネットワークし、新御土居構想 （環境ビジネス） >環境と経済成長の連鎖を生む ・低炭素社会化を経済と技術イノベーションで生み出す >京都の食料自給率のUP（CO2を下げる） >先進的なエネルギーシステム >ネットワークの確立 （市民参加） >市民参加，NGO の関わり方 ・ひとづくり ・仕組みづくり ・実践 >京都市民の行動を形にする >若者（学生）ちょう（超）兵制度→農林，環境，福祉などに従事する >1 %アクションの取組 >観光客にも意識させる環境モデルの設置	
--	--	--

＜既定計画・策定中計画＞

計画名称	主な施策	主な事業・プロジェクト
「環境にやさしいライフスタイルを考 える市民会議」提言（策）	（提言骨子より） 「環境にやさしいライフスタイルの創造」に向けた12の視点 ・持たない幸せ ・「エコ」を楽しむ ・「エコ」で得する ・「絆」、「潤い」、「関係」の見直し ・「自然の流れ」に即して生きる ・「京都が大切にしてきたもの」を大切に ・京都を愛したい ・選べない悲惨 ・「豊かさ」の問い直し ・人づくり・教育・気付き ・社会のルール・情報提供 ・地域のイニシアティブ	提言の発展に向けて ・創造性によって生活の変化を促したい。 ・市民自身が主役を務めなければいけない。 ・「世界に通用するライフスタイルの京都モデル」
「木の文化を大切にするまち・京都」 市民会議（策）	次の3プロジェクトチームに分かれて、具体的施策を検討 （1）森と緑 （2）京都環境配慮建築物（CASBEE京都） （3）平成の京町家	
京（みやこ）の環境共生推進計画 （-2015）	※5つの長期的目標に、2～5の基本施策を掲げる （長期的目標） ①国際的連携と地域的取組により脱温暖化社会を目指すまち・京都 ②公害のない健康で安全な環境保たれるまち・京都 ③自然と共生し、うるおいと安らぎのあるまち・京都 ④ごみの減量化を進め、資源を循環的に利用するまち・京都 ⑤すべての主体の知恵と工夫と行動で環境を支えるまち・京都	（3つの重点プロジェクト） ①家庭・事業所における二酸化炭素排出量の削減 ②発生抑制・再使用を重視したごみ減量化の推進 ③自動車に過度に依存しないまちづくりの推進
京都市環境モデル都市行動計画 （-2050）	（1）人が主役の道づくり、まちづくりを目指す「歩くまち・京都」戦略 （2）「低炭素景観の創造」を目指す「木の文化を大切にするまち・京都」戦略 （3）DO YOU KYOTO? ライフスタイルの変革と技術革新	（1）自動車から公共交通と自転車への転換（MM施策、あるまち戦略、P&R、LRT導入検討等） （2）低炭素建築物の普及（CASBEE京都創設、平成の京町家開発） （3）市内産木材を活用した率直的推進（公共施設の木材化、間伐材の利用） （4）低炭素型ライフスタイルの転換（環境家計簿、エコポイント制度の導入）
新京都市循環型社会推進基本計画 （策）	①地域での連携、協働によるリデュース、リユース（2R）の推進 ②地域の特性を生かしたリサイクルの仕組みづくり ③環境負荷や経済性に配慮したエネルギー回収と適正処理システムの構築	（具体的な取組事例のうち、新規性のあるもの） ・事業者のごみ減量が経済的なメリットにつながるような仕組みづくり ・環境に関する意識が向上するような資源回収のモデル事業の実施 ・生ごみ・紙くずからガスを取り出すなどの、エネルギー回収

京都市一般廃棄物（ごみ）処理基本構想		
新京都市循環型社会推進基本計画（2010-2014）（策）	（新京都市循環型社会推進基本計画（仮称）策定に向けた提言について 中間まとめ） 具体的な取組 ①地域での連携，協働によるリデュース，リユース（2R）の推進 ②地域の特性を生かしたリサイクルの仕組みづくり ③環境負荷や経済性に配慮したエネルギー回収と適正処理システムの構築	
新京都市緑の基本計画（2010-2025）（策）	（新たな「京都市緑の基本計画」（素案）） 施策の体系 （1）周辺の山々と山すその緑の保全，マネジメント 自然環境や景観の保全 農林業の振興 （2）市街地の緑の保全，創出，活用 農地の保全と活用 社寺境内地等の民有緑地の保全 公園等の整備 道路の緑の整備 その他公共公益施設の緑化の推進 民有地緑化の推進 （3）水と緑のネットワークづくり 道路の緑のネットワーク 水辺の保全，創出，活用 地表面被覆の改善 （4）市民・事業者との協働による緑豊かなまちづくり 地球環境に資する取組の推進 緑の文化の継承 緑化推進啓発活動の展開 顕彰制度の充実 推進体制の整備 人材の育成	

<京都未来まちづくりプラン>

施策名称	事業名称
211 「DOYOUKYOTO?」プロジェクトの展開	21101 「DO YOU KYOTO?」プロジェクト
2125 万世帯を目標とする「環境家計簿」活用と全市あらゆる場での「市民エコアクション宣言」の推進	21201 「くらしの匠と進めるエコライフ・コミュニティづくり」事業
	21203 環境家計簿推進事業
	21204 こどもエコライフチャレンジ推進事業
213 環境負荷の少ないまちのモデルづくり	21301 「木の文化を大切にするまち・京都」推進事業
	21302 次世代自動車普及促進事業
	21303 森の力活性・利用対策
	21304 住宅用太陽光発電普及促進事業
	21305 エコドライブ推進事業
	21306 京の環境みらい創生事業
	21307 使用済みてんぷら油回収拠点の拡大
	21309 南部クリーンセンター第二工場建替整備
214 市役所の公用車をすべてエコカーか軽自動車に	21401 公用車への低公害車・低燃費車の導入
	21402 市バス車両への低公害車・低燃費車の導入
215 「もったいない」の心で進めるごみ減量化	215012R 型エコタウン構築事業の推進
	21502 リユースびん等の拠点回収
216 事業系ごみの減量化	21601 事業系ごみ減量，リサイクル促進普及啓発
	21602KES 認証取得の推進
	21603 環境に配慮した上下水道事業の推進
217 家庭系生ごみ等の分別収集や新たなエネルギーの生成	21701 生ごみ等の分別収集による新たなエネルギー生成モデル実験
	21702 コミュニティ回収登録団体の拡大
	21703 資源物回収拠点の在り方及び整備の検討
219 美しい京の「農」と森づくり	21901 農とふれあう総合体験型市民農園整備事業
	21903 「合併記念の森」創設事業
	21904 京の旬野菜推奨事業
	21904 京の旬野菜推奨事業
231 「世界で最も美しい都市・京都へ！」京の美観再生	23108 間伐材を活用した道路附属物の整備
	23109 山科区2万人まち美化作戦
	23110 大原野地域における不法投棄防止事業
	23111 大岩街道周辺地域の不法投棄根絶のための自然環境再生ネットワーク形成
232 まちなかにおける緑化の推進	23201 街路樹整備の推進（「道路の森」づくり）
	23202 市民の記念植樹奨励制度の創設
233 「花の名所・創生プロジェクト」の設置	23301 四季の花ストリートの創設
	23302 上京区花いっぱい運動の推進
	23303 山科区フラワーロード推進事業
	23304 山科区民花の回廊募金
252 水辺を守り，再生する取組	25202 「水共生プラン」の推進
	25203 市内河川と下流水域の水環境を守る下水の高度処理の推進
	25204 雨の日も水環境を守る合流式下水道の改善
254 文化・公園施設の整備	25404 宝が池公園スポーツ広場等の整備

	25405 街区公園の計画的整備
327 京野菜や京都産木材の振興	32705 京の山杣人工房事業
	32706 北山杉の里整備

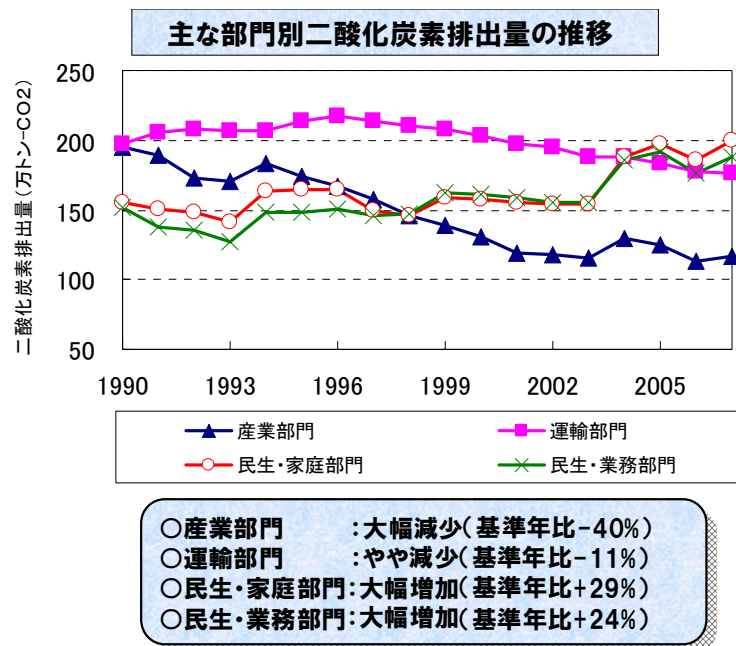
＜共汗部会＞

内容
・奥深さがあるから新しいこともやっていけるんだという環境の都市をつくりたい（う①）

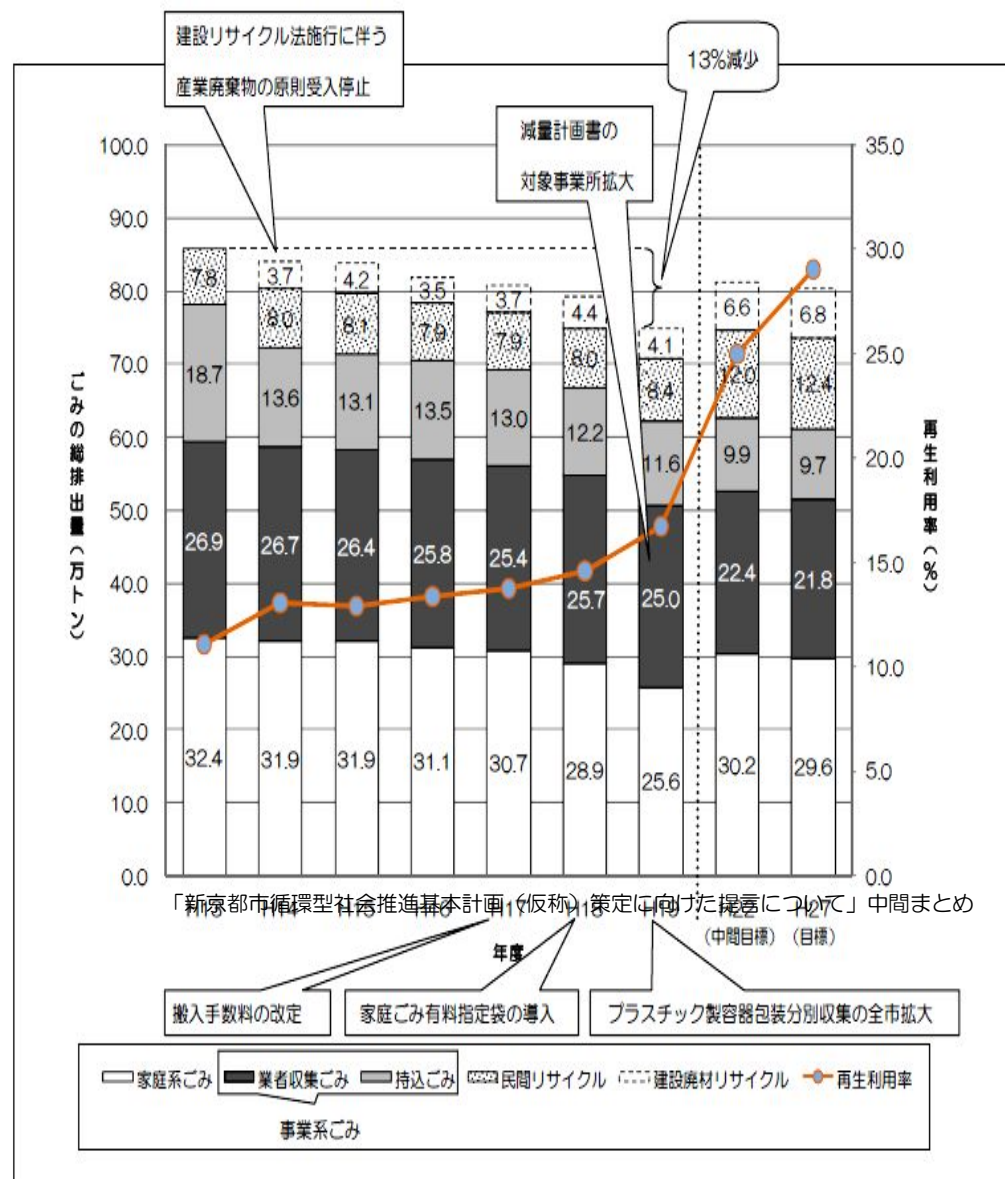
＜各種提言・発言＞

項目	内容
点検	・あらゆる政策の基本に「環境」の視点を
研究会	・京都らしさを活かした環境先進都市 ～環境を機軸に新たな京都型の生活・産業・観光・交通スタイルの開発～
100人	・山紫水明の京都 市民が「山紫水明」に触れ、考え、行動する機会を創出する。
マニフェスト	・緑と緑を愛する人で溢れるまち

●民生部門の削減が課題



●家庭のごみに比べ事業系ごみの減量が進んでいない。



<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
・地下鉄に乘ろう・環境-経営-健康-観光 ・地球にやさしい公共交通優先の歩いて楽しいまちづくり ・京（みやこ）流コンパクトシティ ・財政の健全化	（地下鉄を中心とした交通） ➢地下鉄を中心とした交通	➢バス・地下鉄でどこへでも誰でも行ける ➢自転車も乗れる地下鉄 ・モデル（赤字対策） ➢地下鉄の民間委託・東西線は京阪に、南北線は近鉄に ➢公共交通機関インフラ大改造（公共交通無料）
・多様なサスティナビリティを有するまち ・京（みやこ）流コンパクトシティ ・地球にやさしい公共交通優先の歩いて楽しいまちづくり ・歩いて楽しいまち ・老若男女国籍を問わず歩きやすいまちに ・環境先進都市（環境先進都市として行動する京都へ、特に交通） ・人と環境がやさしい京都 ・魅力ある玄関づくり、駅の拠点・ターミナル	（公共交通） ➢地下鉄を中心とした交通 ➢交通 ・歩くまち、トランジットモール ・自転車のなじむまちづくり ・公共交通機関で行きたいところに予測できる時間で ➢ネットワークの確立 （歩きやすい環境） ➢人にやさしい歩きやすい街路整備 ➢歩いてまちのよさを実感（景観、交通、文化、安心安全、にぎわい、バリアフリー、個性豊か） ➢交流する場所づくり ・それを結ぶ動線の充実 例）交通手段、道 （車の抑制） ➢車に乗らない観光が得になる条件をつくる ➢観光の一番の負のイメージである交通渋滞の解消 ➢自動車に不便なまち。自転車利用促進。歩くことで、生活習慣の変更 ➢観光客にも意識させる環境モデルの設置 （交通インフラ整備、活用） ➢広域的な社会資本整備 ・鉄道、道路、空港、港湾などへのアクセス ➢インフラの徹底的な活用 ・交通インフラの徹底的な活用 ・もし、交通インフラがなかったらどうなる？ ➢駅周辺の活性化	➢公共交通機関インフラ大改造（公共交通無料） ➢地下鉄の民間委託・東西線は京阪に、南北線は近鉄に ➢バス・地下鉄でどこへでも誰でも行ける ➢自転車も乗れる地下鉄 ・モデル（赤字対策） ➢京（みやこ）パスポート ・寺社仏閣 ・公共交通 ➢交差点座標化 ➢みちの統合的景観整備 ➢広場 ➢駅、公園 ➢交通手段の整理（空間整理、バス停） ➢交通行動のスムーズ化（サイン計画、情報） ➢観光行動拠点 ➢共有自転車のまちを推進（自転車シェアリング） ➢自転車マイレージ ➢自動車の乗り入れ抑制（CO2抑制） ➢市内の交通制限 ・時間（11～22時） ・エリア（旧市街） ・車種（電気自動車） ➢本当に機能するパークアンドライド ➢観光地に車を入れない（周遊バス）
・財政の健全化 ・生涯安住の都市 ・市役所からCity Hallへ	（地域分権） ➢地域分権 ・分権とは何かをじっくり考える	

・行財政改革における支出削減だけでなく、収入を増やす視点も必要	・地域で地域を運営 →金と決定権限を移譲する ➤市民が参加する行政 区-学区-町内会の位置づけ再構築 ➤市のあらゆる施策が市民にひらかれている (地域活性化) ➤公民協働の多彩な「地域プロジェクト」の創生 ➤東京一極集中に対峙する情報発信で日本への貢献 ・マスメディア ・観光客 5000 万人に直に伝える ➤雇用は地域活性化につながる ・中長期の施策・プロジェクトを示し、中小企業の投資意欲を引き出し、活性化 (財政基盤強化) ➤財政基盤づくり ・不採算部門の民営化 ➤寄付文化の醸成戦略	➤ホテル・宿泊税等の新たな税収制度の導入 ➤財政健全化のための民間資金導入・レベニューボンド、新 P F I 方式など ➤地下鉄の民間委託・東西線は京阪に、南北線は近鉄に
--	--	--

＜既定計画・策定中計画＞

計画名称	主な施策	主な事業・プロジェクト
京都市高速鉄道事業経営健全化計画 (2010-2014)	主な健全化策 収入増加策 ① お客様増加策の実施 ② 駅ナカビジネスの拡大 ③ 所有資産の有効活用 ④ 運賃改定 コスト削減策 ① 総人件費の削減 ② 地下鉄設備の更新期間の延長 ③ 経費の削減 ④ 高金利建設企業債の借換等による利息負担の軽減 一般会計の支援と国への要望 ② 三セク区間の直営化に伴う一般会計からの新たな出資 ③ 高金利建設企業債の借換制度の拡充	・「二条」「三条京阪」の駅周辺開発の促進や、沿線への大学や集客施設の誘致 ・地下鉄駅の空きスペース等を有効に活用する「駅ナカビジネス」の拡大
京都市自動車運送事業経営健全化計画 (2010-2014)	主な健全化策 収入増加策 ① お客様増加策の実施 ② 所有資産の有効活用 コスト削減策 ① 総人件費の削減 ② バス車両の耐用年数の大幅な見直し ③ 経費の削減 ④ 定期観光バス事業からの撤退 一般会計の支援と国への要望 ① 生活支援路線補助金の縮減 ② 市バスの購入費に対する補助金の縮減	
「歩くまち・京都」総合交通戦略	①公共交通利便性向上施策 ②コミュニケーションを中心としたモビリティマネジメント施策 ③「歩くまち・京都」を支える歩行空間の充実 ④未来の公共交通の充実 ⑤自動車交通の効率化と適正化 ⑥パーソナルモビリティとライフスタイルの転換	・都心主要道路（四条通，東大路通等）における歩行空間の拡大と充実 ・新たな公共交通システムの導入検討 ・パーソナルモビリティとライフスタイルの転換
京都市交通バリアフリー全体構想	2 バリアフリー化推進に係る基本方針 （1）段差解消を優先したバリアフリー化の推進 （2）移動制約者の特性を踏まえたバリアフリー化の推進 （3）利用者の意向に配慮したバリアフリー化の推進 （4）「心のバリアフリー」の推進	
京都未来まちづくりプラン (2009-2012)	政策推進プラン (1)いのちを大切にする (2)環境への高い志を共有する	融合モデル（案） 市民のいのちと暮らし，安心・安全を支える施策（セーフティネット）

	(3) 知恵を活かし、活力を高める (4) ひとを育て、まちを元気にする (5) 刷新し、市役所を変える 行財政改革・創造プラン ■推進項目1 行政運営手法の改革 ■推進項目2 歳出構造の見直し ■推進項目3 歳入の確保 ■推進項目4 市民サービスの改革 ■推進項目5 庁内の改革 ■推進項目6 公営企業・特別会計の改革 ■推進項目7 外郭団体の改革	① 障害のある市民の就労支援 ② 社会全体で取り組む「食」の環境づくり ③ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進 ④ 人にやさしいまちづくり（サービス・建築物等）の促進及び情報提供 ⑤ 自主的なまちづくり活動の促進による地域コミュニティの活性化 ⑥ 雨に強いまちづくり 地球温暖化対策，低炭素社会の構築に資する施策 ① 商店街を拠点にした「環境にやさしいお買い物のまちづくり」モデル ② 資源の再利用化の促進 「歩いて楽しいまち」の実現と地下鉄，市バスの増収・増客に寄与する施策 ① 「歩いて楽しいまち」で京都力向上 未来の京都への先行投資，京都の新たな魅力を創出する施策 ① 放課後の子どもたちの居場所づくり ② 子ども・若者・家庭の総合支援 ③ 京都の強みを活かしたコンテンツ産業の育成
--	--	---

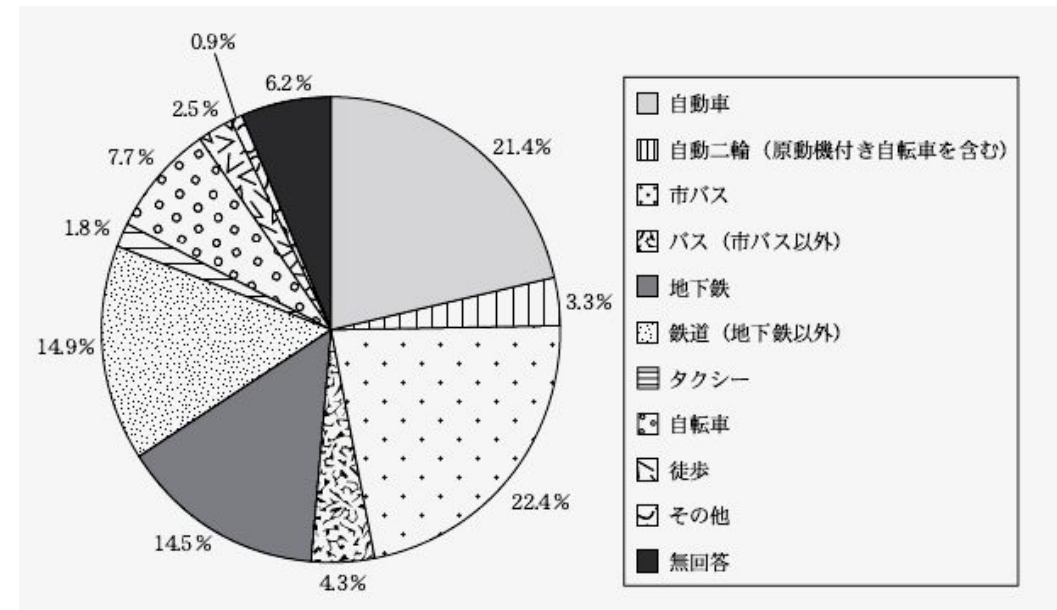
<京都未来まちづくりプラン>

施策名称	事業名称
123 ユニバーサルデザインの推進	12309 交通バリアフリー基本構想に基づく駅周辺道路のバリアフリー化の推進 12310 市バス車両への低床型車両の導入
161 幹線道路網・橋りょう・鉄道の立体交差化	16105 踏切道の改良推進
221 歩いたり、自転車で歴史や伝統を感じることができるまちづくり	22102 「歩いて楽しい東大路」歩行空間創出事業 22105 歩いたり、自転車で歴史や伝統を感じることができるまちづくり 22106 「歩いて楽しいまち」「にぎわい商店街」づくり
222 公共交通機関の利便性向上と新たなネットワーク化	22201 「歩くまち・京都」総合交通戦略の策定・推進（総合交通戦略の策定、LRT の検討等） 22202 歩くまち・京都地下鉄増収・増客に向けた全市的取組の推進 22204 市バスへの IC カード（PiTaPa）の導入 22205 市バスの急行運行路線の運行 22206 市バス走行環境の改善 22207 市バスの路線・ダイヤの改善
223 環境に優しく利便性の高い交通システムの検討	22302 歩いて楽しいまちなか戦略 22303 自動車交通抑制対策（観光地等交通対策、モビリティ・マネジメントの推進） 22304 交通バリアフリー基本構想に基づく駅施設等のバリアフリー化の推進 22306 「歩くまち・京都」総合交通戦略の策定・推進（総合交通戦略の策定、LRT の検討等）（再掲）
242 伝統ある「京町家」再生のため限界に挑戦	24202 京町家まちづくりファンドを活用した京町家の保全・再生
561 未来の京都をつくる徹底した行財政改革・創造	56110 市バス事業の経営健全化 56111 地下鉄事業の経営健全化

<共汗部会>

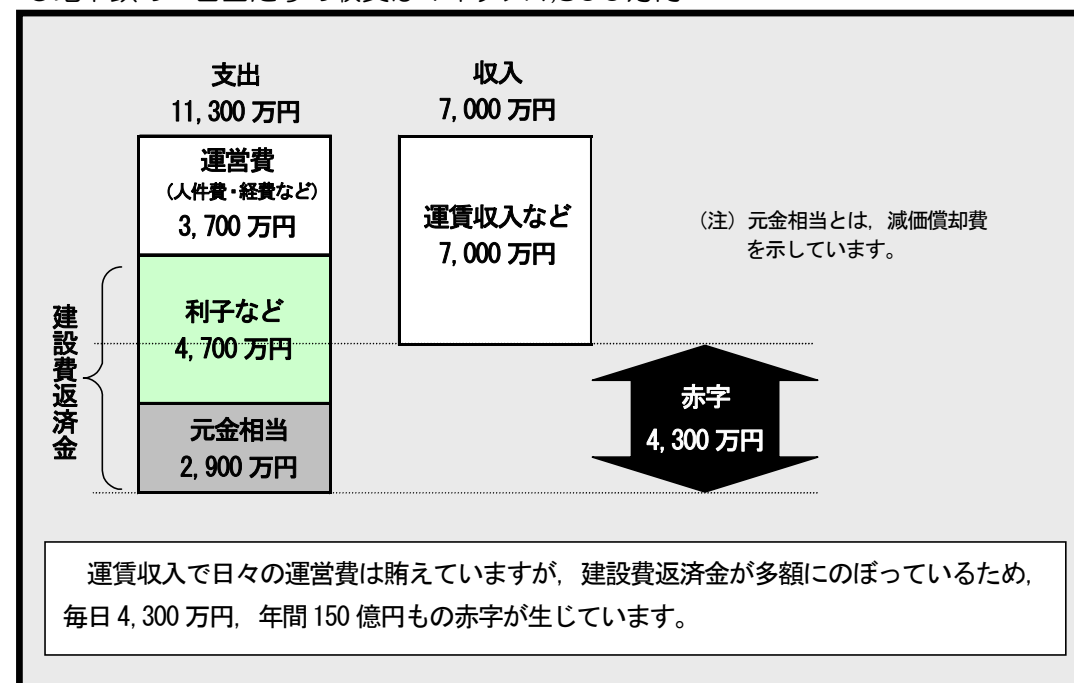
内容
・公共交通は赤字であることを前提に、どう市民の足を確保するのかということを考えていくことも大切（ま①） ・あまりお金を使わずに皆で知恵を出し合ってやっていけることを考えることが必要（う①） ・土地利用と公共交通の将来像を市民に示すとともに、一緒に考えることが必要。（ま②）

●都心部への移動手段は公共交通機関が5割以上



（資料）平成18年度第3回市政総合アンケート結果

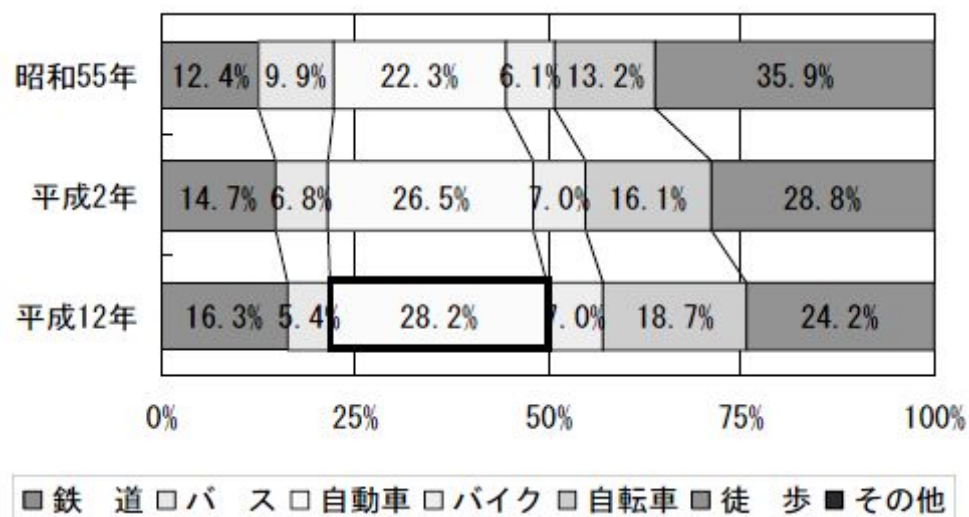
●地下鉄の一日当たりの収支はマイナス4,300万円



<各種提言・発言>

項目	内容
点検	・もっと市全体の交通システムの整備を ⇒公共交通の利用促進を ⇒交通需要管理施策（TDM）の推進を ⇒「歩いて楽しいまちなか戦略」の実現を ・もっと市民と行政がともに拓く新時代へ ⇒引き続き、選択と集中を ⇒市民の目線に立った行政評価の充実を ⇒職員の意識改革とやる気を高める工夫を
研究会	・京都市らしさを活かした環境先進都市 ～環境を機軸に新たな京都型の生活・産業・観光・交通スタイルの開発～
100 人	・歩きやすい道 「歩こう」と思える京都のまち そのような「歩きやすい道」を獲得するために市民ができること ・のりもの - 安全で快適な交通環境をつくる。更なる環境良化をはかる。交通財政の健全化を ・京都の無駄を斬る六人の侍 - 地域主権の時代にふさわしい地方自治・京都に 相応しい<住民自治>の実現 - 安心・安全を基礎とする、<住みやすい・住んでよかった、住んでみたい>京都の実現 - その財政的基礎となる京都に相応しい<都市経営>の確立 『京都未来まちづくりプラン』の完全実施 100 人委員会からの提言が実行できる<京都市政>の実現

- 交通手段分担状況は自動車の分担率が増加（H12：28.2%）し、バスと徒歩が減少

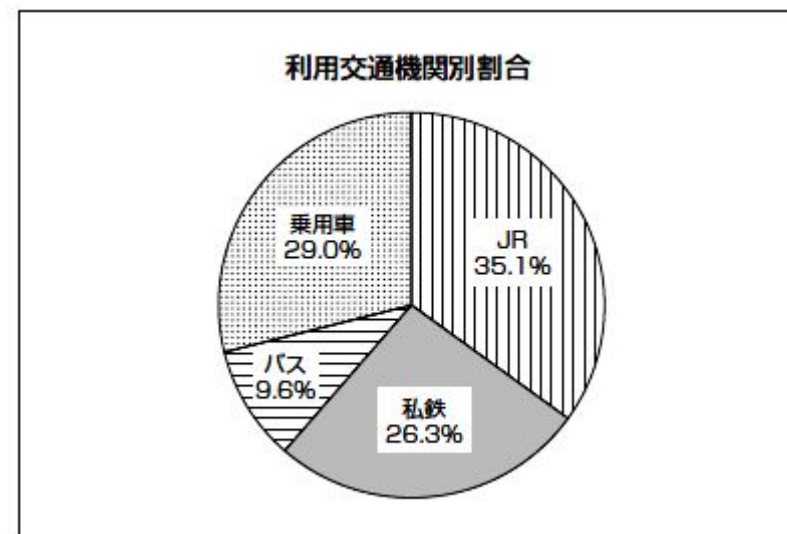


※構成比については単位未満を四捨五入しているため、総数と内訳の合計が必ずしも一致しない。

（資料）第4回京阪神都市圏パーソントリップ調査（PT調査）

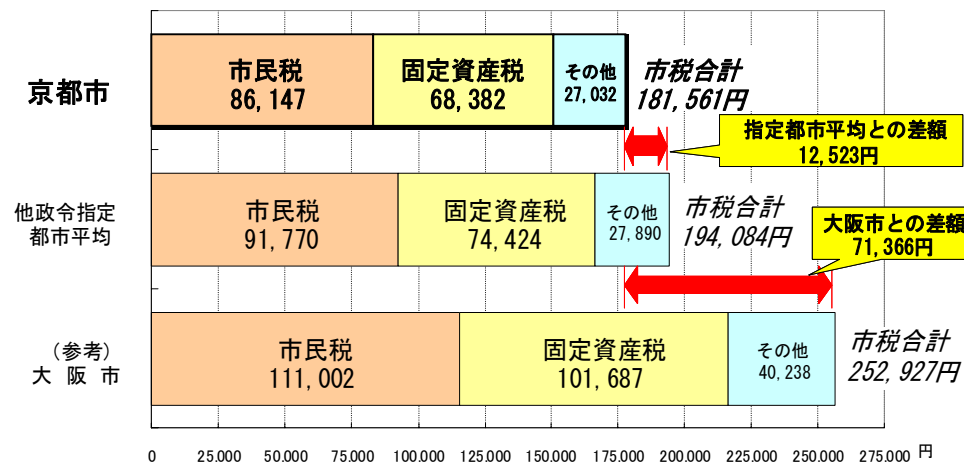
図 6-1 京都市における交通手段分担

- 観光客の29.0%が乗用車で入洛



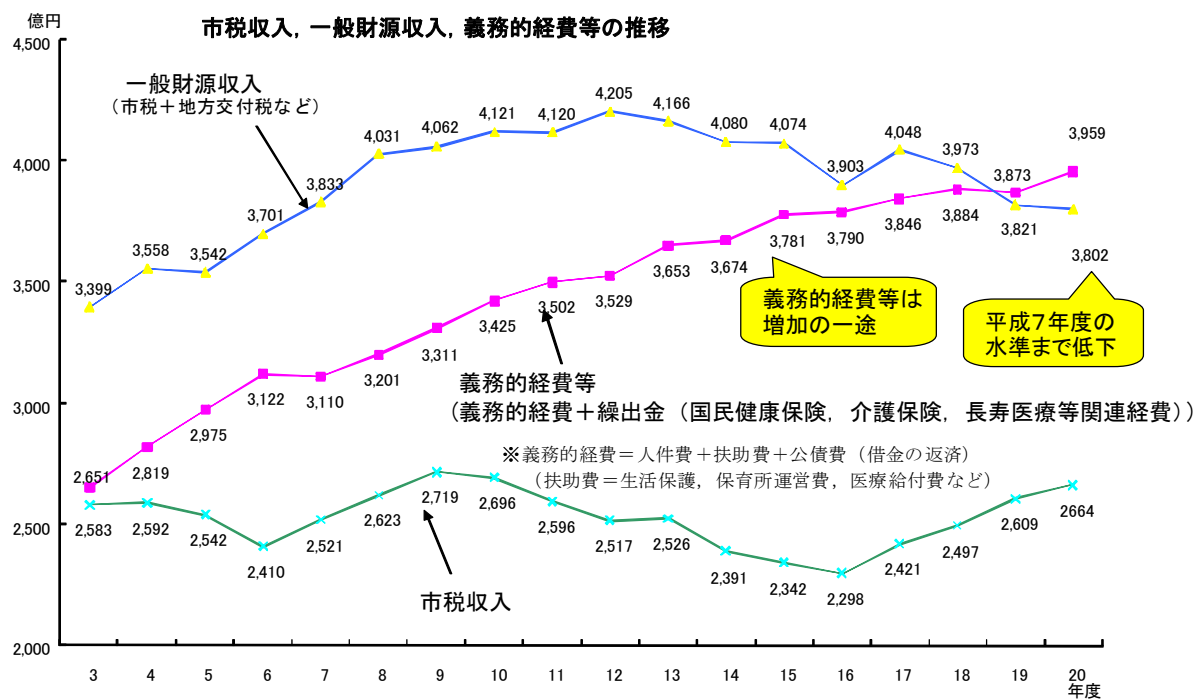
●極めて弱い京都市の財政基盤

市民一人当たり市税収入(平成20年度決算)



差額 12,523円 × 京都市人口 147万人
 = 約 184 億円もの差

●収入の減少と義務的な経費の増加



<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
・五感で京都らしさを感じるまち ・街全体を世界遺産に ・都市の遺産を守り抜く美しく風格のあるまちづくり・ひとづくり・ものづくり ・平安から現代までの歴史が体现できる都市 ・経済と景観の両立 ・美しい町・人・景観 ・国際的な環境モデル都市 京都	（新景観政策の推進） ➢国家戦略としての京都創生へ ➢新景観政策の精緻的見直し ➢景観政策の推進 （景観資源の保全・活用） ➢世界遺産の活用 ➢社寺仏閣、京町家等の保全 ➢町家の活用 ➢京町家の保全・再生（次世代継承システム） ➢徹底した「らしさ」の保存と開発 ➢＜融合＞歴史遺産を現代に継承する人材育成（教育・産業） （歴史的景観の基盤とネットワーク） ➢各時代の歴史遺産の保全・再生とネットワーク（国家予算、民間ネットワーク） ➢歴史的都市基盤の保全・整備（都市計画、住宅、道路、建築指導、景観の融合） ➢歩いてまちのよさを実感（景観、交通、文化、安心安全、にぎわい、バリアフリー、個性豊か） ➢ばったん床机が似合う道づくり戦略 ➢無電柱化 ➢商いや物づくり（職人）が成り立つ制度改革（地域、建物） （生活景） ➢居住、建築物…景観 ・公共建築物から更新、改修 ・風の通るまちづくり ・緑のあるまちづくり ➢京都ならではの暮らし ➢ヒトがつくる景観 ・市内小中学校の制服を着物に ・僧侶の方は辻へ （緑地景観） ➢環境←伝統的景観から ・近郊農業の復興 ・緑化は“農”と“鎮守の森”で十分	➢景観保全にメリハリをつける。一律規制の緩和 ➢ハード面の景観 ・看板の罰則規定を ・消防法の特別措置による木造建築の普及 ➢文化財の保存・復興、歴史博物館の建設 ➢伝統文化の継承・復興。伝統芸能センターの整備 ➢歴史的景観の保全・整備 ➢市内の真ん中に「わたしのしごと館」をつくる ➢京都府民の日＝7月17日 休日に ➢伝統を支える人たちと若者のふれあい、交流の場の設置 ➢京都のランドマーク・象徴になるものを作る（100年単位で） ➢平成の京町家 ➢グリーンインフラ（街路整備、河川 etc） ➢街路整備（緑のじゅうたんをひく）

・「京都スタイル」な暮らし方を発信・実践する都市 ・京都の多様性を活かした町づくり ・日本、そして世界の人々を魅了する歴史都市，創造都市(京都を訪れたい・京都で学びたい・京都で働きたい・京都で暮らしたい) ・1200年が見えるまち(過去の遺産を生かす，歴史がみえる形に) ・日本のふるさと京都を世界に発信 ・京都に愛着や誇りを持てる市民であふれる ・世界文化自由都市ーやすらぎのある，華やぎのある，訪れて良し，住んで良しの京都 ・大人が元気に暮らせるまち，住み心地度の高い街(文化度だけでなく)，伝統産業，伝統文化を大切にするまち(お金で買えない文化の蓄積) ・京人(みやこびと)が営む	(京都らしさの深化) ➢京都の伝統文化，伝統産業，伝統芸術をつなぐ体制をつくる ➢徹底した「らしさ」の保存と開発 ➢宗教の説法，哲学の講義に毎日気軽に触れられる ➢人々の交流，学びの場，拠り所としての寺院 ➢京都ならではの暮らし (京都らしさの展開) ➢国家戦略としての京都創生へ ➢東京一極集中に対峙する情報発信で日本への貢献 ・マスメディア ・観光客 5000 万人に直に伝える ➢環境と歴史・文化との融合 ・環境：先端技術，工夫された市民生活(ライフスタイル) ・歴史：文化：京都ならではの第1級の特長 ・環境首都，文化首都 ➢寄付文化の醸成戦略 (コミュニティ活性化) ➢ライフスタイルの変革を地域コミュニティの活発化によって実現する ➢多様な京都の個性が元気なまち(大学，企業，宗教施設，文化) ➢多文化共生，精神の自由(人権)⇔責任 (ひとづくり) ➢教育の充実，「京都人の育成」 ➢グローバル人材育成戦略① ・京都の文化や歴史的なバックグラウンドを理解し，地元の文化に誇りを持ち，責任ある社会人としての行動を心がけることのできる人材を養成する教育環境を初等・中等教育からスタートさせる。 ➢モラル・マナー向上戦略	➢日本(世界)に誇れる京の食文化(京野菜，日本酒) ➢伝統芸能・伝統行事等の担い手育成，門掃き，水まき等の伝承 ➢手入れをして一生使える道具の提唱 ➢伝統を支える人たちと若者のふれあい，交流の場の設置 ➢京都ならではの教育(特に初等教育) ➢未来の京都を担う子ども，若者への郷土愛育成プログラム(京育)
・国際文化観光都市として成熟した都市へ ・芸術文化都市 ・五感で京都らしさを感じるまち ・人が集い，学び・住み・はたらく創造し続ける文化自由都市・京都 ・日本中・世界中から人が集い交流する文化都市 ・歴史都市(歴史や伝統文化を守り，伝え，育てる)	(融合による文化創造) ➢多様な京都の個性が元気なまち(大学，企業，宗教施設，文化) ➢環境と歴史・文化との融合 ・環境：先端技術，工夫された市民生活(ライフスタイル) ・歴史：文化：京都ならではの第1級の特長 ・環境首都，文化首都 ➢多文化共生，共助ネットワーク，歴史文化体験 (伝統文化，芸術文化)	➢基本計画で「京都スタイル」な暮らし方モデルを提案 ➢京都検定から，体験型の京都通認定をして，多様な体験をしてもらう ➢わかりやすく合理的な情報発信 ➢文化の情報発信の集約化 ➢祭礼の復興 ・“元”のやり方に戻す。 例) 祇園祭を2回に ・祭日は小中学校を休みに ・祭の参加について，大学の単位認定

・ GHH（グロス，人間，幸福）NO.1の都市（文化を保てる・住んで良かった） ・ 文化が商売になるまち ・ 人を育てるまち，日本文化のまち ・ 大人が元気に暮らせるまち，住み心地度の高い街（文化度だけでなく），伝統産業，伝統文化を大切にするまち（お金で買えない文化の蓄積） ・ 食農の連携（一次産業），地産地消 ・ グローバルな視点でリーダーシップが取れる優秀な人材を養成・輩出できる都市づくり	➢ 国家戦略としての京都創生へ ➢ 徹底した「らしさ」の保存と開発 ➢ 京都の伝統文化，伝統産業，伝統芸術をつなぐ体制をつくる ➢ 宗教の説法，哲学の講義に毎日気軽に触れられる ➢ 人々の交流，学びの場，拠り所としての寺院 ➢ 芸術文化を産業に ・ 京都で芸術活動を行い，芸術活動が楽しめる条件づくり ・ 観光との連携，施設整備，活動支援，海外交流 ➢ <融合>文化芸能振興 （生活文化，若者文化） ➢ 生活文化を伝える ➢ 若者文化の創造，発信の拠点と芸術文化のサポート。創作，発表の場やスペースの確保 （文化拠点，環境） ➢ 拠点づくり（ex 岡崎，北山 文化ゾーンとして再整備。公共空間，緑，情報） ➢ 歩いてまちのよさを実感（景観，交通，文化，安心安全，にぎわい，バリアフリー，個性豊か） （ひとづくり） ➢ 京都以外では日本文化，工芸などの衰退が激しい。京都だけでも守っていける仕組み⇒人材育成 ➢ グローバル人材育成戦略① ・ 京都の文化や歴史的なバックグラウンドを理解し，地元の文化に誇りを持ち，責任ある社会人としての行動を心がけることのできる人材を養成する教育環境を初等・中等教育からスタートさせる。	→コミュニティ再生，産業再生（伝統）観光につなげる ➢ 京都府民の日＝7月17日 休日に ➢ 一子相伝のものづくりなど ➢ 「ほんまもん」づくりの継承 ➢ 伝統芸能・伝統行事等の担い手育成，門掃き，水まき等の伝承 ➢ 手入れをして一生使える道具の提唱 ➢ 日本（世界）に誇れる京の食文化（京野菜，日本酒） ➢ 京（みやこ）パスポート ・ 寺社仏閣 ・ 公共交通 ➢ 若者文化パスポート（パリの街） ➢ 文化財の保存・復興，歴史博物館の建設 ➢ 伝統文化の継承・復興。伝統芸能センターの整備 ➢ 市内の真ん中に「わたしのしごと館」をつくる ➢ 京都のランドマーク・象徴になるものを作る（100年単位で） ➢ 日本人の共同墓（塔？）のデザイン公募 ➢ 歴史的景観の保全・整備 ➢ 京都の文化を幼い頃より養う ➢ 伝統を支える人たちと若者のふれあい，交流の場の設置 ➢ 修学旅行生のホームステイ
---	---	---

<既定計画・策定中計画>

計画名称	主な施策	主な事業・プロジェクト
新京都市景観政策	新景観政策 5つの柱と支援策 ・建物の高さ ・建物等のデザイン ・眺望景観や借景 ・屋外広告物 ・歴史的な町並み ・支援制度	
京都市景観政策検証システム（策）	①京都市景観まちづくり白書（仮） ・新景観政策の個別施策の進捗状況や成果を、一定期間ごとに分かりやすく報告 ②京都市景観インデックス（景観版D I）（仮） ・新景観政策にまつわるまちの現況を指数化して提示 ③都市の価値地景観政策の関係性分析 ・京都市の都市の価値に対する景観政策の影響を把握	
京都市歴史的風致維持向上計画（2009-2018）	（基本方針・・・次のまちづくりを推進） ①歴史的建造物を守り育て、それを活かしたまちづくり ②歴史都市・京都にふさわしい風情や品格のあるまちづくりを推進 ③地域力によるまちづくり ④自然と共生し、「木の文化」を大切にするまちづくり ⑤人が主役の歩いて楽しいまちづくり ⑥伝統産業を活かしたまちづくり ⑦文化芸術を活かしたまちづくり”	
京都市生涯学習新世紀プラン“新たな展開（2007-2010）	①団塊の世代の大量退職 ②労働者層の自由時間の実質的減少 ③携帯電話等、通信機器の発達 ④家庭や地域の教育力の低下 ⑤ニート等の増加 ⑥市民と行政の役割分担の推進 ⑦国家戦略としての京都創生の推進	（課題と対応した推進施策） ①生涯学習機会の更なる提供，NPO及びボランティアの活動支援 ②いつでもどこでも学習できる環境整備 ③インターネット学習機能の充実，人と人が触れ合う機会を創出 ④地域の教育力の更なる発展，地域住民の学習場所の提供 ⑤義務教育段階からの職業観の醸成，若者の社会参加促進 ⑥NPO・ボランティア団体活動をサポート，民間活力の連携強化，PFI手法の更なる活用 ⑦京都の学習資源を再確認，情報発信の拡大，地域の取組の推進”
京都文化芸術都市創生計画（2007-2017）	（総合的な施策） ①日常生活における文化芸術の定着 ②伝統の継承と新たな創造活動の支援 ③文化芸術の交流の促進 ④文化芸術環境の向上 ⑤学術・産業との連携	（五つの京都先行プロジェクト） ①京都ならではの文化・景観・観光三位一体の取組の推進 ②文化芸術による魅力ある地域のまちづくりの推進 ③文化芸術に親しみ，その楽しさを知る子どもたちの育成

	⑥市民の活動支援	④新たな文化芸術を創出する若き人材の育成 ⑤文化ボランティアなど市民参加による文化芸術都市づくり
--	----------	---

<京都未来まちづくりプラン>

施策名称	事業名称
155 災害に強いすまい・まちづくり	15501 「(仮称) 京都市建築物安心安全実施計画」の策定・推進 15506 住環境整備事業 15507 新たな住宅マスタープランの策定(再掲)
161 幹線道路網・橋りょう・鉄道の立体交差化	16101 太秦天神川駅西部地域のまちづくり事業計画の調査
163 次期都市計画マスタープランの策定	16301 次期都市計画マスタープランの策定
231 「世界で最も美しい都市・京都へ！」京の美観再生	23101 景観政策検証システムの構築 23102 (仮称) 市民による美観再生推進事業 23103 「世界一美しいまち・京都」の推進 23104 不法投棄ごみ対策 23105 町並み景観の再生 23106 町並みにふさわしい屋外広告の誘導 23107 京都らしい歴史的環境形成の推進(無電柱化等)
235 京情緒を損なう風俗店等の看板の一掃	23501 京情緒を損なう風俗店等の看板の一掃
241 世界の宝・京都の創生を世界規模で展開	24101 京都創生海外発信プロジェクト 24102 国家戦略としての京都創生の推進 24103 元離宮二条城二之丸御殿遠侍及び車寄ほか10棟保存修理事業
242 伝統ある「京町家」再生のため限界に挑戦	24201 京町家実態調査 24203 伝統建築物の新築・建替等を可能とする建築基準法等の整備 24204 京町家等耐震改修助成事業
251 三方の山並みを守り育てる取組	25101 大学との連携による未指定文化財庭園の調査 25102 三山森林景観保全・再生ガイドラインの作成 25103 「伝統文化の森」推進事業
351 「京のまち・まるごと博物館」構想	35101 「まちかどまっぷ」の整備 35102 デジタルミュージアムの民間との共同による開設 35107 「まちかど博物館」等の設置拡大 35108 博物館ふれあいボランティア養成講座
353 和の文化を五感で感じるまち・京都の創造	35303 五感で感じる和の文化事業 35304 無鄰菴計画的整備事業
354 日本の歴史・伝統や文化財、伝統芸能等の魅力を発信する拠点施設の誘致	35401 国立京都歴史博物館(仮称)及び国立京都伝統芸能文化センター(仮称)の誘致
356 京都の魅力を世界発信	35601 国民文化祭の開催と京都文化祭典の継続 35602 「祇園祭」ユネスコ無形文化遺産登録記念事業 35604 源氏物語千年紀記念「古典文化継承事業」
362 音楽文化創造都市・京都の創出	36201 京都国際音楽祭(再掲)
432NP0 やボランティア等の活躍の場を広げる自治・自立・協働のまちづくり	43211 住民主体のまちづくり活動支援事業
433 市民誰もが文化の担い手となるまちづくり	43303 文化ボランティアなど市民参加による文化芸術都市づくり
453 留学生等のパワーで国際都市・京都の更なる世界発信	45306 京都国際音楽祭の開催

＜共汗部会＞

内容

- ・町家のような地域資源をどう市民，行政が活用していくのか（ま①）
- ・祇園祭など伝統文化の継承に携わる人がやりやすいような仕組みづくり。（活②）
- ・京都市民が生活している場の景観の維持という視点を。（活②）
- ・京都の文化的なポテンシャルは非常に高いが，それをどう伝えるか。（活②）
- ・歴史都市連盟の取組を通じて，歴史・文化に関しても何らかの発信を。（活②）
- ・今，１００年後に残るものがつくれているのか。（う②）
- ・京都の文化を国，府，市，あらゆるところで支える。後継者を育成する制度の充実。（う②）
- ・よい伝統は続けると同時に，残してよいのか疑問なものは議論を尽くしたうえで，次世代には伝えないことも。（う②）
- ・「もったいない文化」，「しまつの文化」もある。暮らしの中でたくわえた文化についても考える必要。（う②）
- ・京都ブランド，京都らしさをどのように残していくか。（ま②）
- ・景観について，国，近畿圏の中での位置付けを再確認し，景観政策によって逸失した税収分を他から充填することも考えるべき。（ま②）
- ・京都では，景観と環境を調和させて進めようとしている中で，わかりやすい環境配慮技術が直接京都のまちに入ってくると，環境と景観のせめぎあいが起こるのではないか。（ま②）
- ・景観保全が，活性化と対立するのではなく，活性化につながるものであることが必要。（ま②）

<各種提言・発言>

項目	内容
研究会	・京都らしさを活かした環境先進都市 ～環境を機軸に新たな京都型の生活・産業・観光・交通スタイルの開発～
100人	・市民の景観 市民が「景観」を自分のこととして捉え、景観を見る眼を養い、地域での合意形成を経て、歴史や文化を踏まえた美しく暮らしやすい環境を実現していく。 ・山紫水明の京都 市民が「山紫水明」に触れ、考え、行動する機会を創出する。

●長屋、5年で44%減少(H20:18千戸)

消えゆく京の「長屋」

生活様式転換を
立憲府大政策研究部の
田中隆雄教授(都市計画学)の
論文はあつた。京都市の
長屋は、5年で44%減少した。

分譲、賃貸混在 改修合意難しく

8年調査 5年で44%減

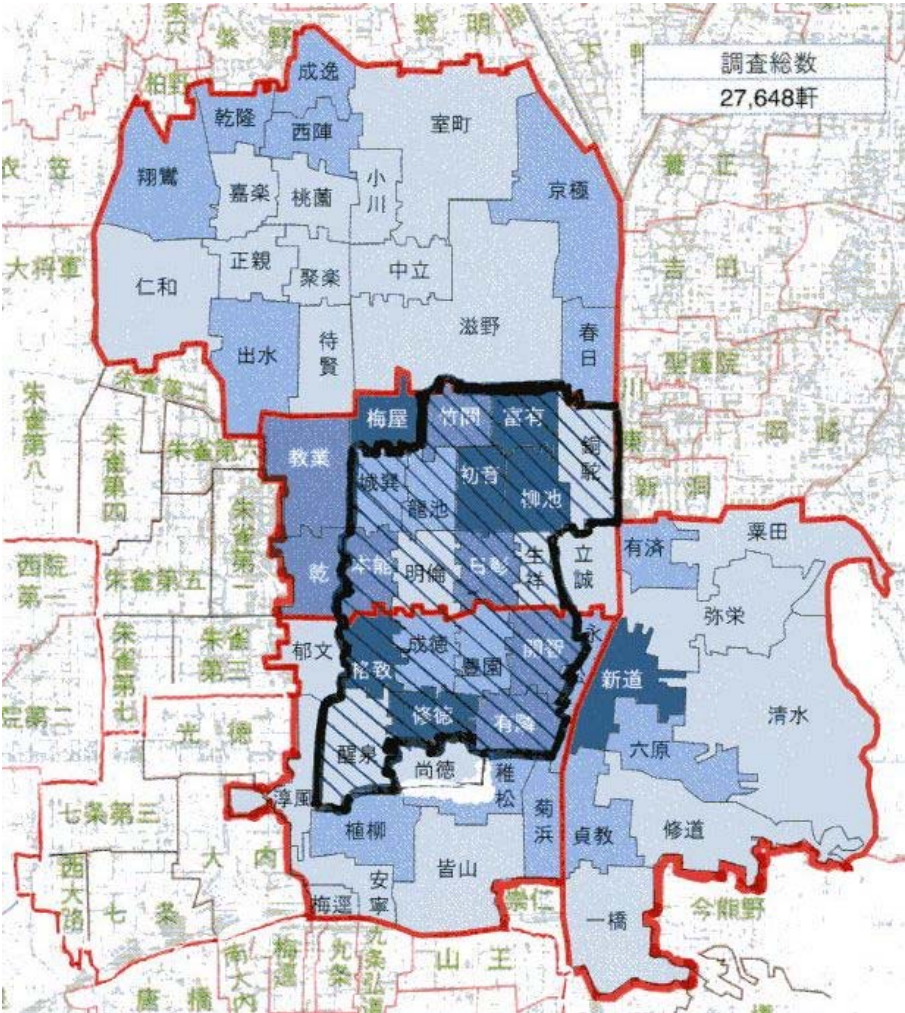
京都市内では、戦後の大規模な都市再開発が進み、長屋は減少の一途を辿っている。田中教授は、長屋の減少は、都市の歴史や文化を失ってしまうという。長屋の減少は、都市の歴史や文化を失ってしまうという。長屋の減少は、都市の歴史や文化を失ってしまうという。



京都市内では、戦後の大規模な都市再開発が進み、長屋は減少の一途を辿っている。田中教授は、長屋の減少は、都市の歴史や文化を失ってしまうという。長屋の減少は、都市の歴史や文化を失ってしまうという。長屋の減少は、都市の歴史や文化を失ってしまうという。

(京都新聞 11月29日)

●京町屋等の伝統的建造物が毎年2%消失

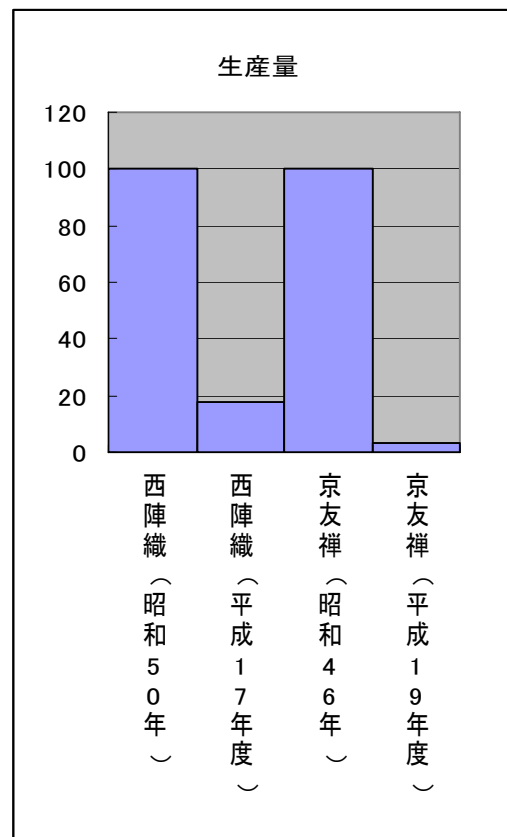
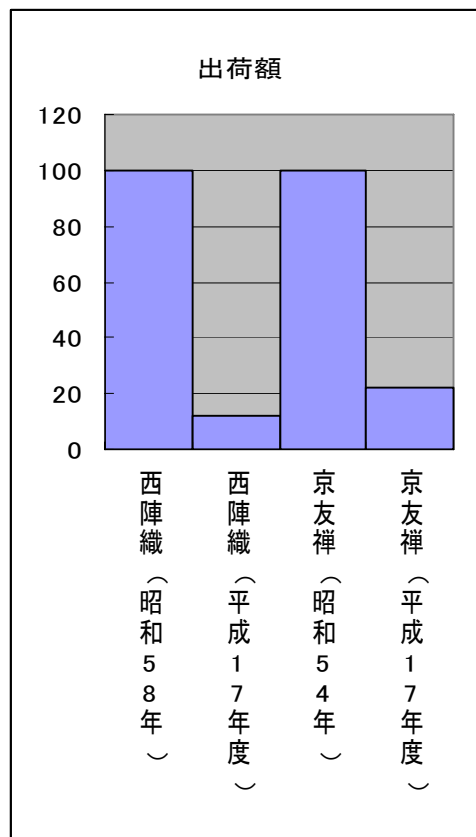


平成7年度、平成8年度、平成10年度
上図の着色範囲内において、約2万8千軒の京町家を確認



平成15年度
上図の斜線のエリア内において、7年間で約13パーセントの京町家が除却

●伝統文化・伝統産業が失われつつある



出荷額

西陣織

平成17年度には、ピーク時（昭和58年）の12%に

京友禅

平成17年度には、ピーク時（昭和54年）の22%に

生産量

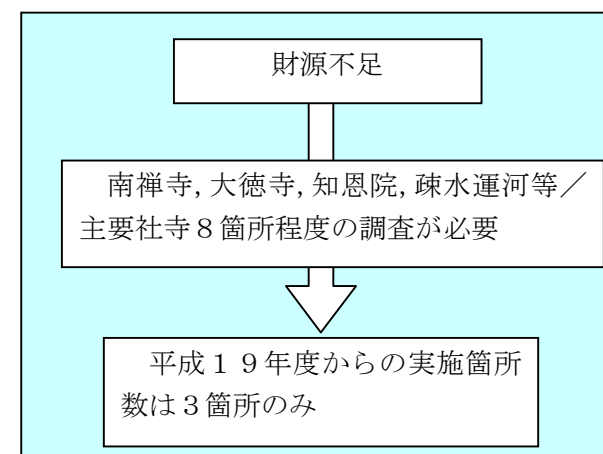
西陣織

平成17年度には、ピーク時（昭和50年）の18%に

京友禅

平成19年度には、ピーク時（昭和46年）の3%に

●世界遺産登録に向けた文化財調査が遅々として進まない



<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
・ 京都の特性に付加価値を加える「地域プロジェクト」による活力創造のまち ・ 京（みやこ）流コンパクトシティ ・ 日本中・世界中から人が集い交流する文化都市	（コンパクトシティの社会資本） ➢ 広域的な社会資本整備 ・ 鉄道，道路，空港，港湾などへのアクセス ➢ 歴史的都市基盤の保全・整備（都市計画，住宅，道路，建築指導，景観の融合） ➢ 商いや物づくり（職人）が成り立つ制度改革（地域，建物） （コミュニティ） ➢ コミュニティ政策 ・ 地域主権＋地域による地域運営＝エンパワーメント 例）まちづくりアドバイザー，コーディネーター ➢ 地域分権 ・ 分権とは何かをじっくり考える ・ 地域で地域を運営 → 金と決定権限を移譲する （地域プロジェクト） ➢ 公民協働の多彩な「地域プロジェクト」の創生 ➢ 拠点づくり（ex 岡崎，北山 文化ゾーンとして再整備。公共空間，緑，情報） ➢ 駅周辺の活性化 ➢ 南部開発 拠点の整備	➢ 公共交通機関インフラ大改造（公共交通無料）

＜既定計画・策定中計画＞

計画名称	主な施策	主な事業・プロジェクト
らくなん進都（高度集積地区）まちづくり推進プログラム	①利便性の高い公共交通の充実 ②本社・研究開発・生産機能が集積するまちの実現 ③地区のイメージを高める都市環境の創出 ④多様な主体の連携による環境共生型まちの実現	
新・京都市南部創造まちづくり推進プラン（2006-2015）	（施策の基本的方針） ①創造的な活動を支える都市環境の形成 幹線道路網・公共交通網の充実，良好な市街地形成，新しい景観の創造，環境にやさしい取組 ②更なる都市機能の集積 企業立地促進，立地企業への活動支援，ものづくり都市・京都の将来像を担う次世代育成等の地域経済活性化 （戦略的拠点） ①高度集積地区，京都駅南口周辺地区，久世高田・向日寺戸地区，中心市街地	・キリンビール工場跡地整備促進 ・水垂埋立処分地跡地における土地利用の推進
京都駅南口周辺地区まちづくり指針	①土地利用の誘導 ②歩行者ネットワークの形成 ③優れたまちなみ形成の誘導 ④うるおい空間の整備 ⑤安全で住みやすい住宅市街地の整備 ⑥自動車・自転車交通の円滑な処理	
次期京都市都市計画マスタープラン（策）		
新京都市住宅マスタープラン（策）	（住宅審議会答申） 施策の方向 （1）住み継ぐ ア 京都らしいすまい方の継承の支援 イ 住宅ストックの良質化のための適正な維持管理や更新の支援 ウ 既存住宅の流通の活性化のための条件整備 （2）そなえる ア 住宅・住環境の安全性の向上 （3）支え合う ア 重層的な住宅セーフティネットの構築 イ コミュニティの弱体化等が危惧される中・大規模団地のマネジメント	重点施策 （1）地域コミュニティと市場をつなぐエリアマネジメントの促進 （2）既存京町家の保全・活用と「平成の京町家」の普及促進 （3）リフォームの推進と住情報の一元的な提供 （4）命を守るために不可欠な住宅改修等の促進 （5）福祉分野等との連携や既存住宅の改修等による地域優良賃貸住宅の普及促進 （6）市営住宅による住宅セーフティネット機能充実とコミュニティ活性化のための入居制度の拡充等 （7）市営住宅団地の複合的再生
「京都水族館（仮称）整備構想」に係る答申		
新「京都市動物園構想」	①「近く」で動物の大きさやにおいを実感し、「いのち」が感じられる動物園 ②全ての人に優しい動物園	

	③環境に優しい動物園 ④楽しく学べる動物園 ⑤安全で安心な動物園 ⑥市民との共汗で創る動物園 ⑦食べる楽しみ、買う楽しみを大切にした動物園	
京都会館再整備基本構想（策）		
岡崎地域活性化構想（仮称）（策）		

＜京都未来まちづくりプラン＞

施策名称	事業名称
253 自然を守りつつ若い世代等が移り住める新しいまちづくり	25303 市街化調整区域における地区計画制度の活用
254 文化・公園施設の整備	25401 京都会館再整備の検討・50周年記念事業
	25402 美術館再整備・魅力発信事業
	25403 動物園再整備
325 「にぎわい商店街」づくり	32507 にぎわいのある御池通シンボルロードづくりの推進
331 高度集積地区での新たなまちづくり	33101 高度集積地区の新たなまちづくりの推進
332 京都駅南口駅前広場の整備	33201 京都駅南口駅前広場整備
357 「見る観光」から「ふれあう観光」に体験型観光コンテンツを再構築	35702 京都水族館（仮称）整備構想の推進
461 サッカースタジアムの整備	46101 サッカースタジアムの整備の検討
463 スポーツ・レクリエーション施設の整備	46301 水垂埋立処分地跡地への運動公園の整備
542 市民がお客様。誰もが利用しやすい市役所・区役所づくり	54202 区役所の総合庁舎化
561 未来の京都をつくる徹底した行財政改革・創造	56102 山ノ内浄水場の跡地利用の検討

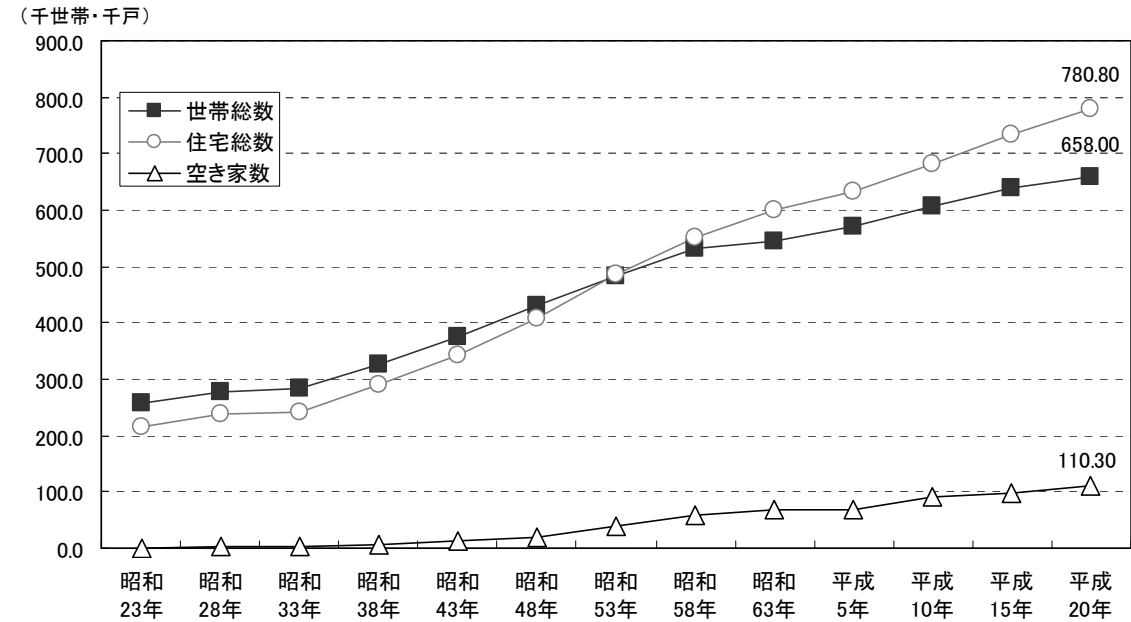
＜共汗部会＞

内容
・京都は広い裏道もなく震災が起こると大きな被害が出る（ま①） ・山間地域について議論すべき（ま①） ・都市インフラの整備だけでなく、運用に市民が関わる方向に進めたらよい（ま①） ・京都市というまちのサイズでできることとして職住接近ができればよい（活①） ・重層性をもった都市構造、レイヤを重ねたような都市構造を踏まえることが必要。（ま②） ・低成長時代、低投資時代の都市のあり方について、どのような土地利用を誘発していくのかビジョンが必要。（ま②） ・公共建築のデザインだけでなく、その施設の運用や管理の仕組みの方向性を。市民の共有財産としてファシリティマネジメントを。（ま②）

<各種提言・発言>

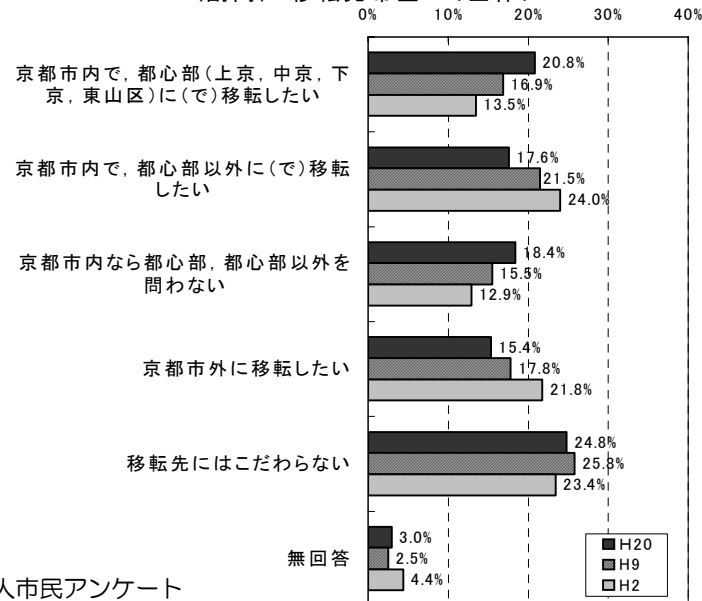
項目	内容
点検	・もっと産業・まちづくりに活力を ⇒南部地域の新たな創造，一層の発展を ⇒山間部の活性化を ⇒地域ごとの特性を生かしたまちづくりを
研究会	・京都らしさを活かした環境先進都市 ～環境を機軸に新たな京都型の生活・産業・観光・交通スタイルの開発～
100人	・岡崎ホールディングス 京都岡崎地域が，人々の集まる魅力的な場所となること

●空家率が上昇（H20：14.1%）



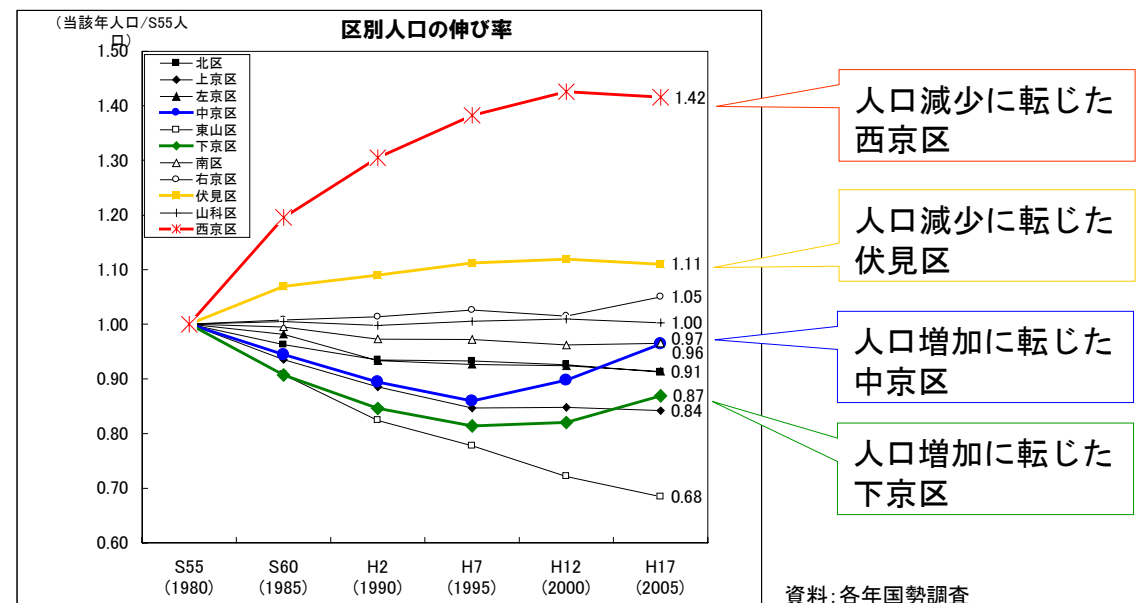
●移転先としては，市内指向が57%

(副問) 移転先希望 <全体>



1.2万人市民アンケート

●人口の都心回帰が進む一方，郊外区が人口減少に転じている



<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
・観光立国日本の戦略拠点としてのプレミアム観光都市「京都」の実現 ・国際文化観光都市として成熟した都市へ ・住民も観光客も満喫できる京都 ・観光産業が発展し、市民が参画する低炭素社会 ・大人が元気に暮らせるまち、住み心地の高い街（文化度だけでなく）、伝統産業、伝統文化を大切にするまち（お金で買えない文化の蓄積） ・真の観光都市とは ・魅力ある玄関づくり、駅の拠点・ターミナル	（量から質へ） ➢観光施策を量から質へ変更（観光業者＋市民＋寺院） ⇒行政は市民や事業者の取組のバックアップ ➢数だけでなく、質の高い観光施策 （コンベンション） ➢＜融合＞学術・産業コンベンションの誘致 （芸術文化、体験） ➢芸術文化を産業に ・京都で芸術活動を行い、芸術活動が楽しめる条件づくり ・観光との連携、施設整備、活動支援、海外交流 （観光交通） ➢車に乗らない観光が得になる条件をつくる ➢観光の一番の負のイメージである交通渋滞の解消 （推進体制） ➢国家戦略としての京都創生へ ➢ALL京都での観光サービス向上の取組体制の構築 ➢市民のおもてなし力を上げる（都人とのふれあい） ➢東京一極集中に対峙する情報発信で日本への貢献 ・マスメディア ・観光客 5000 万人に直に伝える	➢ホテル・宿泊税等の新たな税収制度の導入 ➢FIT の積極的なプロモーションの推進 ➢ラグジュアリー市場への積極的なコミュニケーション戦略の展開 ➢多様なニーズに応える宿泊施設の整備 ➢プレミアムデスティネーションとしての観光コンテンツの充実 ➢市民参加による MICE の振興 ➢会議場、宿泊施設の受入環境の整備 4000～5000 人必要 ➢積極的な MICE 誘致施策の推進 ➢文化財の保存・復興、歴史博物館の建設 ➢伝統文化の継承・復興。伝統芸能センターの整備 ➢歴史的景観の保全・整備 ➢祭礼の復興 ・“元”のやり方に戻す。例）祇園祭を2回に ・祭日は小中学校を休みに ・祭の参加について、大学の単位認定 →コミュニティ再生、産業再生（伝統）観光につなげる ➢修学旅行生のホームステイ ➢大学生を重点に展開 ・入学・下宿先等をプロモートするツアー ・京都に住む、働く場合の奨学金返済支援プログラム ・夏・冬の休暇期間中の家族型、グループ型、京都産業ツアー ➢京都検定から、体験型の京都通認定をして、多様な体験をしてもらう ➢観光地に車を入れない（周遊バス） ➢バス・地下鉄でどこへでも誰でも行ける ➢自転車も乗れる地下鉄 ・モデル（赤字対策） ➢京（みやこ）パスポート ・寺社仏閣 ・公共交通 ➢駅、公園 ➢みちの統合的景観整備 ➢観光行動拠点 ➢休憩空間としての駅 ➢自動車の乗り入れ抑制（CO2 抑制） ➢観光教育を通じて京都のすばらしさとおもてなしの心を育む ➢子どもたちに社会的な役割を与える ・観光案内、ごみ分別、掃除

＜既定計画・策定中計画＞

計画名称	主な施策	主な事業・プロジェクト
未来・京都観光振興推進計画～2010 ⁺ 5 (2010-2014) (策)	いよいよ旅の本質へ ～世界が共感する観光都市～ 京都観光が目指す新しい姿 ○観光スタイルの質を高めます ○観光都市としての質を高めます	重点 1 「暮らすように旅する」プロジェクト 重点 2 「歩いてこそ京都」プロジェクト 重点 3 「市民の京都再発見」プロジェクト 重点 4 「心で“みる”京都」プロジェクト 5 「観光客の不満をゼロに」プロジェクト 6 「新たな京都ファン獲得」プロジェクト 7 「京都の魅力うまく伝える」プロジェクト
京都市 MICE 戦略 (2010-2014) (策)	・都市間競争の激化 ・ネットワーク構築や情報発信の充実 ・人材育成 等	(1) 受入環境の整備 (2) 積極的な誘致施策の推進 (3) 市民参加による MICE の振興 (4) 戦略推進のための体制強化
京都市国際化推進プラン (2008-2017)	(1) 世界がときめくまち・京都 ・京都が持つ多彩な魅力の向上と発信 ・多様な形での情報発信の強化 ・京都の魅力を認識し、世界に発信する人づくり ・国内外の外国人が分かりやすく、活動しやすい施設・機能の整備 (2) 世界とつながるまち・京都 ・国際交流・国際協力の中核としての姉妹都市交流等の持続的な発展 ・京都の特性を生かした多様な国際交流・協力の推進 ・青少年交流の促進 ・国際感覚を持った人づくり (3) 多文化が息づくまち・京都 ・コミュニケーション支援 ・生活支援 ・多文化共生の地域づくり	(主なもの) ・国際交流の拠点・コンベンション機能の充実 ・案内表示や観光情報等の多言語化の推進 ・姉妹都市交流の充実と多様化 ・歴史都市としての国際交流・協力の推進 等

＜京都未来まちづくりプラン＞

施策名称	事業名称
123 ユニバーサルデザインの推進	12301 誰もが楽しめるユニバーサルツーリズムの推進
221 歩いたり、自転車で歴史や伝統を感じることができるまちづくり	22107 観光案内標識等のネットワーク化の推進
222 公共交通機関の利便性向上と新たなネットワーク化	22203 京都修学旅行 1day チケットの新設
223 環境に優しく利便性の高い交通システムの検討	22305 大原野地域の観光シーズンにおける交通渋滞対策
234 路上喫煙等禁止区域の更なる拡大	23401 京都市路上喫煙等の禁止等に関する条例の推進

323 映画産業の世界発信	32302 フィルムツーリズムの推進・ロケ支援の充実
324 市民参加で「おもてなし観光」	32401 観光ボランティア推進事業
351 「京のまち・まるごと博物館」構想	35105 京都南部広域観光ネットワークの構築及び支援
	35106 「歩いて楽しい観光」推進のための観光案内標識の充実
	35109 「上京歴史探訪館」を活用した上京区の魅力発信事業
352 京都の歴史・文化「世界発信プロジェクト」	35203 京都の観光文化情報の発信等
355 「コンベンション都市・京都」の創造	35501 国際コンベンションの誘致強化
356 京都の魅力を世界発信	35605 「山科観光ウィーク（おこしやすやましの週間）」（仮称）の創設
357 「見る観光」から「ふれあう観光」に体験型観光コンテンツを再構築	35703 京都のまちをじっくりゆっくり楽しむ体験型観光の推進
432NP0 やボランティア等の活躍の場を広げる自治・自立・協働のまちづくり	43213 東山 3K（観光・交通・環境）協力金会議との協働による取組の推進

＜共汗部会＞

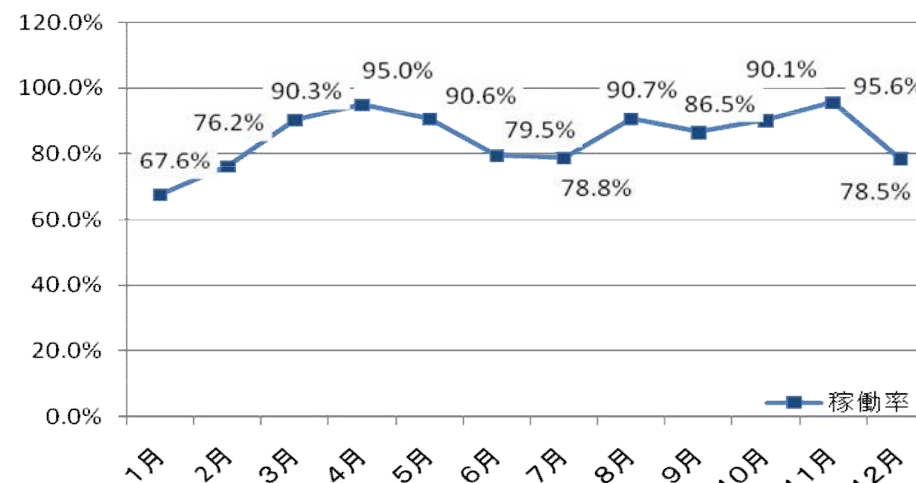
内容
・京都の観光地としての国際的な知名度を上げる必要がある（活①） ・MICE の分野では、アジアの中では施設的には遅れている。国際会館、岡崎界わいも手を入れるべき時期。（活②） ・国際会議場の増築は、京都全体で後押しを要。ホテル、イベント会場、集客できる公共施設の整備など、基本的な問題を押さえる。（活②） ・国際会議場だけでなく、周辺の界わいを世界にアピールできるような活性化も。（活②） ・寺、ホテル、食事するところなどがファンドをつくり、観光なりまちづくりに使える仕組みを。（活②） ・市民や市民以外のファンの方にも協力いただくような企画力が大事。（活②） ・市民全てがステークホルダー。（活②） ・日本中の人々が寄付したいと思うような魅力的なプロジェクトを考える。（活②） ・多くの取組がごく自然にあるという京都の特殊性を理解する必要がある。観光受けするところにはサポートするが、地道なところにはしないといったことにならないように。（活②） ・京都をどうするのかだけでなく、広域的な視点で京都はどういう役割を果すのか。（活②） ・広域的な観光をリードするのが京都市だということで施策を組み立てる。（活②） ・京都に住む英語圏の留学生を使った外国人向けの観光案内所を設けては。（活②）

＜各種提言・発言＞

項目	内容
研究会	・ 京都らしさを活かした環境先進都市 ～環境を機軸に新たな京都型の生活・産業・観光・交通スタイルの開発～
100人	・ 市民のおもてなし力を向上させる 市民が、京都に今以上の誇りを持ち、その素晴らしさを入浴者（観光客）と分かち合うことを喜びと感ずることで、快適で魅力ある京都、活力ある京都を実現する。 ・ 城と堀川 二条城と堀川を中心に新しいまちづくりを進め、二条城・堀川・西陣界限に＜町なか観光＞＜堀川周辺を歩いて巡る観光＞など新しい観光の形を定着させて魅力的な観光地とし、さらなる観光客の誘致と地域の活性化を行う。

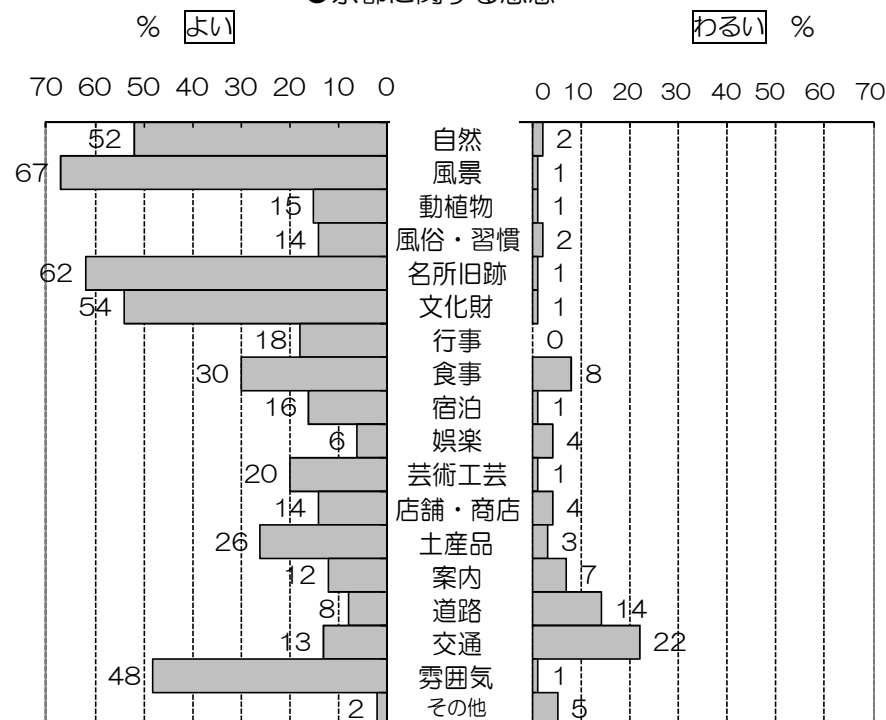
●平成20年京都市内主要ホテル客室稼働実績

観光シーズンにおける市内主要ホテルの客室稼働率は、90%を超えるほぼ満室の状態、観光客が宿泊施設を確保することが非常に困難

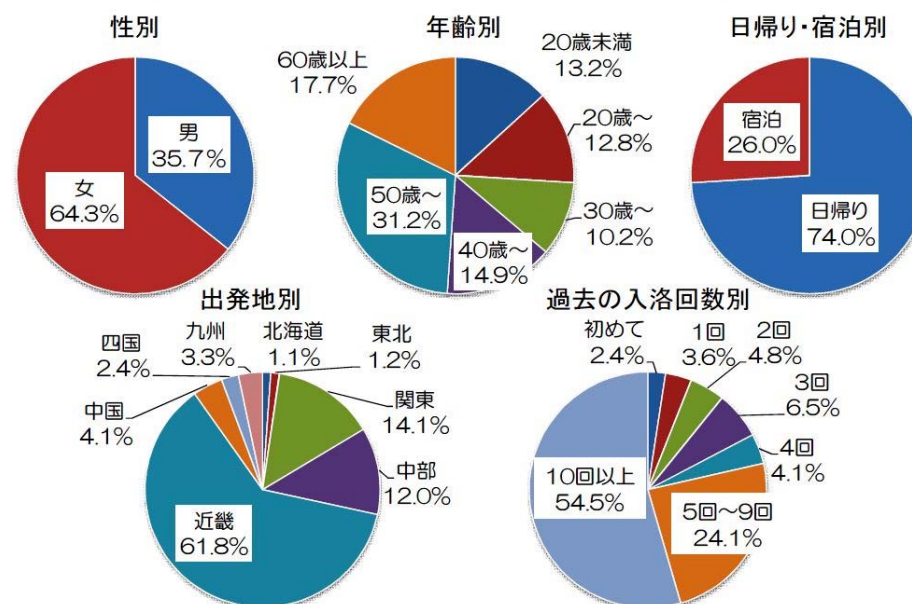


資料：日本ホテル協会京都支部

●京都に関する感想



京都観光の現状 ～入洛観光客の特徴



<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
・日本、そして世界の人々を魅了する歴史都市、創造都市(京都を訪れたい・京都で学びたい・京都で働きたい・京都で暮らしたい) ・人が集い、学び・住み・はたらく創造し続ける文化自由都市・京都 ・創造的産業都市 ・文化と産業の融合都市 ・観光産業が発展し、市民が参画する低炭素社会 ・新文明開化(アジア戦略と新成長経済) ・時代をリードする産業や企業を育成、振興する ・国家、関西、京都府などのビジョンとの整合性を図り、それらの中で京都市を位置づける広域的視点が必要	（融合による産業創出） ➢国家戦略としての京都創生へ ➢環境と歴史・文化との融合 ・環境：先端技術、工夫された市民生活（ライフスタイル） ・歴史：文化：京都ならではの第1級の特性 ・環境首都、文化首都 ➢京都の伝統文化、伝統産業、伝統芸術をつなぐ体制をつくる ➢伝統と先端 ➢＜融合＞学術・産業コンベンションの誘致 （芸術文化産業） ➢芸術文化を産業に ・京都で芸術活動を行い、芸術活動が楽しめる条件づくり ・観光との連携、施設整備、活動支援、海外交流 ➢徹底した「らしさ」の保存と開発 （環境ビジネス） ➢大規模排出源対策 ・国の政策と地域の政策 ・高付加価値産業 ➢環境と経済成長の連鎖を生む ・低炭素社会化を経済と技術イノベーションで生み出す ➢環境←伝統的景観から ・近郊農業の復興 ・緑化は“農”と“鎮守の森”で十分 ・“庸”？ ➢京都の食料自給率のUP（CO2を下げる） （ベンチャー） ➢「都市間競争の時代にあって輝きを失わない都市」を促進する ・企業立地の先を行く人材立地（リッチ） ➢研究開発型企業の育成、集積 ➢ベンチャー企業の創出 ➢創造的サービス産業の振興 ➢世界最先端技術・情報 （ソーシャルビジネス） ➢地域、学区単位で社会ビジネスを起こそう	➢積極的なMICE誘致施策の推進 ➢一子相伝のものづくりなど ➢「ほんまもん」づくりの継承 ➢ごみの仕分けを地域住民のコミュニティビジネスに

	・地域資源を活用したコミュニティビジネスを ➢京都で社会ビジネスを起こそう ・社会企業家の育成。コミュニティビジネス，ソーシャルビジネス (産業基盤整備) ➢広域的な社会資本整備 ・鉄道，道路，空港，港湾などへのアクセス ➢南部開発 拠点の整備 ➢公民協働の多彩な「地域プロジェクト」の創生 (雇用創出) ➢雇用は地域活性化につながる ・中長期の施策・プロジェクトを示し，中小企業の投資意欲を引き出し，活性化 ➢雇用政策の充実（ものづくり産業，健康福祉の担い手増） (人材育成) ➢グローバルな人材教育 ・世界からの人材，才能，頭脳が集まる制度 ➢グローバル人材育成戦略② ・教育現場において，実際に豊富な海外経験やビジネス経験をした人たちを教育現場に配置し，その経験や実績を活かした実のある教育を実践する。 ➢グローバル人材育成戦略③ ・より多くの教員やその指導者に，民間企業等においてインターシップを体験させ，実社会を体験することにより教育者としての社会的常識の幅を広げる。 ➢京都以外では日本文化，工芸などの衰退が激しい。京都だけでも守っていける仕組み⇒人材育成 ➢＜融合＞歴史遺産を現代に継承する人材育成（教育・産業） ➢商いや物づくり（職人）が成り立つ制度改革（地域，建物） ➢大学の連携による新しい技術・人材の育成プラン ➢人材の上手な活用	していく ➢市内の真ん中に「わたしのしごと館」をつくる ➢ものづくり教育
・日本，そして世界の人々を魅了する歴史都市，創造都市(京都を訪れたい・京都で学びたい・京都で働きたい・京都で暮らしたい) ・ライフスキルを若者に ・男女が共に仕事と家庭を両立 ・人が集い，学び・住み・はたらく創造し続ける文化自由都市・京都。伝	(産業創出) ➢芸術文化を産業に ・京都で芸術活動を行い，芸術活動が楽しめる条件づくり ・観光との連携，施設整備，活動支援，海外交流 ➢中長期の施策・プロジェクトを示し，中小企業の投資意欲を引き出し，活性化 ➢雇用は地域活性化につながる	

統と創造の人づくり まちづくり	(ワーク・ライフバランス) ➤短時間労働でも正規社員として働ける労働政策 ➤子育てと雅の文化「ワーク・ライフバランスのとれた社会建設」 ・正規雇用の確保 ・長時間労働規制の強化 ・長時間労働の廃止 ・正規雇用における長時間労働の実態を把握→改善のためのバリアを明らかにする ・モデル事業の実施 ・京都市および京都市関連機関からの実施 ・長時間労働をよしとする文化的概念の是正にむけた改革→モデルの提示等 ・次世代育成法の徹底およびより進んだ条例の制定 ➤待機児童「0」まち「京都」の実現	➤保育所，児童館，放課後まなび教室（働いている間の子どもの居場所）
------------------------	--	--

<既定計画・策定中計画>

計画名称	主な施策	主な事業・プロジェクト
新京都市産業振興ビジョン (2011-2015) (策)		
コンテンツビジネス産業振興施策(策)	京都のコンテンツ産業振興施策のイメージ (案) ＜人材育成・雇用支援＞ ＜新事業創出支援＞ ＜グローバルな交流機会の創出支援＞ ＜事業活動の支援＞ オール京都体制の総合的な支援体制 『京都コンテンツ産業推進機構 (仮称)』	
京都市立芸術大学整備・改革基本計画	①教育研究の充実～国際レベルの人材の育成～ ②関係諸機関との連携の強化～芸術力で社会に貢献～ ③公立大学法人制度の導入～京都スタイルな芸術大学を目指して～	
京都市伝統産業活性化推進計画	①伝統産業に関する創造的活動に対する支援 ②伝統産業に関する教育や学習の場における取組 ③伝統産業についての関心と理解を深める取組 ④技術の継承者や後継者の育成 ⑤活性化の拠点施設等の機能の充実 ⑥表彰や奨励	(新規・充実8項目) ①海外市場の開拓など「京ものきらめきチャレンジ事業 (仮称)」の創設 ②「京の匠と文化まなび事業 (仮称)」の実施 ③「伝統産業の日」への事業の集中化 ④「京もの合同展示会 (仮称)」の開催支援 ⑤「京もの町なか博物館 (仮称)」事業の実施 ⑥工程別技術者調査の実施 ⑦ふれあい館, 四条京町家の活性化・機能再構築 ⑧未来の名匠の創設
新農林行政基本方針 (策)		
京都文化芸術都市創生計画 (2007-2017)	(総合的な施策) ①日常生活における文化芸術の定着 ②伝統の継承と新たな創造活動の支援 ③文化芸術の交流の促進 ④文化芸術環境の向上 ⑤学術・産業との連携 ⑥市民の活動支援	(五つの京都先行プロジェクト) ①京都ならではの文化・景観・観光三位一体の取組の推進 ②文化芸術による魅力ある地域のまちづくりの推進 ③文化芸術に親しみ, その楽しさを知る子どもたちの育成 ④新たな文化芸術を創出する若き人材の育成 ⑤文化ボランティアなど市民参加による文化芸術都市づくり
第4次きょうと男女共同参画推進プラン (策)	計画の体系 ○基本目標 (6 項目) →施策の方針 (17 項目) →推進施策 (70 項目)	男女の人権の確立 ▽ドメスティック・バイオレンスを受けた女性の保護と自立支援 (推進施策3) ▽様々な機会・広報媒体を通じた啓発の推進 (推進施策5) ▽児童・生徒の発達段階を踏まえた男女平等教育の推進 (推進施策10) 働く場における男女共同参画の推進

		▽企業等における男女雇用機会均等対策の促進（推進施策 15） ▽企業等における両立支援の取組の促進（推進施策 19） ▽子育てしながら働き続けられる条件整備（推進施策 20） ▽女性の職業能力の開発（推進施策 22） 家庭や地域等における男女共同参画の推進 ▽家庭生活における男女共同参画に向けた男性の意識と能力の向上（推進施策 57） ▽地域における子育て支援の充実（推進施策 32） ▽男女の協力による地域の活性化の促進（推進施策 65） 政策・方針決定過程への男女の均等な参画の促進 ▽意思決定の場に男女が共に参画できる条件整備（推進施策 53） ▽市の審議会等における男女構成比の均衡の確保（推進施策 54）
--	--	---

<京都未来まちづくりプラン>

施策名称	事業名称
311 伝統産業と先端産業を融合する「知恵産業融合センター」の創設	31101 知恵産業融合センターの創設
312 知の集積で企業を元気にする「企業再生アドバイザー」制度の創設	31201 企業経営おうえんプロジェクト（仮称）
313 中小企業への支援	31301 中小企業金融支援事業
	31302 産業技術研究所の立地的統合
314 未来創造型企業支援プロジェクト	31401 未来創造型企業支援プロジェクト
315 京都の知を結集する「知的クラスター創成事業」の推進	31501 知的クラスター創成事業（第Ⅱ期）の推進
316 京都の知的資産を結集する「京都医工研究センター」の誘致	31601 「京都医工研究センター」の誘致推進
317 未来への可能性を秘めるコンテンツ新産業の創出	31701 コンテンツ産業の振興
318 ものづくり産業の振興	31801 産業支援機能の強化
321 和装産業活性化戦略プランの策定	32101 和装産業活性化戦略プランの策定・推進
322 「京もの」一家に一品キャンペーンの実施	32201 「京もの」全国普及事業（仮称）
323 映画産業の世界発信	32301 京都国際映画祭の開催
325 「にぎわい商店街」づくり	32503 商店街街路灯 LED 化推進モデル事業
	32504 プロモーション能力育成事業
326 京都ならではの食文化・食産業の振興	32601 京都発・食の日本創生事業
	32604 市場や生産者による食文化の情報発信
327 京野菜や京都産木材の振興	32703 北区伝統ブランドいきいき発信事業
331 高度集積地区での新たなまちづくり	33102 戦略的企業誘致の推進
356 京都の魅力を世界発信	35603 第9回国際マンガサミット京都大会の開催とマンガを活用した情報発信
443 雇用創出対策の実施	44301 雇用・就業対策

<共汗部会>

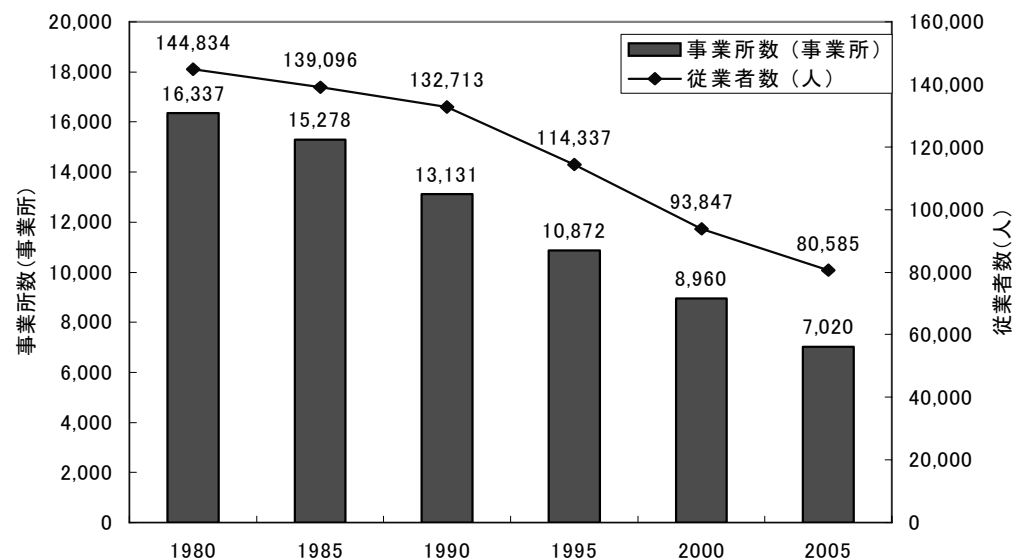
内容
・歴史、文化に優れたまちという特色が活かされれば（ま①） ・文化的な価値と産業の間にうまく橋をかけながら、京都の新たな活力を生み出していく産業政策を。（活②）

＜各種提言・発言＞

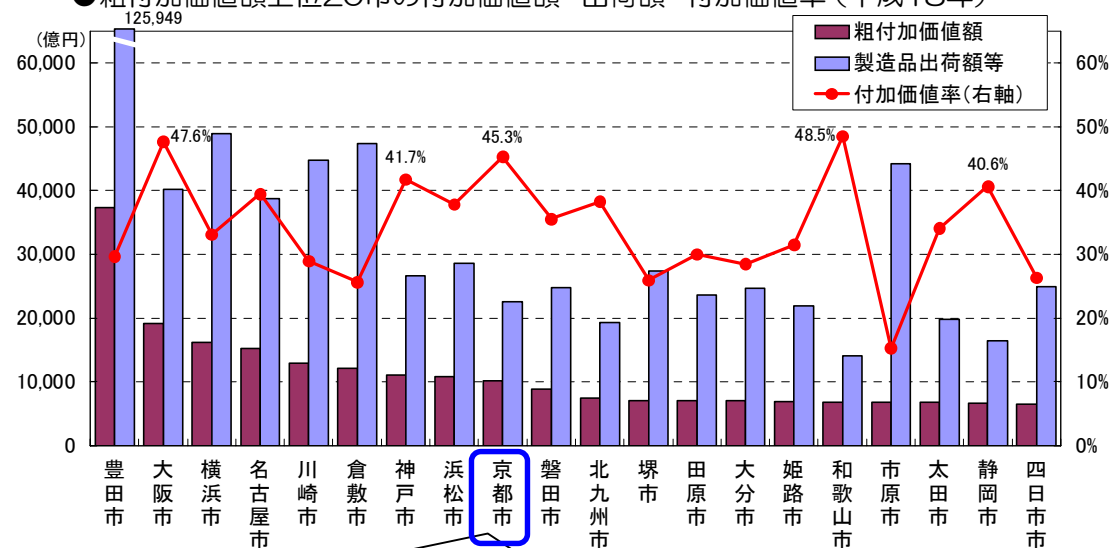
項目	内容
点検	・もっと市民の文化力で京都の創生を ⇒文化産業，創造産業の創出を ・もっと若者に夢と希望を ⇒若者のベンチャーや創造活動の応援を
研究会	・交流の場を広げ発展し続ける都市 ～ひと・もの・情報を呼び込み，経済を活性化させる～
100人	・DVS ～伝統産業とベンチャー企業の振興～ ほんまものの文化，伝統産業を継承し，次世代に生かす コンテンツ産業と職人のコラボレーションにより，新たな市場を形成する
マニフェスト	・伝統産業があふれるまちづくり ・地域シーズ発掘を歓迎するまち
若者提案	・伝統産業を活性化するために，女性にとって良い環境を築く ・多様化する雇用形態をふまえ，生き方の選択肢を広げるしくみ

●製造業は，事業所数，従業者数とも減少が進む。

事業所数・従業者数の推移（全事業所）

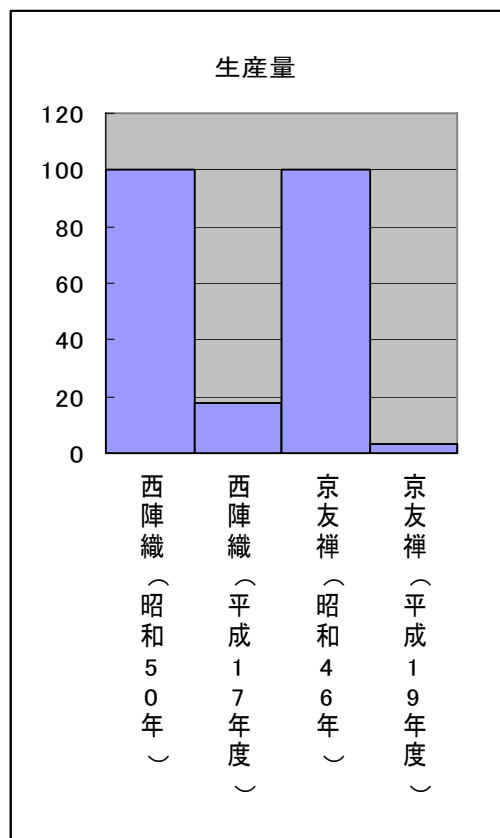
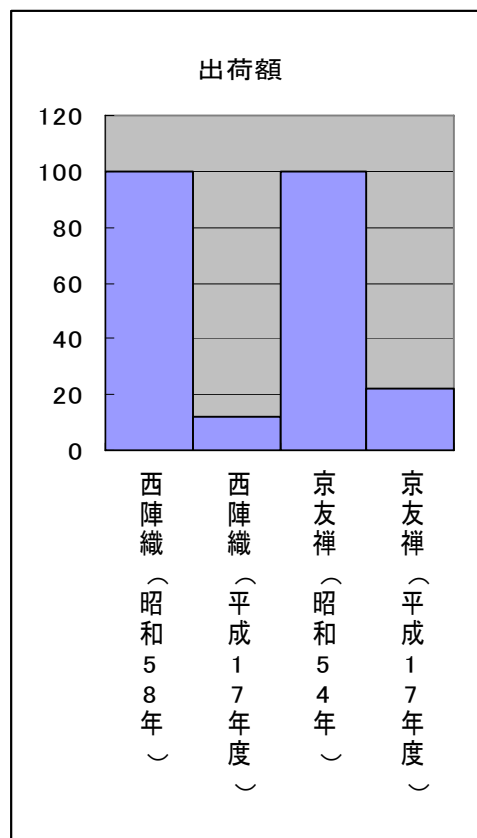


●粗付加価値額上位20市の付加価値額・出荷額・付加価値率（平成18年）



付加価値の高い京都市のものづくり
京都市の粗付加価値額は全国第9位にある。粗付加価値額で全国20位以内の都市の付加価値率をみると、京都市（45.3%）は3番目となる。

●伝統文化・伝統産業が失われつつある（再掲）



出荷額

西陣織
平成17年度には、ピーク時（昭和58年）の12%に

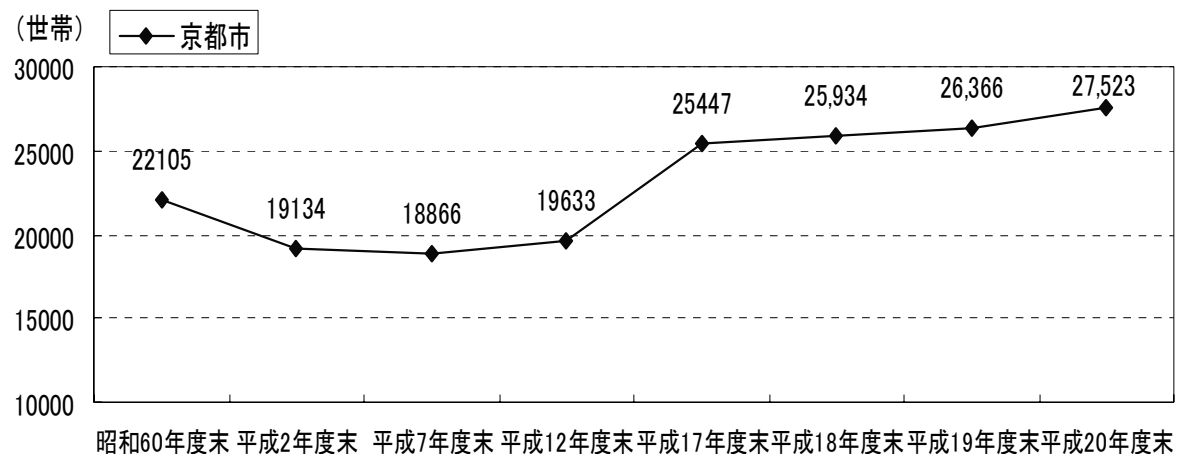
京友禅
平成17年度には、ピーク時（昭和54年）の22%に

生産量

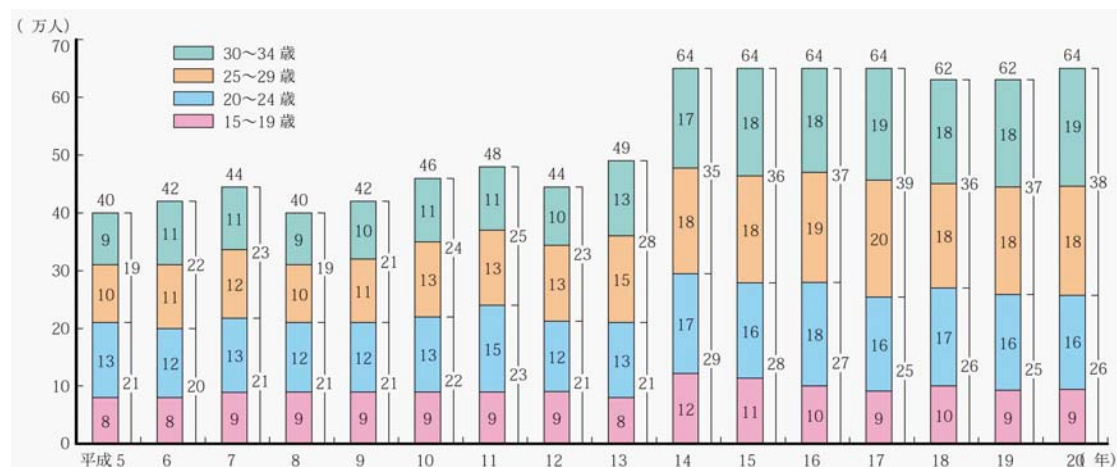
西陣織
平成17年度には、ピーク時（昭和50年）の18%に

京友禅
平成19年度には、ピーク時（昭和46年）の3%に

●生活保護世帯数の増加が顕著（H20末：27,523世帯）



●若年無業者数の推移（全国）



(注) 1 若年無業者について、年齢を15～34歳に限定し、非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者として集計。
 2 15～34歳計は、「15～24歳計」と「25～34歳計」の合計。「15～24歳計」、「25～34歳計」それぞれの内訳については、千人単位を四捨五入しているため合計と合わない。

資料：総務省統計局「労働力調査」

<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
・多子健康長寿都市「京都」 ・子どもから高齢者まで世代を超えた日常交流のある地域づくり ・80歳を越えても元気に楽しく働ける都市 京都 ・生涯安住の都市 ・高齢者と若者のつながりが深いまち ・年齢、人種を越えた心温まる京都の街 ・人とのつながりに安らぐ京都	（多世代交流） ➢地域における三世代交流の場の設置 ➢高齢者のつどうサロンと働く親が安心できる地域の子ども見守り活動の融合 （各世代の役割発揮） ➢若者（学生）ちょう（超）兵制度→農林、環境、福祉などに従事する ➢多様性の活きる社会を創るため、高齢者や障害者にも地域で担える役を持ってもらう ➢高齢になっても役割を持てる社会（年寄りを働かせよう） ➢高齢者ちょう（超）兵制度 ➢高齢者の活性化 ➢元気な高齢者の知恵を活かす （支える仕組み） ➢シルバー110番（市民力で）。地域資源を中心に身近なところに相談窓口を ➢雇用政策の充実（ものづくり産業、健康福祉の担い手増） （住みよいまち） ➢住みよいまちづくり	➢若者や学生が高齢者住宅にステイ
・子育てしやすいまち（将来に希望が持てるまち） ・「子育ては“ブランク”ではなく「スキル」である」という意識 ・多子健康長寿都市「京都」 ・子育てしやすく、京の雅を味わえる生活 ・男女が共に仕事と家庭を両立 ・楽しんで子育てできるまち ・子育ても孤立させない地域社会 京都 ・子ども達が輝く将来を描くことのできる京都 ・京人（みやこびと）が営む ・美・伝統・芸術を創造する都市	（子どもの視点からの子育て支援） ➢0～3歳（できれば9歳）までの人間としての基礎作りの間に十分愛情が満たされる様に、子どもからお母さんをうばわない政策 ➢子どもの24時間を見直す ➢子どもに大切にされているという感覚を生む ➢子どもをサポートするという視点からの育児サポート・教育 （子育ての条件整備） ➢合計特殊出生率2.0以上の達成できる教育、医療、住宅の整備 ➢待機児童「0」のまち「京都」の実現 ➢他府県からの若いカップル世代の流入を促進する子育て支援の整備 （コミュニティ）	➢母親自身の社会との隔離感を埋める mini スキルアップ講座（エコ、食育） ➢市立幼稚園→公立小の教育の充実 ➢環境の取組も幼児期より ➢教員の待遇アップ ➢保育所、児童館、放課後まなび教室（働いている間の子どもの居場所） ➢子育て支援ボランティア（高齢者の生きがい対策にも） ➢子どもたちに社会的な役割を与える ・観光案内、ごみ分別、掃除 ➢京都ならではの教育（特に初等教育） ➢ものづくり教育 ➢男性の育児参加 男性支援 ➢未来の京都を担う子ども、若者への郷土愛育成プログラム（京育）

	▶地域における三世代交流の場の設置 ▶高齢者のつどうサロンと働く親が安心できる地域の子ども見守り活動の融合 ▶まちの縁側 222 戦略（昔のちびっ子広場を縁側づくりへ） （男女共同参画） ▶子育てと雅の文化「男女共同参画社会の実現」 ・保育所の確保，学校教育の充実 ・雇用，就業における規則実施の強化（現実には規則等は順守されていない） ・男女共同参画社会のモデルの提示による啓発活動 ・男女共同参画のロールモデルの提示 ・学校教育・社会教育を通じた，また子ども，成人を対象とした教育の徹底 ・京都市および京都市関連機関からの実施 ・次世代育成法の徹底およびより進んだ条例の制定 （ひとづくり） ▶人を不快にさせることを恥ずかしいと思える人材の育成 ▶多文化共生，共助ネットワーク，歴史文化体験 ▶教育の充実，「京都人の育成」 ▶学校教育に活かす	
--	--	--

＜既定計画・策定中計画＞

計画名称	主な施策	主な事業・プロジェクト
子ども・若者総合支援（策）	＜提案事項＞新たな支援策の必要性 ○家庭の経済状況や課題種別を越え、生まれてから就労までの切れ目ない支援 ・家庭の経済状況に関わらず、十分な教育を受けることができる施策の展開 ・総合的、継続的な支援・指導を行うネットワークを構築し、全構成員・機関に守秘義務を課すとともに、ネットワーク内で必要な個人情報の共有・集約を可能とする法整備 ・単なる「相談窓口」でなく、権限と責任を持った総合的な「支援窓口」の創設及び国を含めた関係機関の協力義務を定める法整備 ・子ども・若者支援に関する専門職の養成・配置への財政措置	
京都市未来こどもプラン（仮称） （2010-2014）（策）	1 市民・地域ぐるみで子育てを支え合う子育て支援の風土づくり 2 子どものいのちと人権が大切にされるまちづくり 3 次世代をはぐくむすべての家庭を支援し支え合えるまちづくり 4 子どもを安心して生み健やかに育てることのできるまちづくり 5 次代を担う子どもたちが心豊かに生きる力をはぐくむことができるまちづくり	（例） ・子どもを共にはぐくむ京都市民憲章の推進 ・子育て支援ネットワークの充実 ・児童虐待対策の推進 ・安心して子育てできる保育サービスの充実 ・ひとり親家庭の自立促進等
京都市道徳教育振興会議からのメッセージ「しなやかな道徳教育を！」	～家庭で、地域で、学校で、「どうトク？」アクション～ (1)「はっきり」教える、伝える！ (2)「しっかり」見せる、示す！ (3)「じっくり」語り合い、考える！ (4)「たっぷり」体験させ、共に活動する！ 家庭で、どうトク？」アクション ▼家庭こそが、どうトク？の出発点 ▼子どもに家事の分担を ▼親も子も育つ“共育”を ▼やっぱり子どもは親の背中を見ています ▼父親も子育てにもっと参加しよう 地域で、どうトク？」アクション ▼人づくりの風土を生かして ▼地域行事にみんなで参画 ～子どもたちに役割と責任を果たす喜びを～ ▼学校へ出かけよう 「学校でどうトク？」アクション ▼道徳教育のさらなる充実を ▼先進的な取組をすべての学校に	

	▼道徳教育の情報発信を ▼子どもと向き合って	
京都市キャリア教育スタンダード「生き方探究教育」	○ 京都市キャリア教育スタンダードの概念 ○ 生き方探究教育が求められる背景 ○ 生き方探究教育の意義 ○ 生き方探究教育で育てる力 ○ 生き方探究教育と学力 ○ 生き方探究教育と道徳教育 ○ 生き方探究教育をすすめる体制づくりと校種間連携 ○ 地域ぐるみですすめる生き方探究教育 ○ 生き方探究教育推進の要点 等	

<京都未来まちづくりプラン>

施策名称	事業名称
113 一人一人の子どもを大切にするまちづくり	11301 幼稚園等での園医等による保健指導
	11302 親子で楽しく学べる健康づくりプログラムの作成と実施
	11303 児童虐待対策の推進
	11304 新生児等訪問指導事業（こんにちは赤ちゃん事業）
	11305 ふれあいの杜の充実
	11306 携帯電話・インターネットの有害情報から子どもを守る取組
	11307 薬物乱用防止・性教育指導等実践推進事業
114 男女が共に助け合って活躍するまちづくり	11402 ドメスティックバイオレンス（DV）相談支援センター設置等による DV 対策の強化
115 外国人・外国籍市民が活躍するまちづくり	11501 国際理解教育事業
122 発達障害者支援センターの拡充	12201 発達障害者支援センターの拡充
122 発達障害者支援センターの拡充	12202 発達障害児等の療育教室の拡充
131 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進	13101 子どもを共に育む親支援プログラムの策定・実践
132 安心して子育てできる保育サービスの充実	13201 同時入所 3 人目以降の保育所保育料の無料化
	13202 幼稚園における同時就園 3 人目以降の保育料のほぼ無料化
	13203 延長保育や一時保育、休日保育等の保育サービスの充実
	13204 保育所待機児童解消のための保育所整備
133 放課後の子どもたちの居場所づくり	13301 児童館・学童クラブ事業の時間延長
	13302 学童クラブの拡充
	13303 放課後まなび教室の推進
134 「子育て世代活動支援センター」の整備	13401 「子育て世代活動支援センター」計画の推進
135 第 2 児童福祉センターの設置	13501 第 2 児童福祉センター（仮称）の設置
136 子育てを支える仕組みづくり	13601 新「京（みやこ）・子どもいきいきプラン」の見直し
	13602 ひとり親家庭の自立促進
	13603 子育て支援ネットワークの充実
	13604 南区子育て支援ルーム「すくすくみなみ」の充実
156 危機管理・安全対策の推進	15601 子ども夜間交通安全教室 DVD 作成
412 土曜学習の全小・中学校への導入等	41202 英語活動等国际理解活動推進事業
414 京都の総合力でわくわく理科大好きな子どもづくり	41401 科学に親しむ風土づくり（科学リテラシー向上）のための取組
	41403 サイエンス・コラボ・ティーチャー事業
415 京都ならではのスポーツ活動や野外活動でいきいき子どもづくり	41503 野外活動を通じた青少年の育成
417 徹底して開かれた学校づくりの推進	41701 子どもが文化芸術に親しむための取組
	41702 学校運営協議会の設置拡大
419 教育環境の整備の推進	41902 南区統合小中一貫校の開設
	41903 少人数教育の推進

<共汗部会>

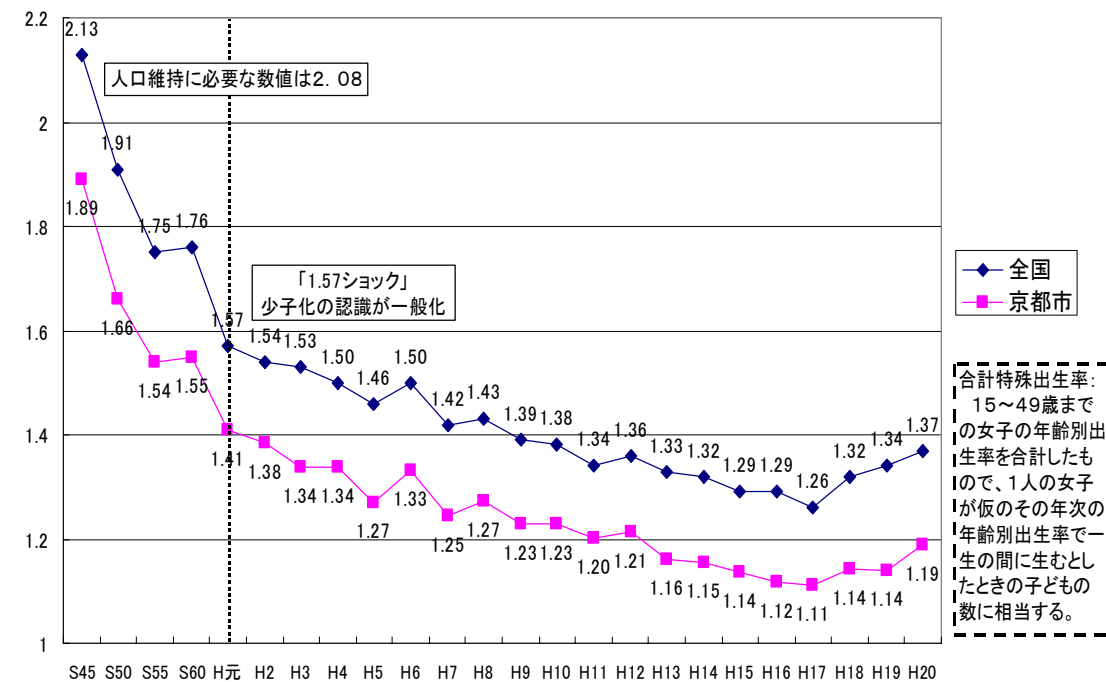
内容
・あらゆる検討項目において未来を担う子どもたちへの働きかけを行うような方法が必要（う①） ・都市経営を考えるうえで，子供の少なさが一番の課題（す①） ・子どもたちもひ弱になっている（す①）

<各種提言・発言>

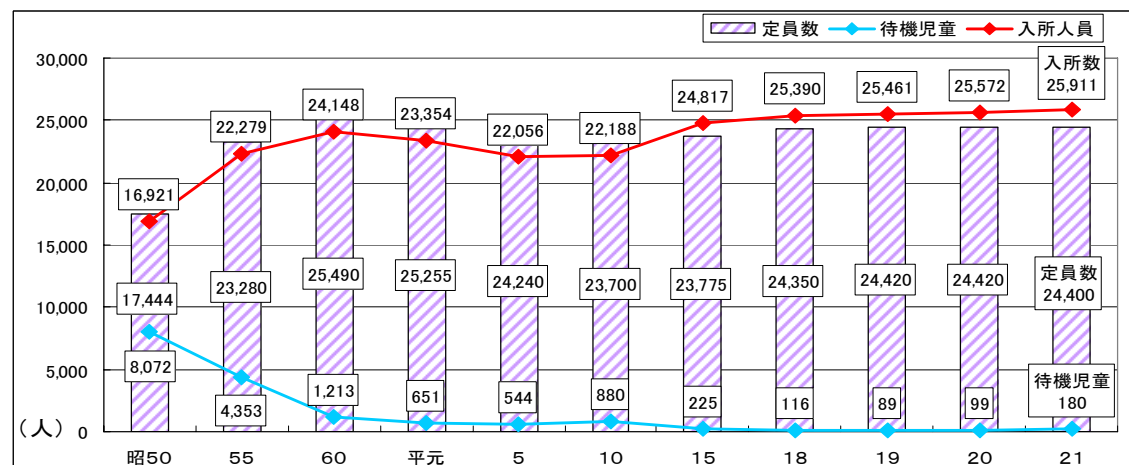
項目	内容
点検	・もっと産み育てたくなる京都に ⇒子育て支援ニーズを把握し、先進的な取組を ⇒保険医療面での支援の拡充を ⇒地域ぐるみの子育て・教育の更なる充実を ・もっと安心して健康に ⇒虐待の根絶に向け、関係機関・地域と一層の連携を
研究会	・誰もがすべてのライフステージを楽しめるまち ～子ども、若者、お年寄りに笑顔、安心、いきがい、夢を～
100人	・京都(^0^)/ にこわく - 子どもがいきいき育つような社会の実現(地域もおやじも企業も行政もそれぞれが子どもに関心を持ち活発に活動する) ・まちづくりは人づくりから - 子育ての喜びを共有し、赤ちゃんからお年寄りまで、みんなが安心して、心豊かに暮らせるまち・京都

●京都市の合計特殊出生率の推移

第2次ベビーブーム
昭和46～49年



●保育所入所状況等の推移



<資料>全 国：厚生労働省人口動態調査
京都市：京都市資料

<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
・いつまでも住みつづけたいと思える地域づくり ・日本、そして世界の人々を魅了する歴史都市、創造都市(京都を訪れたい・京都で学びたい・京都で働きたい・京都で暮らしたい) ・学生が逃げない京都 ・国内外から人々が集い住み続けるまち 京都 ・人を育てるまち、日本文化のまち ・開かれた共同が実践されるまち ・京都＝修行ができる、自分が高められる	（人材の集積） ➢「都市間競争の時代にあって輝きを失わない都市」を促進する ・企業立地の先を行く人材立地（リッチ） ➢芸術文化を産業に ・京都で芸術活動を行い、芸術活動が楽しめる条件づくり ・観光との連携、施設整備、活動支援、海外交流 ➢ファンクラブとサポーターづくり ・「ファンクラブ」：金を出す、口は出さない ・「サポーター」：金と汗と口を出す （人材育成） ➢グローバルな人材教育 ・世界からの人材、才能、頭脳が集まる制度 ➢多種多様な市民の人材交流 ➢国際市場を創設する（ベトナム、フィリピン、コリアン・・・）（多文化共生の拠点とする） ➢＜融合＞歴史遺産を現代に継承する人材育成（教育・産業） ➢まちづくり人材を先行投資的に育成する教育プログラム ➢学生→京都に引き続き居住する→まちづくりに貢献する機会を ➢修行者ネットワークの創設 ➢グローバル人材育成戦略① ・京都の文化や歴史的なバックグラウンドを理解し、地元の文化に誇りを持ち、責任ある社会人としての行動を心がけることのできる人材を養成する教育環境を初等・中等教育からスタートさせる。 ➢グローバル人材育成戦略② ・教育現場において、実際に豊富な海外経験やビジネス経験をした人たちを教育現場に配置し、その経験や実績を活かした実のある教育を実践する。 ➢グローバル人材育成戦略③ ・より多くの教員やその指導者に、民間企業等においてインターシップを体験させ、実社会を体験することにより教育者としての社会的常識の幅を広げる。 ➢グローバル人材育成戦略④ ・教員が独自性のある授業ができるようあらゆる障害を取り除く手立てを講じ、積極的にやる気のある教育者を優遇するシステムを構築する。 （雇用の確保） ➢雇用政策の充実（ものづくり産業、健康福祉の担い手増）	➢起業・就職をもっとサポート
・最先端の知にアクセスできるまち ・人が集い、学び・住み・はたらく創	（コミュニティ活性化） ➢若者文化の創造、発信の拠点と芸術文化のサポート。創作、発表の場やスぺ	

造し続ける文化自由都市・京都 ・大学のまち・京都，人材立地 ・大学都市-全国，世界の若者があこがれる都市 ・若者の活力を引き出す京都を目指して ・京人（みやこびと）が営む ・大学の街＝若者の街に ・グローバルな視点でリーダーシップが取れる優秀な人材を養成・輩出できる都市づくり ・京魂多才都市 ・革新的な都市づくりの技術と人材の育成 ・学生のまち（ポスト学生も含む）	ースの確保 （若者・大学と地域） ➢学生→学生市民へ→学生区民へ ➢学生，地域の交流 ➢大学と地域を結びつける，受け皿づくり ➢京都第二の故郷構想 ・学生に「京都学士号」を出し，卒業後もインターネットを介して情報発信，つながりを維持。 ➢若者（学生）ちょう（超）兵制度→農林，環境，福祉などに従事する ➢学生が地域で活躍できる場をつくり ➢学生→京都に引き続き居住する→まちづくりに貢献する機会を （活力，雇用） ➢「都市間競争の時代にあって輝きを失わない都市」を促進する ・企業立地の先を行く人材立地（リッチ） ➢芸術文化を産業に ・京都で芸術活動を行い，芸術活動が楽しめる条件づくり ・観光との連携，施設整備，活動支援，海外交流 ➢多様な京都の個性が元気なまち（大学，企業，宗教施設，文化） ➢研究開発型企業の育成，集積 ➢ベンチャー企業の創出 ➢創造的サービス産業の振興 ➢京都で社会ビジネスを起こそう ・社会企業家の育成。コミュニティビジネス，ソーシャルビジネス （ひとづくり） ➢教育の充実，「京都人の育成」 ➢まちづくり人材を先行投資的に育成する教育プログラム ➢大学の連携による新しい技術・人材の育成プラン	➢大学生を重点に展開 ・入学・下宿先等をプロモートするツアー ・京都に住む，働く場合の奨学金返済支援プログラム ・夏・冬の休暇期間中の家族型，グループ型，京都産業ツアー ➢若者や学生が高齢者住宅にステイ ➢大学が市民をギャラリーとして受け入れる ➢祭礼の復興 ・祭の参加について，大学の単位認定→コミュニティ再生，産業再生（伝統）観光につなげる ➢起業・就職をもっとサポート
・「誇りの持てる社会」。 ・京都ブランドをはがしても誇りを持てるまち ・京都に愛着や誇りを持てる市民であふれる ・担い手がもう少し広がった京都	（情報発信） ➢東京一極集中に対峙する情報発信で日本への貢献 ・マスメディア ・観光客 5000 万人に直に伝える （ひとづくり） ➢教育の充実，「京都人の育成」 ➢グローバル人材育成戦略① ・京都の文化や歴史的なバックグラウンドを理解し，地元の文化に誇りを持ち，責任ある社会人としての行動を心がけることのできる人材を養成する教育環境を初等・中等教育からスタートさせる。 ➢ファンクラブとサポーターづくり	➢文化財の保存・復興，歴史博物館の建設 ➢伝統文化の継承・復興。伝統芸能センターの整備 ➢歴史的景観の保全・整備 ➢祭礼の復興 ・“元”のやり方に戻す。 例）祇園祭を2回に ・祭日は小中学校を休みに ・祭の参加について，大学の単位認定→コミュニティ再生，産業再生（伝統）観光につなげる

	・「ファンクラブ」：金を出す，口は出さない ・「サポーター」：金と汗と口を出す (さまざまつながり) ➤さまざまな地域をつなぐ (例) 山間部，町中 (例) コリアンの歴史を活かす ➤地域の発展に多様な人が関わる (例) 留学生，観光客，住民 ➤多文化共生のまちづくりの推進	➤京都のランドマーク・象徴になるものを作る (100 年単位で) ➤未来の京都を担う子ども，若者への郷土愛育成プログラム (京育)
・他の生き物の暮らしに学ぶ京都 ・宗教都市 (宗教の教えを日常生活に息づかせる) ・京人 (みやこびと) が営む	(学ぶ仕組み) ➤人を不快にさせることを恥ずかしいと思える人材の育成 ➤人を信じる，人間の関わりを地域の中で培う ➤人々の交流，学びの場，拠り所としての寺院 ➤モラル・マナー向上戦略 ➤宗教の説法，哲学の講義に毎日気軽に触れられる (行動する仕組み) ➤1 %アクションの取組	➤教育の中で地域の歴史と人の勉強。行事と季節を大切に ➤伝統芸能・伝統行事等の担い手育成，門掃き，水まき等の伝承

＜既定計画・策定中計画＞

計画名称	主な施策	主な事業・プロジェクト
京都市ユースアクションプラン（第3次京都市青少年育成計画）（策） 大学のまち京都・学生のまち京都推進計画（2009-2014）	計画の最重点ポイント ■学生の確保に向けた「学びの環境」の充実 －京都で学びたくなる「大学のまち」の仕組みづくり－ ■大学の国際化に向けた、優秀な留学生等の受入の拡大と国際社会に対応した人材の育成 －留学生等の飛躍的な増加に向けた「広報」「支援」交流 ■パワーあふれる「学生のまち京都」の実現 －学生が持つエネルギーによる「京都力」の強化－ ■産学公地域連携の推進による京都地域の活性化 －産業・地域の活性化，研究成果の活用に向けた連携の強化－	重点 ○ICTを活用した次世代型単位互換制度の構築 ○大学連携による教員・職員の能力向上の取組強化 ○伝統的な文化芸術等京都ならではの学習プログラムの開発・提供 ○大学施設整備の支援と誘導 ○大学の枠を超えた学習プログラムの開発 ○海外への発進力強化 ○留学生等への住宅に関する支援 ○世界の学生が交流する機会の提供 ○京都が好きになるきっかけづくり ○留学生と日本人学生との協働・連携・交流の促進 ○日本人学生の海外への留学増加に向けた取組 ○学生の活動を応援するプロジェクトの展開 ○世界の学生が交流する機会の提供 ○京都に魅力に触れる学生生活への支援 ○学生と地域やNPO等との交流・連携の推進 ○卒業後の未来設計図を描くきっかけづくり ○京都ならではのものづくり産業の推進 ○大学と地域との連携促進に向けた取組 ○大学・研究者等の研究成果を京都の未来のまちづくりに反映
京都文化芸術都市創生計画（2007-2017）	（総合的な施策） ①日常生活における文化芸術の定着 ②伝統の継承と新たな創造活動の支援 ③文化芸術の交流の促進 ④文化芸術環境の向上 ⑤学術・産業との連携 ⑥市民の活動支援	（五つの京都先行プロジェクト） ①京都ならではの文化・景観・観光三位一体の取組の推進 ②文化芸術による魅力ある地域のまちづくりの推進 ③文化芸術に親しみ，その楽しさを知る子どもたちの育成 ④新たな文化芸術を創出する若き人材の育成 ⑤文化ボランティアなど市民参加による文化芸術都市づくり

＜京都未来まちづくりプラン＞

施策名称	事業名称
112 障害のある人が生きがいを持って社会参加するまちづくり	11202 総合支援学校高等部職業学科等の定員拡大
141 京都市立病院をはじめとする医療体制の充実	14103 京都市立看護短期大学将来構想の策定
151 若者からお年寄りまであらゆる世代が共汗する地域防災活動の充実	15104 いざというときに応急手当のできる人づくりの推進
318 ものづくり産業の振興	31803 京都モノづくりの殿堂・工房の開設
326 京都ならではの食文化・食産業の振興	32602 「食の大学院」構想の支援
	32605 食育カリキュラム，食指導の充実
351 「京のまち・まるごと博物館」構想	35104 未来へつなぐ「山科区民文化財」（仮称）の選定
352 京都の歴史・文化「世界発信プロジェクト」	35201 姉妹都市交流事業の実施
	35202 世界歴史都市連盟事務局の運営
361 芸術系大学コンソーシアム等で芸術創造都市・京都の創生	36101 京都ならではの芸術系大学コンソーシアムの設立・展開
	36102 市立芸術大学サテライト施設の運営
363 「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」	36302 「大学のまち・左京」の推進
	36303 大学地域連携モデル創造支援事業
	36304 地域と大学の連携による東山区のまちづくりの促進
364 産学公の連携で「教育支援コンソーシアム」「京都教育会議」構想の推進	36401 「京都教育会議」の創設
	36402 「大学発教育支援コンソーシアム」構想の推進
422 気鋭の研究者による「最先端研究知シンクタンク」の設置	42201 「最先端研究知シンクタンク（仮称）」の設置・運営
424 「後継者育成・支援プロジェクト」	42401 みやこ技塾
	42402 伝統産業技術後継者育成事業
433 市民誰もが文化の担い手となるまちづくり	43301 みやこ文化財愛護委員及び文化財マネージャーの育成・支援
	43302 若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり
442 職業教育プログラム「ジョブシャドウ」の実施	44201 職業教育の実施
	44202 「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業
451 「輝く学生応援プロジェクト」	45101 輝く学生応援プロジェクト
	45102 「学生ボランティア」学校サポート事業
452 新しい京都の誇り「学生祭典」などのエネルギーで未来の京都づくり	45201 学生の活動拠点の創設
	45202 お祭りネットワーク事業（仮称）
453 留学生等のパワーで国際都市・京都の更なる世界発信	45301 京都国際学生祭典の開催
	45302 留学生優待プログラム（仮称）
	45303 留学生住居整備支援プロジェクト
	45304 留学生等支援・協働事業の実施

＜共汗部会＞

内容

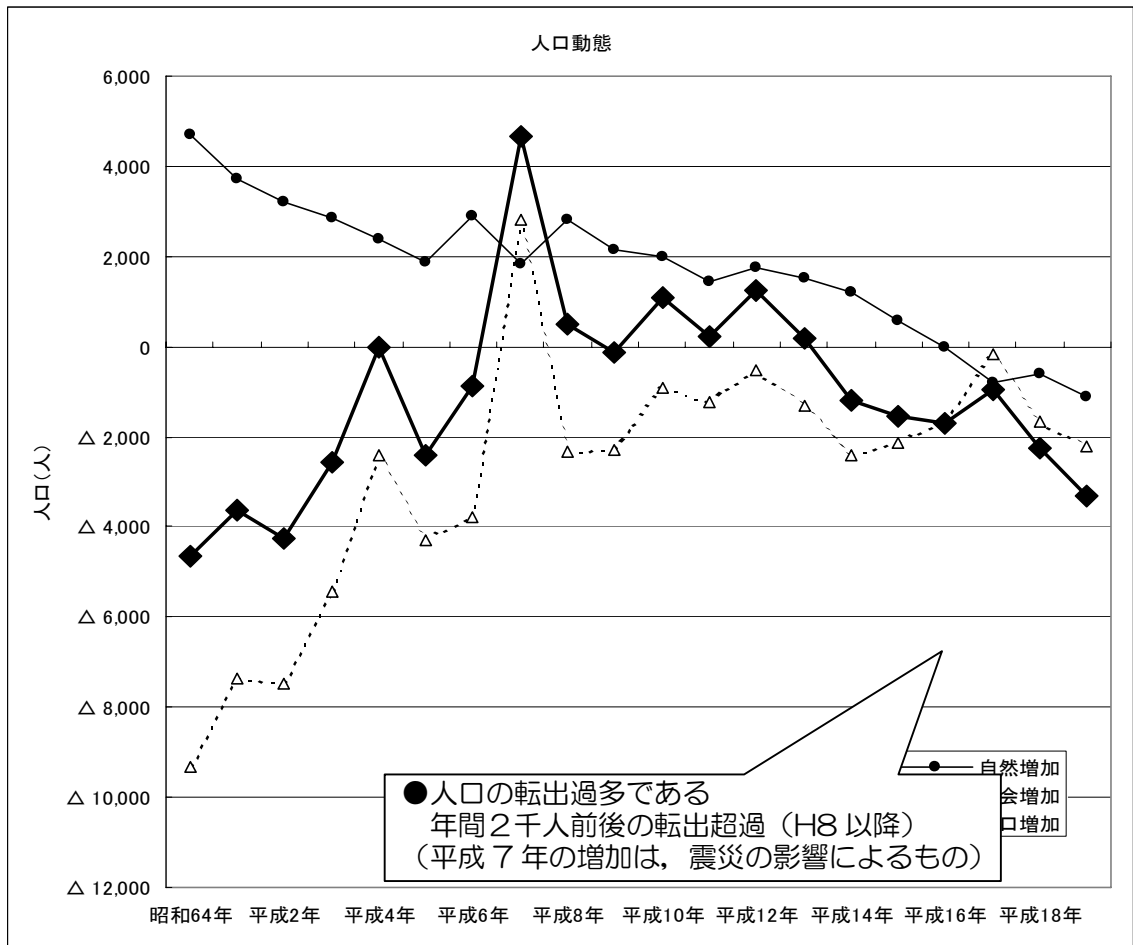
- ・外から来た人、**大学生をどう取り込んでいくのか**（う①）
- ・京都は学問のまちとして**頭脳が集結**しており、伝統を保持しつつこれらを産業につなげるまちであってほしい（ま①）
- ・**自分で道を切り拓く、夢のあるひとづくり**を教育の中で実現できないか。（す①）
- ・活性化とは人が集まること。京都で**仕事をしたいという方を集めるための仕掛け**が必要（活①）
- ・京都の企業が本社を移さないのは、京都の環境や食、街並み、伝統など、**京都というバックグラウンドが、企業に人を惹きつける鍵**となっているからである（活①）
- ・京都市の基本計画についても市民一人ひとりが自分のこととして捉えられていない。京都人が京都のことを知らないといわれるが、実は**京都に住む人が京都に興味がない**のではないか（活①）
- ・京言葉など、**京都のことを小中学生に教える**ことが、地域としての京都の魅力につながる。学校の先生だけが教えるのではないユニークな教育が必要（活①）
- ・このまま便利になっていくと、**他の都市の亜流になり魅力がなくなってしまう**。進化しているが深化していない、浅くなっていると感じる。何でも便利にしていくということでは逆にそっぽを向かれるのではないか（活①）
- ・京都は、京都らしいイメージで形ばかり「京都っぽく」なっているものの、大事な京都の部分がなくなってきており、本当の京都ということを見直していかなければならない（活①）
- ・地域の祭りがなくなると、京都の魅力がなくなるので、学生も積極的に参加を。（活②）
- ・京都の子どもたちに京都の魅力を教育の現場でアピールしていくことが大事。（活②）
- ・市民の誇りを醸成することが大事。（活②）
- ・学生が、寺社仏閣、コンサート、歌舞伎などが安く見られれば、京都にいることに対するプレミアムになる。（活②）
- ・学生にしろ、外国人にしろ、通学の人、短期滞在の人、永住の人など京都との関わり方は様々であり、それぞれに応じた視点が必要。出身地のアイデンティティは持ちながらも、京都の一市民として誇りを持って生きていけるといった観点が必要。（活②）
- ・市民が京都の文化を誇りに思うためには、小さい頃から文化や歴史、伝統行事を知る、触れる、体験し、感動する取組が必要。（う②）

＜各種提言・発言＞

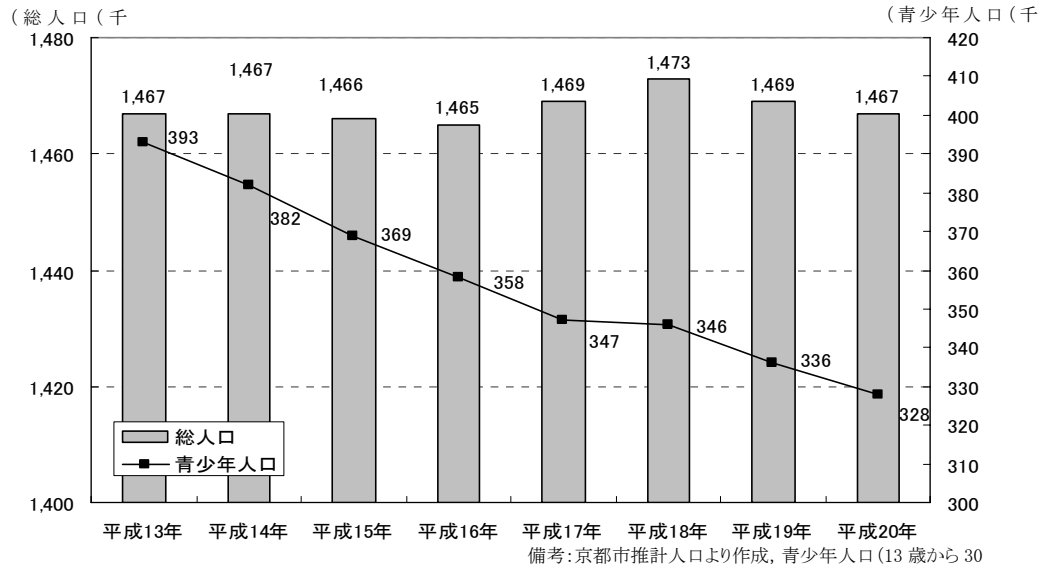
項目	内容
点検	・もっと若者に夢と希望を ⇒国等と連携して総合的なニート対策と若者の豊かな人間性や社会性を育む教育を ⇒大学のまちである特性を生かし、まちづくりに若者の力を
研究会	・交流の場を広げ発展し続ける都市 ～ひと・もの・情報を呼び込み、経済を活性化させる～
100人	・き・わ・み ～京都・若者・未来の構想～ - やりがいや目標とする仕事などを見つけた学生が京都にあふれることで、京都全体が活気に溢れる。
マニフェスト	・日本で一番、若者が地域で活躍できる街にします！ ・やる気ある若手の副業を支援するまち ・学ぶものに優しい学研都市
若者提案	・若手の修行者やアーティストなど、特定の層に絞ったネットワーク作り ・公共空間全てを若者の活躍の場として活用

●京都市の若年人口（京都市の推計人口：平成20年10月現在）

年齢区分	総数（人）	男（人）	女（人）	構成比（%）	備考
13～15歳	36,224	18,502	17,722	2.5	中学生年齢
16～18歳	40,936	20,663	20,273	2.8	高校生年齢
19～22歳	94,305	47,650	46,655	6.4	大学生年齢
13～30歳	328,269	164,250	164,019	22.4	プランの対象年齢
15～34歳	389,306	193,529	195,777	26.5	ニート、フリーターの範囲
全年齢総数	1,467,313	697,656	769,657	100.0	



●京都市の青少年の数は年々減少の傾向を続けている



●大学生数は減少傾向 (H20: 138,509人)

【全国・京都市 学生数推移】(単位: 大学・短期大学数—校 : 学生数—人)

		2004年度 (平成16)	2005年度 (平成17)	2006年度 (平成18)	2007年度 (平成19)	2008年度 (平成20)
全国	大学・短期大学数	1,217	1,214	1,212	1,190	1,182
	学生数	3,043,049	3,084,406	3,061,466	3,015,375	3,008,853
京都 市内	大学・短期大学数	38	37	38	37	37
	学生数	138,136	138,431	139,008	138,848	138,509

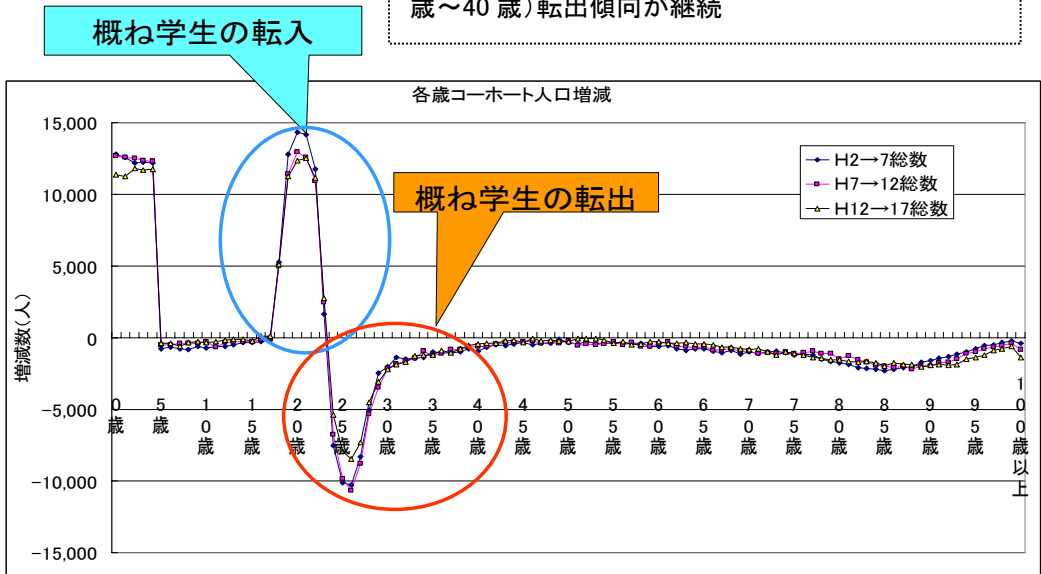
(文部科学省: 学校基本調査)

【全国私立大学・短期大学入学定員充足率の推移】(単位: 学校数—校)

大 学	2004年度 (平成16)	2005年度 (平成17)	2006年度 (平成18)	2007年度 (平成19)	2008年度 (平成20)
100%以上の学校数	378	382	329	338	299
50%以上100%未満の学校数	140	143	201	204	237
50%未満の学校数	15	17	20	17	29
(100%未満の割合)	(29.1%)	(29.5%)	(40.2%)	(39.5%)	(47.1%)
合 計	533	542	550	559	565

●学生の卒業後の市外流出

大学入学年齢(18歳)を機に転入者が増加し、卒業年齢(23歳)から転出に反転。その後も緩やかに(30歳~40歳)転出傾向が継続

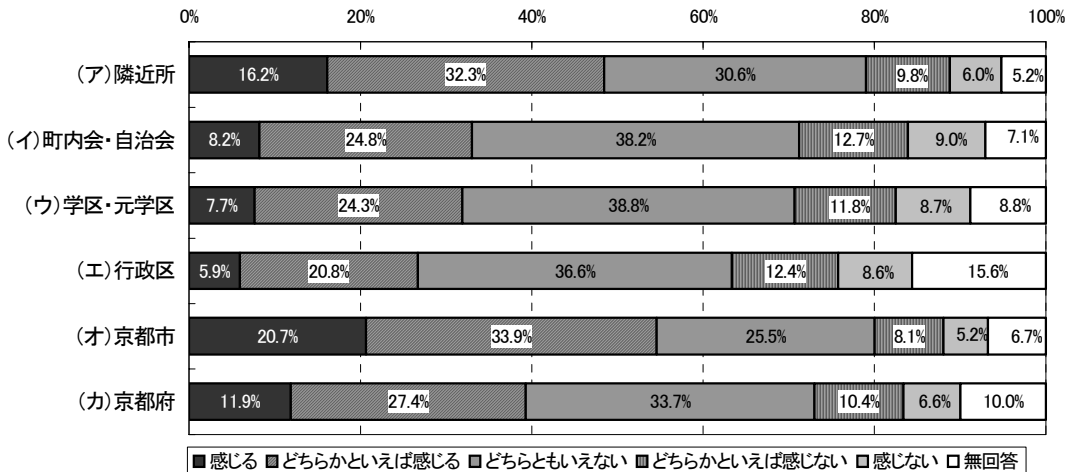


●市民の居住地に対する愛着や誇り

◆愛着や誇りを感じているのは「京都市」(55%)が最も多く、「隣近所」(49%)がこれに次ぐ

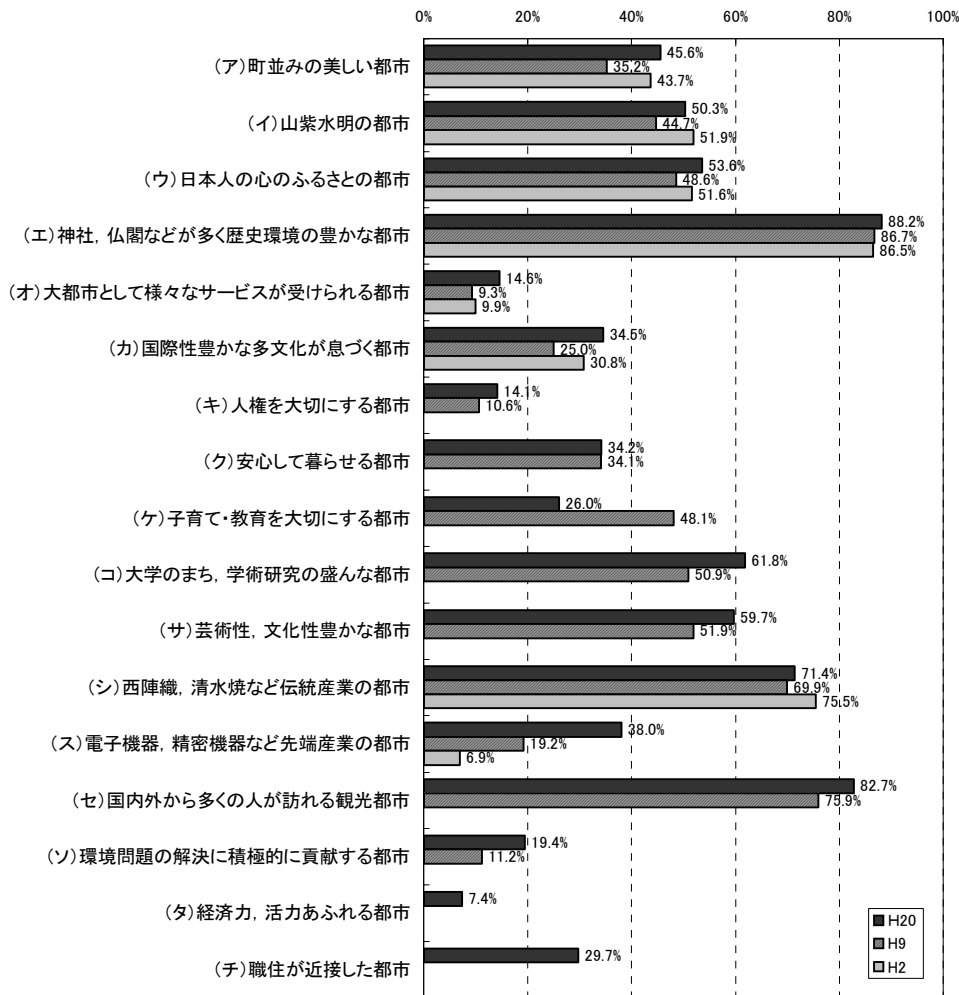
母数=4,828

問12 居住地に対する愛着や誇り <全体>



●京都の現在のイメージは、「歴史環境の豊かな都市」、「観光都市」、「伝統産業の都市」

問17 京都の持つ都市のイメージ(現在) (「そう思う」) <全体>



注) 棒及び数値のない項目は、当該調査で選択肢が設けられていない。

《全体的傾向及び他調査との比較》

「歴史環境の豊かな都市」、「観光都市」、「伝統産業の都市」といった歴史を背景としたイメージは、7割以上の方が「そう思う」と答えており、京都の代表的なイメージといえる。

前回調査と比較すると、「町並みの美しい都市」「学術研究の盛んな都市」「先端産業の都市」の項目ではそれぞれ10ポイント、11ポイント、19ポイント高くなっている一方、「子育て・教育を大切にする都市」は22ポイント低下している。

<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
・年齢、人種を越えた心温まる京都の街 ・地域で生き延びる力 ・「包み込む社会」地域コミュニティの21世紀型再建 ・子どもから高齢者まで世代を超えた日常交流のある地域づくり ・多様な主体（市民、企業、行政）が地域社会の問題解決に取り組む『共助』の京都。 ・地域の個性がキラリと輝いているまち ・人が優しいまち・支えあうまち～地域力と人間力の向上 ・ただいま都市 ・若者の活力を引き出す京都を目指して ・大人が元気に暮らせるまち、住み心地の高い街（文化度だけでなく）、伝統産業、伝統文化を大切にするまち（お金で買えない文化の蓄積） ・人と環境がやさしい京都 ・自治のまち京都	（地域分権） ➢コミュニティ政策 ・地域主権＋地域による地域運営＝エンパワーメント 例）まちづくりアドバイザー、コーディネーター ➢地域分権 ・分権とは何かをじっくり考える ・地域で地域を運営 →金と決定権限を移譲する ➢市民参加，NGOの関わり方 ・ひとづくり ・仕組みづくり ・実践 ➢市民が参加する行政 区-学区-町内会の位置づけ再構築 ➢強固なコミュニティ（地縁に頼りきらない重層的コミュニティの構築） ➢地域社会（コミュニティ）がしっかりしているまち ➢地域コミュニティの再活性化 （コミュニティの魅力向上） ➢コミュニティ単位の「わが町宣言」！ ➢地域ごとのキャッチフレーズ制定 ・おもてなし，ごみゼロなど ➢地域の個性の理解と発展 ➢質の高い社会資源の提供と定期的な把握・見直し （コミュニティにおける多様な交流） ➢地域における三世代交流の場の設置 ➢高齢者のつどうサロンと働く親が安心できる地域の子どもの見守り活動の融合 ➢多様性の活きる社会を創るため，高齢者や障害者にも地域で担える役を持ってもらう ➢元気な高齢者の知恵を活かす ➢地域の発展に多様な人が関わる （例）留学生，観光客，住民 ➢多文化共生のまちづくりの推進 ➢多文化共生，共助ネットワーク，歴史文化体験 ➢人を信じる，人間の関わりを地域の中で培う ➢誰もが生きがいをもてる地域態勢を構築 ➢ライフスタイルの変革を地域コミュニティの活発化によって	➢基本計画で「京都スタイル」な暮らし方モデルを提案 ≪情報の共有≫ ➢地域に「わたしの情報箱」の設置 ・個人・居住地を属性した情報コンテンツの創設 - 大⇒小ではなく，小⇒大へ ➢地域活動についての情報交換の場の設定（学区内も学区間も） ➢種々のグループの交流による地域の活性化 ➢子どもたちに社会的な役割を与える ・観光案内，ごみ分別，掃除 ➢伝統を支える人たちと若者のふれあい，交流の場の設置

	実現する (見守り・支え合いの仕組み) ➢ シルバー110 番（市民力で）。地域資源を中心に身近なところに相談窓口を ➢ 友愛訪問活動 ➢ おもてなしの心，支えあう心高める施策の推進 ➢ 良好な地域住民ネットワークを構築（「お互い様ですよ！！」と気軽に声かけのできる様な） ➢ まちの縁側 222 戦略（昔のちびっ子広場を縁側づくりへ） ➢ ばったん床机が似合う道づくり戦略 ➢ 交流する場所づくり ・それを結ぶ動線の充実 例）交通手段，道 (ソーシャルビジネス) ➢ 地域，学区単位で社会ビジネスを起こそう ・地域資源を活用したコミュニティビジネスを ➢ 京都で社会ビジネスを起こそう ・社会企業家の育成。コミュニティビジネス，ソーシャルビジネス ➢ 商いや物づくり（職人）が成り立つ制度改革（地域，建物） (コミュニティのサポーターづくり) ➢ 学生→学生市民へ→学生区民へ ➢ 学生，地域の交流 ➢ 学生が地域で活躍できる場をつくり ➢ 若者の活動支援ネットワークづくり ➢ 若者と地域との結びつき構築 ➢ 大学と地域を結びつける，受け皿づくり ➢ ファンクラブとサポーターづくり ・「ファンクラブ」：金を出す，口は出さない ・「サポーター」：金と汗と口を出す ➢ まちづくり人材を先行投資的に育成する教育プログラム (コミュニティ間の連携) ➢ さまざまな地域をつなぐ (例) 山間部，町中 (例) コリアンの歴史を活かす ➢ 姉妹都市のように町内会・自治会単位で過疎地域との姉妹地区協定を結ぶ	
・ 市役所から City Hall へ ・ 本物の市民参加のまち ・ 市民が市政にもっと深い関心がも	(地域分権) ➢ 地域分権 ・ 分権とは何かをじっくり考える	➢ 財政健全化のための民間資金導入・レベニューボンド，新 P F I 方式など

てる社会 ・個人を主人公とした情報開示都市 京都	・地域で地域を運営 →金と決定権限を移譲する ➤市民が参加する行政 区-学区-町内会の位置づけ再構築 ➤コミュニティ政策 ・地域主権+地域による地域運営=エンパワーメント 例) まちづくりアドバイザー, コーディネーター (透明性) ➤市のあらゆる施策が市民にひらかれている (コミュニティ活性化) ➤公民協働の多彩な「地域プロジェクト」の創生 ➤コミュニティ単位の「わが町宣言」！	➤京都のランドマーク・象徴になるものを作る(100年単位で)
--------------------------------	---	--------------------------------

＜既定計画・策定中計画＞

計画名称	主な施策	主な事業・プロジェクト
京（みやこ）・地域福祉推進指針	1 ネットワークの強化 2 担い手，創り手（＝地域福祉活動者）の育成 3 「大学のまち京都」ならではの地域福祉の展開 4 住民主体の取組の拡大 5 福祉サービスの適切な運営及び困難事例等に対する公的対応・公的責任 6 住民の権利保障・擁護の仕組みづくり 7 災害時における取組の支援 8 その他円滑な活動のための取組	
地域コミュニティ活性化に関する懇話会（策）		
新京都市市民参加推進計画（策）		

<京都未来まちづくりプラン>

施策名称	事業名称
124 まちの安心・安全を「地域の支え合い」で推進	12402 地域の安心安全ネットワーク形成事業
138 「地域見守り隊」の創設	13801 学校安全ボランティア活動の振興
	13802 地域の安心安全ネットワーク形成事業（再掲）
151 若者からお年寄りまであらゆる世代が共汗する地域防災活動の充実	15101 高齢者等を火災から守る住宅用火災警報器の設置促進
	15102 消防団の装備の充実と入団促進
	15103 文化財市民レスキュー体制の充実
	15105 市民防災行動計画の充実
152 あらゆる災害から市民のいのちを守る情報伝達収集体制の整備	15201 消防防災通信ネットワークの高度化
	15202 水災予測システムの整備など市民への情報伝達体制の構築
153 防災拠点施設の整備	15301 消防署・消防出張所の整備
	15303 文化財とその周辺を守る防災水利整備
156 危機管理・安全対策の推進	15602 危機管理対策の充実強化
	15603 交通安全対策の推進
419 教育環境の整備の推進	41904 市立学校の校庭芝生化
432NP0 やボランティア等の活躍の場を広げる自治・自立・協働のまちづくり	43202 北区北部山間いきいき大作戦～活気と魅力あふれる地域おこしの具体化に向けて～
434 京都の都市格と存在感を高める新しい住民自治の実現	43402 自治会とマンションの融合で地域力の強化を
435 未来の京都「地域まちづくりモデル」の推進	43501 地域コミュニティの活性化に向けた方策の調査・検討

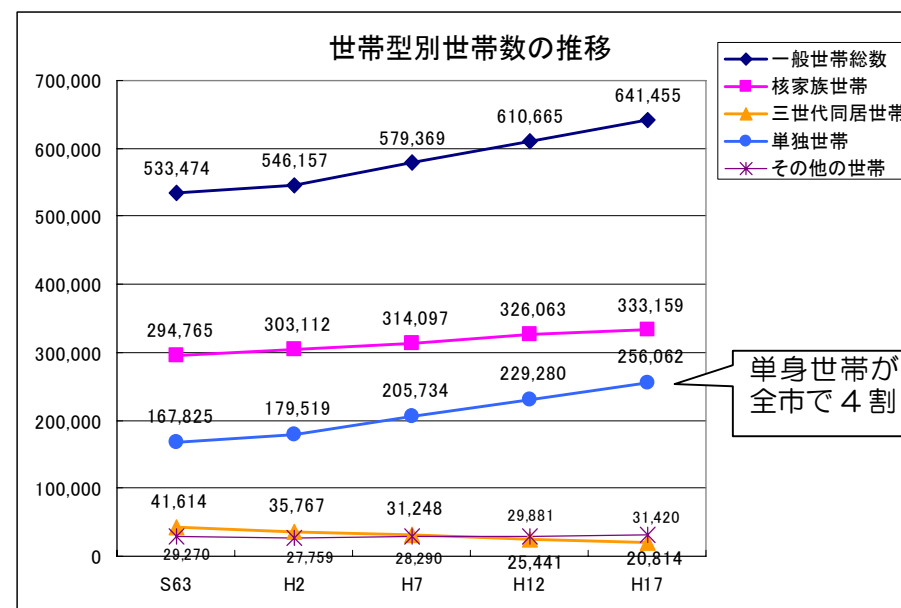
<共汗部会>

内容
・市民参加を語るときに市民活動、地域の自立を無視しては進められない（う①） ・今の親世代は「家族」が優先で、次が「地域」となっている（す①） ・伝統行事の担い手の世代交代ができていない（活①） ・市民が市政や地域活動に参加する契機となるインパクトのある政策があればよい。（う①） ・市民が行政に何をしてもらえるのかではなく、市民が何をできるのかを考えるべき（う①） ・これが市民の義務だということを書けば、できるか、できないかを市民が議論し、自覚を持って参画してくるのではないかと（う①） ・これまで行政の施策はどうしても行政のものであり、市民に分かりにくいことが悩み（活①） ・行政には、市民が自ら行動するためのサポートが求められている（活①） ・心のサポートが必要な大学生に、地域の方々が声をかけてくれるようなことがあれば。（活②）

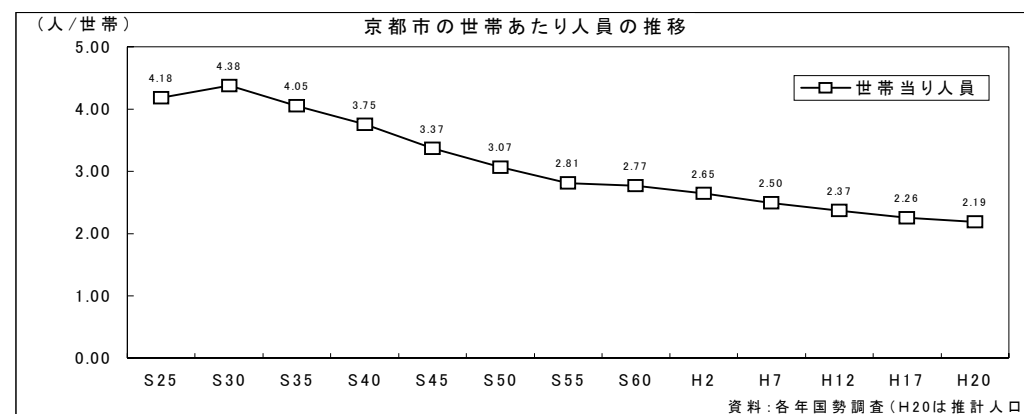
＜各種提言・発言＞

項目	内容
点検	・もっと広範な市民参加を ⇒学区など身近な地域で課題の検討と交流の促進を ⇒「団塊の世代」に地域活動を ⇒区役所や景観・まちづくりセンターなど市民に身近な市政参加の場の充実を ・もっと一緒に考える工夫を ⇒市民ボランティアとの協働を ⇒活字離れ時代に対応し、新たな工夫を ⇒目に見える形でまちづくりの将来像を
研究会	・助け合う地域、見守る社会、住み続けたい京都 ～これまでの資源を活かした市民主体による京都ならではの風を感じるコミュニティづくり～
100人	・人をつなぐ福祉のコミュニティづくり ご近所さんを気にかけて、声をかけ、学区単位に気軽に話せる居場所があり、気楽に助け合える素地を地域に取り戻すこと
マニフェスト	・都市と周辺部が密接に関連するまち
若者提案	・若者が学区に愛着を持てるよう、学区長の配置 ・みんなが無理なく少しだけ努力（1％）する

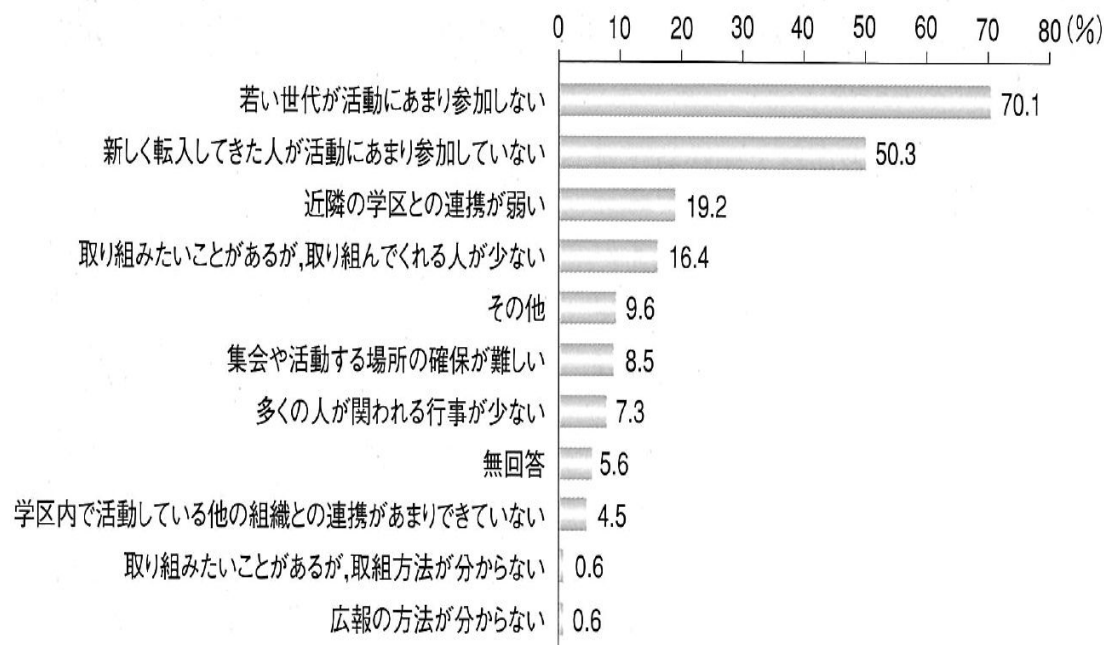
●単身世帯の増加が進んでいる。



●コミュニティが弱体化している。世帯あたり人員は2.19人（H20）



●学区内の活動について、課題は何ですか？



●市政参加の仕組みや機会が、市民に十分には実感されていない

Q. 市の方針や仕事の内容について、企画段階から市民が意見を言う機会が十分にある。

【平成 21 年度調査結果】

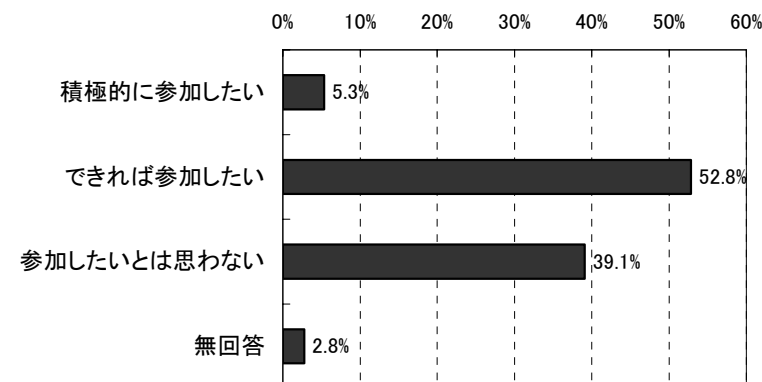
	回答者数	回答率
a: そう思う	3	0.5%
b: どちらかというと思う	48	8.5%
c: どちらとも言えない	209	37.0%
d: どちらかというと思わない	159	28.1%
e: そう思わない	146	25.8%
有効回答数	565	

「どちらかというと思わない」「そう思わない」の合計が半数を超えて (54%) いる。

●過半数の市民が市政への参加を希望

市民の市政への参加希望としては、「できれば参加したい」が最も多く 53% となっており、「積極的に参加したい」の 5% を加えると、58% の市民が市政への参加希望があるといえる。

問14 市政への参加希望 <全体>



(1.2 万人市民アンケート)

資料：平成 21 年度 京都市市民生活実感調査

<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
・多子健康長寿都市「京都」 ・持続と健康のためのライフスタイル（LOHAS）をつくり出す都市	（健康を育む環境） ➢自動車に不便なまち。自転車利用促進。歩くことで、生活習慣の変更	➢パブリックスペースの全面禁煙の条例化 ➢生活習慣病対策の充実 ➢ごみの仕分けを地域住民のコミュニティビジネスにしていく ・生ごみ処理も
・いつまでも住みつづけたいと思える地域づくり ・ノーマライゼーション発展型まちづくり ・人にやさしくぬくもりと活力のある都市	（住みやすい環境） ➢居住，建築物…景観 ・公共建築物から更新，改修 ・風の通るまちづくり ・緑のあるまちづくり ➢人にやさしい歩きやすい街路整備 （みんなで地域を担う） ➢若者（学生）ちょう（超）兵制度→農林，環境，福祉などに従事する ➢多様性の活きる社会を創るため，高齢者や障害者にも地域で担える役を持ってもらう	➢交差点座標化

＜既定計画・策定中計画＞

計画名称	主な施策	主な事業・プロジェクト
京（みやこ）・地域福祉推進指針	1 ネットワークの強化 2 担い手，創り手（＝地域福祉活動者）の育成 3 「大学のまち京都」ならではの地域福祉の展開 4 住民主体の取組の拡大 5 福祉サービスの適切な運営及び困難事例等に対する公的対応・公的責任 6 住民の権利保障・擁護の仕組みづくり 7 災害時における取組の支援 8 その他円滑な活動のための取組	
第4期京都市民長寿すこやかプラン（-2011）	重点課題1：認知症をはじめとする要援護高齢者及びその家族の生活支援 1 介護サービスの充実 2 介護保険以外の保健福祉サービスの充実 3 認知症高齢者対策の推進 4 高齢者虐待防止事業の推進 5 療養病床の再編成と円滑な転換に向けた支援 重点課題2：総合的な介護予防の推進 1 地域包括支援センターを軸とした介護予防ケアマネジメント体制の充実 2 地域支援事業による介護予防サービスの提供 3 予防給付による介護予防サービスの提供 重点課題3：健康増進・生きがいづくりの推進 1 主体的な健康づくりの推進 2 多様な生きがいづくりの推進 重点課題4：地域における総合的・継続的な支援体制の整備 1 地域の特性に応じた地域密着型サービスの提供 2 地域ケア関係機関の連携 3 相談・情報提供体制の充実 4 地域住民による自主的な活動の推進 5 ひとり暮らし高齢者等への支援 重点課題5：介護保険事業の適正かつ円滑な運営 1 介護サービスの質的向上 2 介護保険給付の適正化 3 介護に従事する人材の確保・定着 重点課題6：誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進	
支えあうまち・京（みやこ）のほほえみプラン（京都市障害保健福祉推進計画 2008-2012）	1. みとめあう（人権の尊重と理解・協働の促進） 2. ささえあう（相談支援と情報・コミュニケーション支援の強化） 3. すこやかに（保健・医療の充実） 4. はぐくむ（教育・育成の充実） 5. くらす（地域社会生活への支援の拡充）	

	6. はたらく（雇用促進と就労支援の強化） 7. ととのえる（生活環境の整備と生活の質の向上）	
第2期京都市障害福祉計画（-2010）	（1）訪問系サービス （2）日中活動系サービス （3）居住系サービス （4）その他のサービス	障害児・者福祉サービス利用支援策「新京都方式」 1 障害福祉サービス等に係る利用者負担の軽減 2 サービス事業者・施設への支援策 障害者就労支援推進事業 1 障害者職業能力開発プロモート事業 2 障害者職場実習・チャレンジ雇用推進事業 あんしん生活緊急サポート事業 1 障害者緊急短期入所事業 2 重度障害者入院時コミュニケーション支援等介護人派遣事業
京都市交通バリアフリー全体構想	2 バリアフリー化推進に係る基本方針 （1）段差解消を優先したバリアフリー化の推進 （2）移動制約者の特性を踏まえたバリアフリー化の推進 （3）利用者の意向に配慮したバリアフリー化の推進 （4）「心のバリアフリー」の推進	
第4次きょうと男女共同参画推進プラン（策）	計画の体系 ○基本目標（6項目）→施策の方針（17項目）→推進施策（70項目）	男女の人権の確立 ▽ドメスティック・バイオレンスを受けた女性の保護と自立支援（推進施策3） ▽様々な機会・広報媒体を通じた啓発の推進（推進施策5） ▽児童・生徒の発達段階を踏まえた男女平等教育の推進（推進施策10） 働く場における男女共同参画の推進 ▽企業等における男女雇用機会均等対策の促進（推進施策15） ▽企業等における両立支援の取組の促進（推進施策19） ▽子育てしながら働き続けられる条件整備（推進施策20） ▽女性の職業能力の開発（推進施策22） 家庭や地域等における男女共同参画の推進 ▽家庭生活における男女共同参画に向けた男性の意識と能力の向上（推進施策57） ▽地域における子育て支援の充実（推進施策32） ▽男女の協力による地域の活性化の促進（推進施策65） 政策・方針決定過程への男女の均等な参画の促進 ▽意思決定の場に男女が共に参画できる条件整備（推進施策53） ▽市の審議会等における男女構成比の均衡の確保（推進施策54）

新世紀「スポーツごころ」推進プラン (京都市市民スポーツ振興計画) (-2010)	1 ハードウェアに関する施策 (1) 地域体育館における市民スポーツ交流拠点機能の充実 (2) 多様なスポーツ施設の整備, 充実 (3) 利用しやすい施設の管理・運営 2 ソフトウェアに関する施策 (1) 市民スポーツ活動を支援する情報システム「スポーツウェブ京都」の創設 (2) 多様化するスポーツニーズに対応した事業の展開 (3) スポーツ大会の充実 3 ヒューマンウェアに関する施策 (1) 多様なタイプの市民スポーツ支援人材の育成 (2) 市民スポーツ組織への支援とネットワークの充実	
京都市民健康づくりプラン (中間評価 及び見直し) (-2012)	全般的な課題と今後の重点取組方針 ＜今後の重点取組方針＞ ○ 「京都市民健康づくりプラン」の普及の推進 ○ 食育の推進 ○ 口腔保健の充実 ○ たばこ対策の強化 ○ がん対策の強化 ○ メタボリックシンドローム (内臓脂肪症候群) 対策の強化	

<京都未来まちづくりプラン>

施策名称	事業名称
111 「人権文化」の息づくまちづくり	11101 世界人権問題研究センターの充実整備の検討 11102 「人権文化」の息づくまちづくりの推進
112 障害のある人が生きがいを持って社会参加するまちづくり	11201 障害者就労支援推進事業
114 男女が共に助け合って活躍するまちづくり	11401 第4次「きょうと男女共同参画推進プラン」の策定 11403 市の審議会等への女性委員の登用促進
121 お年寄り健やか介護の充実	12101 介護サービス基盤の充実 12102 地域介護予防推進事業
123 ユニバーサルデザインの推進	12302 みやこ UDF 活動支援（ユニバーサルデザイン（バリアフリー）情報等の提供） 12303 バリアフリーに対応した機能性や仕様をもつ建築物の顕彰制度の創設 12306 人にやさしい(ユニバーサルデザイン)店舗づくりやサービス提供の普及促進
124 まちの安心・安全を「地域の支え合い」で推進	12401 一人暮らしお年寄りの見守り等の推進
131 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進	13102 企業等における仕事と家庭生活の両立支援の取組の促進 131030K 企業認定システムの推進
137 子どもたちの命を守る医療体制の充実	13702 急病診療所における夜間診療体制の充実強化
141 京都市立病院をはじめとする医療体制の充実	14101 京都市立病院整備運営事業の実施 14104 山間部等の地域医療や救急体制の充実（京北病院の運営） 14105 救急救命士やメディカルコントロール体制の充実
142 健康で笑顔の市民づくり	14201 がんの予防及び早期発見の推進等 14202 食育推進事業 14203 健康づくりサポート事業 14204 京都市立病院におけるがん対策 14205 口腔保健推進行動指針（仮称）の策定と京都市民健康づくりプランの評価
151 若者からお年寄りまであらゆる世代が共汗する地域防災活動の充実	15106 学生消防サポーター制度の充実
253 自然を守りつつ若い世代等が移り住める新しいまちづくり	25301 北部山間地域の子育て支援～広げよう！やまの子育ての輪～
341 いきいきお年寄りのネットワークづくり	34101 いきいきお年寄りのネットワークづくり
342 お年寄りの知恵や経験を活かす「知恵シルバーセンター」	34201 「知恵シルバーセンター（仮称）」の設置・運営
441 「地域若者サポーター」制度の創設	44101 地域若者サポーター制度・登録サポーター制度の運用
444 青少年の総合的な相談・支援窓口の設置	44401 地域若者サポーター制度・若者サポートステーションの運営 44402 青少年活動センターでの成長支援、交流促進
521 「同和行政終結後の行政の在り方総点検委員会」からの提言を踏まえた見直し	52102 政策目的入居促進事業

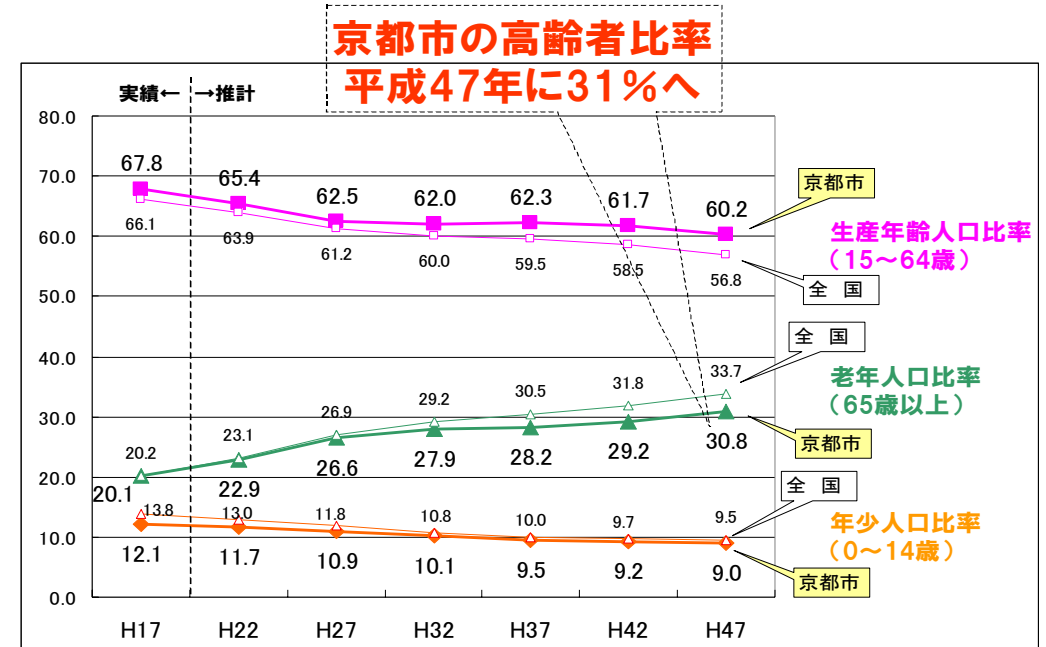
＜共汗部会＞

内容
・若い人のエネルギーと年寄りの知恵を融合するという姿勢が大切（活①） ・自助の拡大という言葉があるが、個人で解決できない問題が広がっている（す①） ・障害者や認知症の方への詐欺など社会のせこさがあるなかで、京都から進んだ提言を（す①） ・生活習慣病関連の医療費削減が課題（す①） ・うつ病が非常に増えている（す①） ・自分の体を自分でチェックし管理するという意識付けを。（す②） ・世代間交流，各団体の連携の強みを今後も充実させることを基本方向に。（す②） ・高齢者福祉も子育て支援も，地域を一体的に考える。（す②）

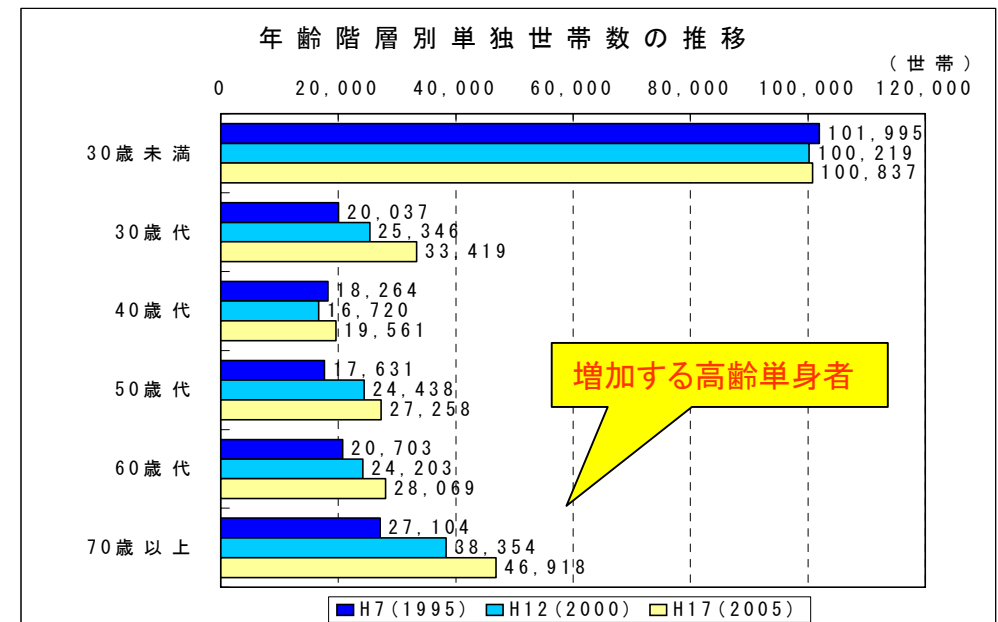
<各種提言・発言>

項目	内容
点検	・もっと安心して健康に ⇒ユニバーサルデザインと、社会参加の推進を ⇒食育と食の安全の推進, メタボリック対策をはじめ予防的措置を ⇒虐待の根絶に向け関係機関・地域と一層の連携を
研究会	・誰もがすべてのライフステージを楽しめるまち ～子ども, 若者, お年寄りに笑顔, 安心, いきがい, 夢を～
100人	・京都(^0^)/ にこわく - 子どもがいきいき育つような社会の実現(地域もおやじも企業も行政もそれぞれが子どもに関心を持ち活発に活動する) ・まちづくりは人づくりから - 子育ての喜びを共有し, 赤ちゃんからお年寄りまで, みんなが安心して, 心豊かに暮らせるまち・京都

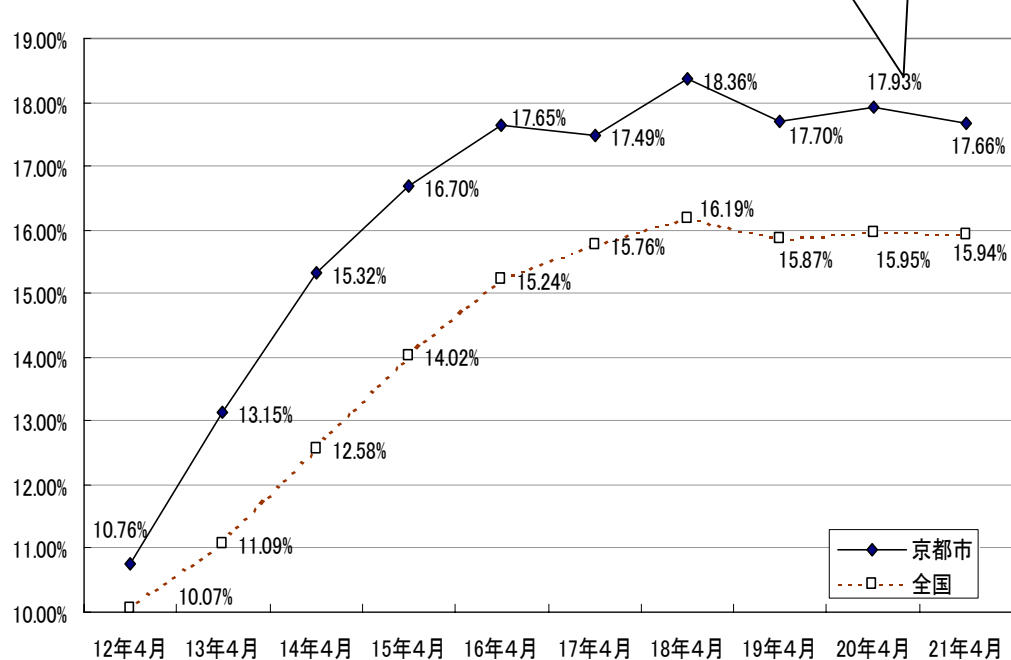
●京都市の将来推計人口の年齢別構成



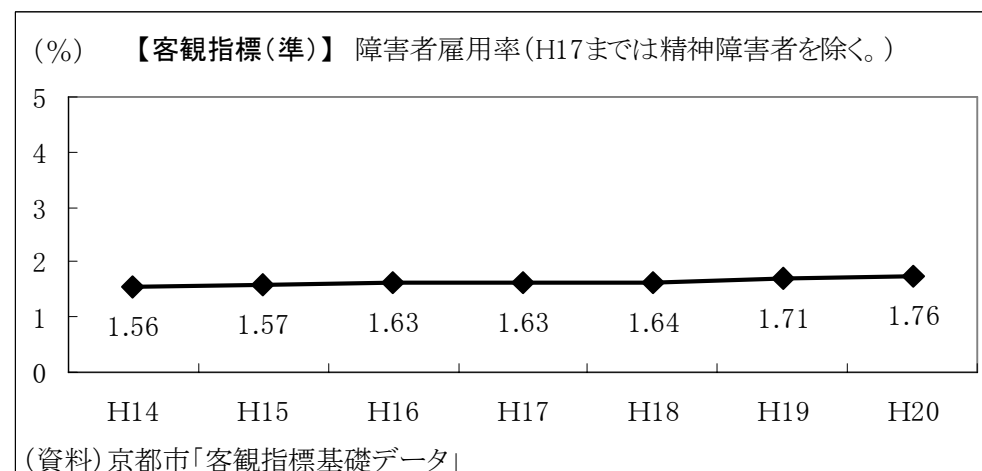
(国立社会保障・人口問題研究所資料による将来推計)



●要介護（要支援）認定者出現率の推移



●障害者の法定雇用率（民間1.8%）が未達成



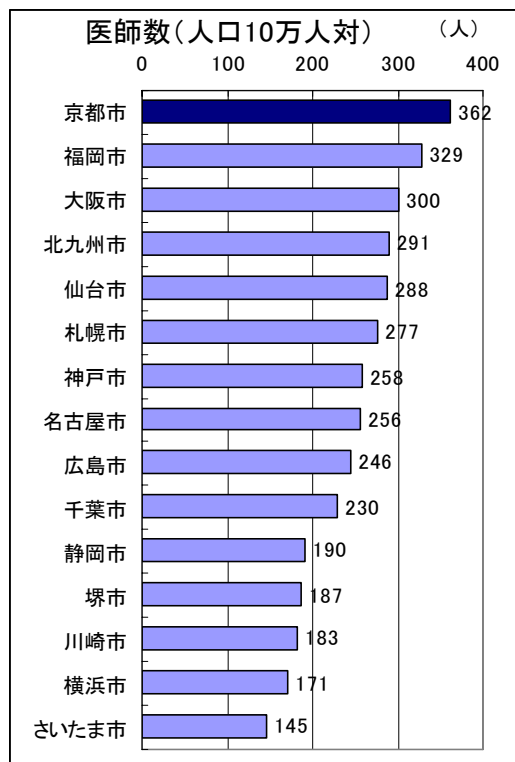
●3（身体・知的・精神）障害の全てが年々増加

障害者手帳交付数の推移

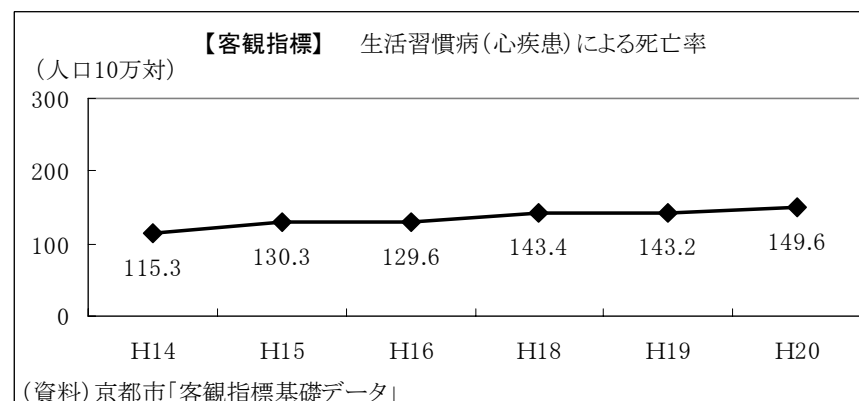
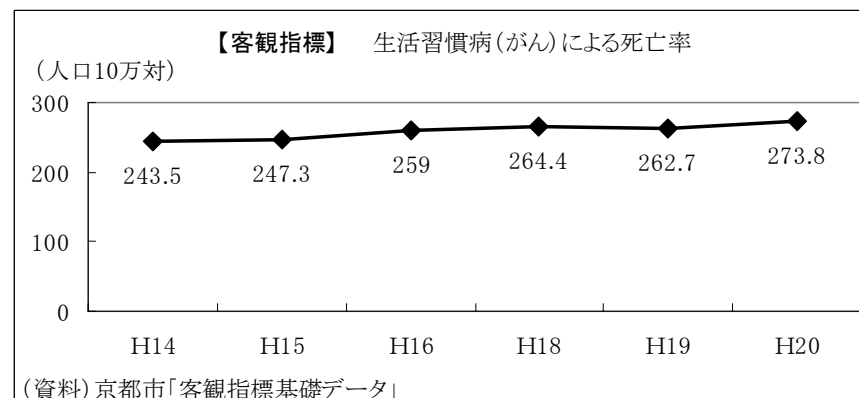
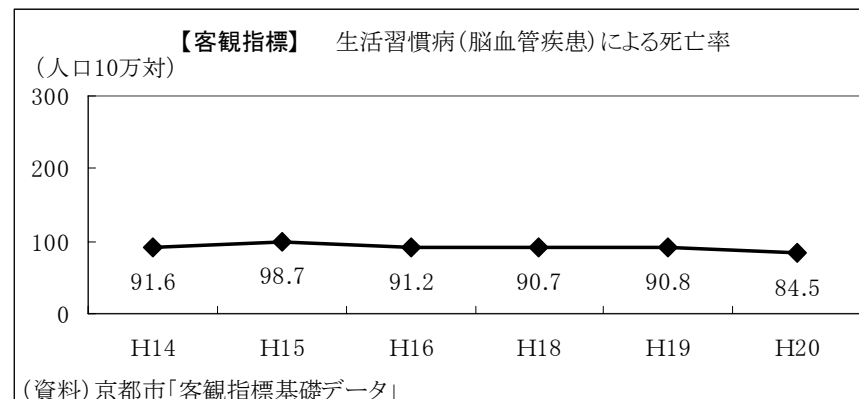
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
身体障害者	68,746	68,449	70,239	72,689	74,430	78,481	81,809
知的障害者	8,307	8,733	9,111	9,495	9,938	10,277	10,641
精神障害者	5,223	5,989	6,809	7,741	8,913	9,678	10,364

資料:京都市保健福祉局

●政令市における医療従事者数
(平成18年12月31日時点)



●生活習慣病(がん, 心疾患)は若干増加傾向(脳血管疾患は減少傾向)



《未来像》	《未来像に対応する政策分野（２５分野）》				《重点戦略》	《重点戦略に対応する計画等》
低炭素*の京都をつくる 急速な地球温暖化の進行を止めるために，人為的な炭素ガス排出量の削減，化石燃料に依存しない交通，森林等の自然環境を守り，まち全体を持続可能な低炭素なまちにする。 * 温室効果ガスの排出が少ない	うるおい部会	活性化部会	すこやか部会	まちづくり部会	環境共生のまちづくりを進める戦略 人と公共交通を優先する「歩くまち・京都」戦略 歴史・文化を活かした景観まちづくりを進める戦略 公民協働による活力と個性に満ちた拠点を創出する戦略 観光スタイルと観光都市としての質を高める戦略 ソフトパワーを活かして新産業を創造する戦略 先進的な子育て支援や教育など，子育てしやすいまちをつくる戦略 未来の担い手を育成する戦略 地域コミュニティを再生する戦略 少子・長寿社会における世代間交流を進める戦略	「環境にやさしいライフスタイルを考える市民会議」提言 「木の文化を大切にするまち・京都」市民会議 京（みやこ）の環境共生推進計画 京都市環境モデル都市行動計画 新京都市循環型社会推進基本計画 京都市一般廃棄物（ごみ）処理基本構想 新京都市循環型社会推進基本計画 新京都市緑の基本計画 京都市高速鉄道事業経営健全化計画 京都市自動車運送事業経営健全化計画 「歩くまち・京都」総合交通戦略 京都市交通バリアフリー全体構想 京都未来まちづくりプラン 新京都市景観政策 京都市景観政策検証システム（策） 京都市歴史的風致維持向上計画 生涯学習新世紀プラン“新たな展開” らくなん進都（高度集積地区）まちづくり推進プログラム 新・京都市南部創造まちづくり推進プラン 京都駅南口周辺地区まちづくり指針 次期京都市都市計画マスタープラン 新京都市住宅マスタープラン 「京都水族館（仮称）整備構想」に係る答申 新「京都市動物園構想」 京都会馆再整備基本構想 岡崎地域活性化構想（仮称） 未来・京都観光振興推進計画～2010^{＋5} 京都市 MICE 戦略 京都市国際化推進プラン 新京都市産業振興ビジョン コンテンツビジネス産業振興施策 京都市立芸術大学整備・改革基本計画 京都市伝統産業活性化推進計画 新農林行政基本方針 京都文化芸術都市創生計画 第4次きょうと男女共同参画推進プラン 子ども・若者総合支援 京都市未来子どもプラン（仮称） 京都市道徳教育振興会議からのメッセージ「しなやかな道徳教育を！」 京都市キャリア教育スタンダード「生き方探求教育」 食育推進プラン 京都市ユースアクションプラン（第3次京都市青少年育成計画） 大学のまち京都・学生のまち京都推進計画 京都文化芸術都市創生計画 子どもを共に育む京都市民憲章（人づくり21世紀委員会提言） 京（みやこ）・地域福祉推進指針 地域コミュニティ活性化に関する懇話会 新京都市市民参加推進計画 京（みやこ）・地域福祉推進指針 第4期京都市民長寿すこやかプラン 支えあうまち・京（みやこ）のほほえみプラン（京都市障害保健福祉推進計画） 第2期京都市障害福祉計画 京都市交通バリアフリー全体構想 第4次きょうと男女共同参画推進プラン 新世紀「スポーツごころ」推進プラン（京都市市民スポーツ振興計画） 京都市民健康づくりプラン（中間評価及び見直し）
	環境 市民生活 文化	産業・商業 農林業 観光	地域福祉 学校教育 生涯学習	都市づくり 景観 歩くまち 都市基盤 住宅 消防・防災・都市づくり（建築物の安心安全） くらしの水		
	環境 市民生活 文化 スポーツ	産業・商業 農林業 観光	学校教育 生涯学習	景観 都市基盤		
京都型経済モデルをつくる 「低炭素社会を先導する産業」，「デザイン，味，水等，京都の伝統文化を活かした産業」，「観光産業」などが連鎖する新しい京都型経済モデルをつくる。	環境 文化 スポーツ	産業・商業 農林業 観光 大学 国際化 行政経営の大綱	学校教育 生涯学習	景観 都市基盤 歩くまち	観光スタイルと観光都市としての質を高める戦略 ソフトパワーを活かして新産業を創造する戦略 先進的な子育て支援や教育など，子育てしやすいまちをつくる戦略 未来の担い手を育成する戦略 地域コミュニティを再生する戦略 少子・長寿社会における世代間交流を進める戦略	未来・京都観光振興推進計画～2010^{＋5} 京都市 MICE 戦略 京都市国際化推進プラン 新京都市産業振興ビジョン コンテンツビジネス産業振興施策 京都市立芸術大学整備・改革基本計画 京都市伝統産業活性化推進計画 新農林行政基本方針 京都文化芸術都市創生計画 第4次きょうと男女共同参画推進プラン 子ども・若者総合支援 京都市未来子どもプラン（仮称） 京都市道徳教育振興会議からのメッセージ「しなやかな道徳教育を！」 京都市キャリア教育スタンダード「生き方探求教育」 食育推進プラン 京都市ユースアクションプラン（第3次京都市青少年育成計画） 大学のまち京都・学生のまち京都推進計画 京都文化芸術都市創生計画 子どもを共に育む京都市民憲章（人づくり21世紀委員会提言） 京（みやこ）・地域福祉推進指針 地域コミュニティ活性化に関する懇話会 新京都市市民参加推進計画 京（みやこ）・地域福祉推進指針 第4期京都市民長寿すこやかプラン 支えあうまち・京（みやこ）のほほえみプラン（京都市障害保健福祉推進計画） 第2期京都市障害福祉計画 京都市交通バリアフリー全体構想 第4次きょうと男女共同参画推進プラン 新世紀「スポーツごころ」推進プラン（京都市市民スポーツ振興計画） 京都市民健康づくりプラン（中間評価及び見直し）
	環境 市民生活 青少年対策 人権・男女共同参画社会 文化 スポーツ	産業・商業 農林業 観光 大学 国際化 行政経営の大綱	子育て支援 障害者福祉 地域福祉 学校教育 生涯学習	都市づくり 景観		
	市民生活 青少年対策 人権・男女共同参画社会 文化 スポーツ	行政経営の大綱	子育て支援 障害者福祉 地域福祉 高齢者福祉 保健医療 学校教育 生涯学習	都市づくり 消防・防災・都市づくり（建築物の安心安全）		
協力社会をつくる 色々なところに参加できる仕組みが整い，みんなが無理なく少しずつ努力することで，市民参加を多面的に高め，自律的な地域コミュニティを育み，すべての人々が共に尊厳を認め合い，支えあう安心・安全なまちにする。	市民生活 青少年対策 人権・男女共同参画社会 文化 スポーツ	行政経営の大綱	子育て支援 障害者福祉 地域福祉 高齢者福祉 保健医療 学校教育 生涯学習	都市づくり 消防・防災・都市づくり（建築物の安心安全）	環境共生のまちづくりを進める戦略 人と公共交通を優先する「歩くまち・京都」戦略 歴史・文化を活かした景観まちづくりを進める戦略 公民協働による活力と個性に満ちた拠点を創出する戦略 観光スタイルと観光都市としての質を高める戦略 ソフトパワーを活かして新産業を創造する戦略 先進的な子育て支援や教育など，子育てしやすいまちをつくる戦略 未来の担い手を育成する戦略 地域コミュニティを再生する戦略 少子・長寿社会における世代間交流を進める戦略	「環境にやさしいライフスタイルを考える市民会議」提言 「木の文化を大切にするまち・京都」市民会議 京（みやこ）の環境共生推進計画 京都市環境モデル都市行動計画 新京都市循環型社会推進基本計画 京都市一般廃棄物（ごみ）処理基本構想 新京都市循環型社会推進基本計画 新京都市緑の基本計画 京都市高速鉄道事業経営健全化計画 京都市自動車運送事業経営健全化計画 「歩くまち・京都」総合交通戦略 京都市交通バリアフリー全体構想 京都未来まちづくりプラン 新京都市景観政策 京都市景観政策検証システム（策） 京都市歴史的風致維持向上計画 生涯学習新世紀プラン“新たな展開” らくなん進都（高度集積地区）まちづくり推進プログラム 新・京都市南部創造まちづくり推進プラン 京都駅南口周辺地区まちづくり指針 次期京都市都市計画マスタープラン 新京都市住宅マスタープラン 「京都水族館（仮称）整備構想」に係る答申 新「京都市動物園構想」 京都会馆再整備基本構想 岡崎地域活性化構想（仮称） 未来・京都観光振興推進計画～2010^{＋5} 京都市 MICE 戦略 京都市国際化推進プラン 新京都市産業振興ビジョン コンテンツビジネス産業振興施策 京都市立芸術大学整備・改革基本計画 京都市伝統産業活性化推進計画 新農林行政基本方針 京都文化芸術都市創生計画 第4次きょうと男女共同参画推進プラン 子ども・若者総合支援 京都市未来子どもプラン（仮称） 京都市道徳教育振興会議からのメッセージ「しなやかな道徳教育を！」 京都市キャリア教育スタンダード「生き方探求教育」 食育推進プラン 京都市ユースアクションプラン（第3次京都市青少年育成計画） 大学のまち京都・学生のまち京都推進計画 京都文化芸術都市創生計画 子どもを共に育む京都市民憲章（人づくり21世紀委員会提言） 京（みやこ）・地域福祉推進指針 地域コミュニティ活性化に関する懇話会 新京都市市民参加推進計画 京（みやこ）・地域福祉推進指針 第4期京都市民長寿すこやかプラン 支えあうまち・京（みやこ）のほほえみプラン（京都市障害保健福祉推進計画） 第2期京都市障害福祉計画 京都市交通バリアフリー全体構想 第4次きょうと男女共同参画推進プラン 新世紀「スポーツごころ」推進プラン（京都市市民スポーツ振興計画） 京都市民健康づくりプラン（中間評価及び見直し）
	環境 市民生活 文化	産業・商業 農林業 観光	地域福祉 学校教育 生涯学習	都市づくり 景観 歩くまち 都市基盤 住宅 消防・防災・都市づくり（建築物の安心安全） くらしの水		
	環境 市民生活 文化 スポーツ	産業・商業 農林業 観光	学校教育 生涯学習	景観 都市基盤		

備考 下線を引いてある計画は策定中のもの

- ◆ 分野数
組織のマネジメントに活用しやすいよう、原則として各局の部・室を単位に次の25分野（政策評価の対象単位）を基本とする。

うるおい部会(6)	活性化部会(5)	すこやか部会(7)	まちづくり部会(7)
- 環境 - 人権・男女共同参画社会 - 青少年対策 - 市民生活 - 文化 - スポーツ	- 産業・商業 - 農林業 - 観光 - 大学 - 国際化	- 子育て支援 - 障害者福祉 - 地域福祉 - 高齢者福祉 - 保健医療 - 学校教育 - 生涯学習	- 都市づくり - 景観 - 都市基盤 - 住宅 - 歩くまち - 消防・防災・都市づくり(建築物の安心安全) - くらしの水

分野別方針（素案）イメージ

分野別方針 ○ ○ ○（分野名） ～キャッチフレーズ～

基本方針

【記載事項】

- 現状と課題を踏まえ、キャッチフレーズに掲げた方向性の実現に向け今後10年間で取り組むべき方向性（基本的考え、価値観等）を記載

【作成方法】

- 委員意見をはじめ、分野別計画等を踏まえて素案を作成し、第5回共汗部会で審議

【記載事項】

- 当該分野で目指すべき方向性などを端的に示すキャッチフレーズを記載

【作成方法】

- 分野別計画に掲げた目標等から素案を作成し、第5回共汗部会で審議

現状・課題（政策の背景）

【記載事項】

- 当該分野の現状と課題を端的に記載
- 現状については、統計データ等の客観的な数値を示しつつ、これまでの動向、将来の傾向などを記載
- 併せて今後取り組むべき課題を記載
- 可能な限り現状や課題に関するデータ、グラフ、写真等を記載

【作成方法】

- 第2回～4回共汗部会提示資料の「現状と課題」をベースに委員意見を踏まえて素案を作成し、第5回共汗部会で審議

現状と課題関連グラフ、写真等

現状と課題関連グラフ、写真等

現状と課題関連グラフ、写真等

現状と課題関連グラフ、写真等

政策の目標

<みんなで目指す10年後の姿>

【記載事項】

- 市民と行政が共汗で実現する10年後のあるべき姿（政策が実現した状態）を記載
- 語尾は「…となっている。」とする

【作成方法】

- 委員意見をはじめ、分野別計画等を踏まえて素案を作成し、第5回共汗部会で審議

【記載事項】

- 「みんなで目指す10年後の姿」に対応し、その達成度合い（政策の最終の成果（最終アウトカム）に着目した定量的なもの）を示す象徴的な指標を3～5程度記載
- 指標には現況値と10年後に実現すべき目標値を記載（現況値は最新時点のものを記載。なお、パブリック・コメント等の節目で時点修正）

【作成方法】

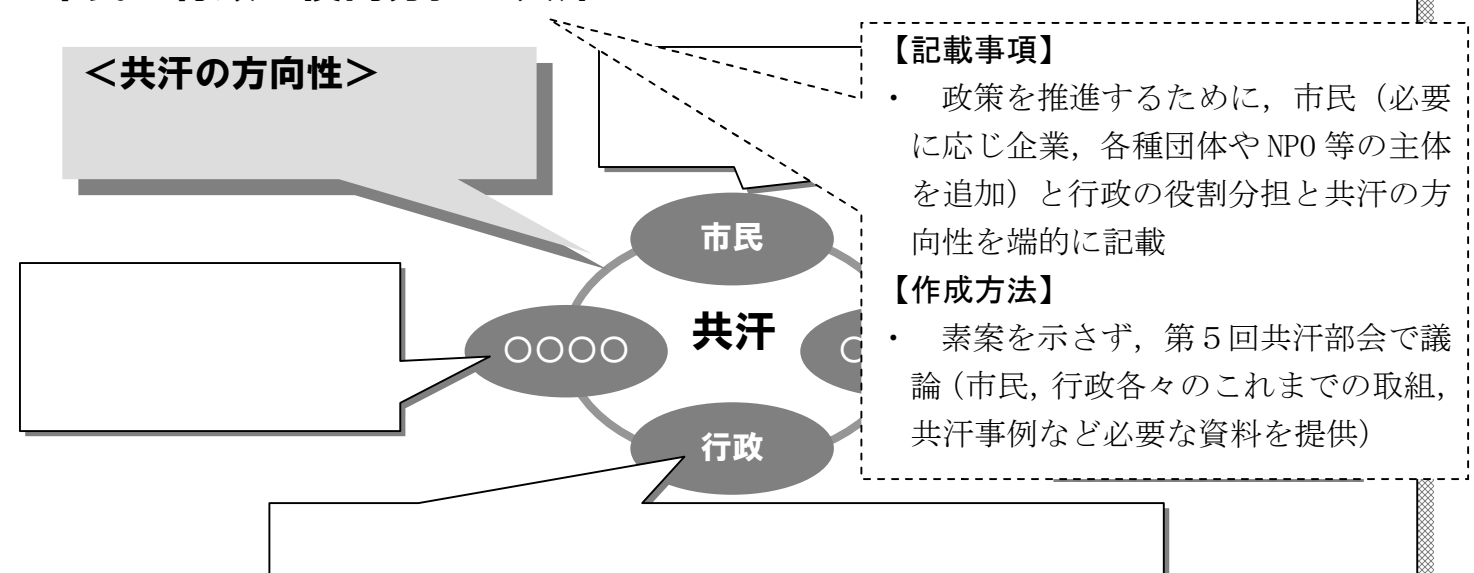
- 委員意見をはじめ、分野別計画等を踏まえて素案を作成し、第5回共汗部会で審議

<政策指標>

	指標	現況値	目標値
1			
2			
3			
4			

市民と行政の役割分担と共汗

<共汗の方向性>



【記載事項】

- 政策を推進するために、市民（必要に応じ企業、各種団体やNPO等の主体を追加）と行政の役割分担と共汗の方向性を端的に記載

【作成方法】

- 素案を示さず、第5回共汗部会で議論（市民、行政各々のこれまでの取組、共汗事例など必要な資料を提供）

※ 第2次案に記載（第6回～第8回共汗部会で議論）

推進施策

【記載事項】

・ 政策目標を達成するための取組を簡潔に記載

※ 原則として「手段」としての個別の事業は掲載しない。

【作成方法】

・ 分野別計画や委員意見等を踏まえて作成

＜施策指標＞

【記載事項】

・ 施策ごとに政策の実現に向けた中間的成果（中間アウトカム）に着目した指標を記載（※ 目標値は実施計画や分野別計画にゆだねるため記載しない）

【作成方法】

・ 委員意見をはじめ，分野別計画等を踏まえて作成

関連する分野別計画

【記載事項】

・ 当該分野に関連する分野別計画名を記載